ONKYO®

AV センター

TX-SA806X
TX-NA906X

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

- ■ 各種サラウンド方式に対応した 7.1 チャンネルアンプ
- ■ HDMI 1.3a 規格 オーディオ / ビデオプロセス（Deep Color、x.v.Color[*1]、Lip Sync）、DTS[*2]-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD[*3]、SA-CD(Supper Audio-CD)、Multi-CH PCM 再生可能
- ■ DSD ダイレクト再生可能
- ■ THX Ultra2 Plus[*4] 規格に準拠
- ■ Neural THX[*5] 再生可能
- ■ 2 つまたは 3 つのスピーカーでもバーチャル 5.1 サラウンドが楽しめる T-D（Theater-Dimensional[*6]）モード搭載
- ■ MPEG-2 AAC[*7] サラウンド再生可能
- ■ HDMI 経由で入力された映像信号をより上位の解像度にアップスケーリングする HQV Reon-VX ビデオプロセッサ搭載
- ■ ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできる「Pure Audio」リスニングモード搭載
- ■ 高音域が強調された劇場用サウンドをご家庭で適切なバランスに補正する「Re-EQ[*8]」機能
- ■ LFEch を持たないソースでもサブウーファーを効果的に動作させる「ダブルバス」回路
- ■ 小音量でもサラウンドを楽しめる LATE NIGHT 機能（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD 時のみ）
- ■ Burr-Brown 社製 24bit/192kHz D / Aコンバーター搭載
- ■ 極めて高い演算能力を持つ TI 社製 32bit DSP（Digital Signal Processor）「Aureus ™」を搭載
- ■ 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する VLSC[*9]（Vector Linear Shaping Circuitry）を全チャンネルに搭載
- ■ 再生周波数の広帯域化を図る WRAT（ワイド·レンジ·アンプリファイアー・テクノロジー）
- ■ システムを制御するオンキヨー RIHD（Remote Interactive over HDMI）搭載
- ■ ダウンミックスによるフロント L/R チャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N 劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
- ■ デジタル音声 / 映像信号を 1 本のケーブルで伝送可能な HDMI[*10] 入力 4 系統、出力 2 系統装備
- ■ ビデオ（コンポジット）、S ビデオ信号、D4/ コンポーネント端子からの入力信号を HDMI 出力端子に出力するビデオコンバーター搭載[*11]
- ■ D4/ コンポーネント映像入力端子各 3 系統、出力端子各 1 系統装備
- ■ S 映像入力端子 6 系統 / 出力端子 2 系統装備
- ■ 7.1 マルチチャンネル入力端子／プリアウト出力端子装備、DVD-Audio プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーへの拡張性を実現
- ■ デジタル入力端子として光 3 系統 / 同軸 3 系統、デジタル出力端子として光 1 系統装備
- ■ 圧縮された音楽ファイルをより良い音で楽しむ Music Optimizer ™[*12] 機能搭載
- ■ ISF ビデオ・キャリブレーション機能搭載
- ■ スピーカーの出力を約二倍にできる BTL (Bridged Transless) 接続が可能
- ■ 精度の高い高音域、低音域を実現するバイアンプ接続が可能
- ■ 音声と映像のズレを補正する A/V シンクコントロール機能搭載
- ■ モニターを見ながら、簡単設定ができる OSD（オンスクリーンディスプレイ）機能
- ■ 付属の測定用マイクで精密な簡単スピーカー（Audyssey MultEQ™ XT[*13]）設定可能
- ■ 小音量でもサラウンドを楽しめる Audyssey Dynamic EQ™[*13] Loudness Correction 機能搭載
- ■ 音量の大小を即時に調整する Audyssey Dynamic Volume™[*13]
- ■ 他機の操作を可能にするマクロ機能搭載のリモコン付属

TX-NA906X のみ

- ■ Windows Media® Connect 対応
- ■ Ethernet、USB 経由で MP3、WAV、WMA、MPEG4 AAC フォーマットの音楽ファイルを再生可能
- ■ インターネットラジオ受信可能（vTuner 対応）

＊1　x.v.Color は、ソニー株式会社の商標です。

＊2　dts-HD Master Audio　以下の米国の特許権に基づき製造されています。US パテント Nos、5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535、また米国以外および世界的な登録または未定の特許。
“DTS” は DTS 社の登録商標です。そして DTS ロゴ、シンボル、DTS-HD および DTS-HD マスターオーディオは DTS 社の商標です。©1996 ～ 2007 DTS 社（保有されるすべての権利を含む）

＊3　DOLBY TRUE HD　ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic”、“TrueHD” およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

＊4　THX ULTRA 2 PLUS　THX および Ultra2 Plus は、THX 社の商標または登録商標です。Surround EX はドルビーラボラトリーズの登録商標です。

＊5　neural SURROUND THX TECHNOLOGIES　Neural Surround は Neural Audio Corporation の商標です。
THX は THX Ltd 社の商標です。

＊6　Theater-Dimensional　Theater-Dimensional は、オンキヨー株式会社の商標です。

＊7　AAC ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

＊8　Re-Equalization、Re-EQ のロゴは THX 社の商標です。

＊9　VECTOR LINEAR SHAPING CIRCUITRY　VLSC は、オンキヨー株式会社の登録商標です。

＊10　HDMI　HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

＊11　本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障されたマクロビジョンコーポレーションの許可が必要な著作権保護技術を搭載しており、改造または分解は禁止されています。
U.S. パテント Nos. 4, 631, 603; 4, 577, 216; 4, 819, 098; 4, 907, 093; 5, 315, 448; 6, 516, 132

＊12　Music Optimizer は、オンキヨー株式会社の商標です。

＊13　AUDYSSEY MULTEQ XT DYNAMIC EQ DYNAMIC VOLUME　Audyssey Laboratories からの実施権に基づき製造されています。Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic Volume ™、または Audyssey Dynamic EQ ™は Audyssey Laboratories の商標です。

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Mobile、Windows Media、ActiveSync、DirectX および Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Intel および Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

THX Ultra2 Plus

THX Ultra2 Plus の認証を取得したホーム･シアター･コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質 / 性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されている THX Ultra2 Plus のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Ultra2 Plus の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル / アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。また THX Ultra2 Plus レシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム･シアターで再現するための特許技術である、THX 技術 (THX モード) を備えています。

AAC パテントマーキング

Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225 5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671 07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036 5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547 5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087 5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

箱の中身を確認する

■ 付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

リモコン
（RC-689M、RC-692M）…（1）
乾電池（単三形、R6）…（3）

スピーカーコード用
ラベル…（1）

簡単スピーカー設定用
マイク…（1）

電源コード（2m）…（1）

取扱説明書（本書）…（1）
保証書…（1）
簡単スタートガイド…（1）
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内…（1）
ユーザー登録カード…（1）

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

修理を依頼する前に

本機をリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことでトラブルが解消されることがあります。電源を入れた状態で本体の VCR/DVR（ビデオ DVDレコーダー）ボタンを押したまま、ON/STANDBY（オン スタンバイ）ボタンを押してリセットしてください。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⦸ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠ 警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにアンプの電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

■ ETHERNET ポートには電話回線を接続しない

禁止

本機の ETHERNET ポートに以下のネットワークや回線を接続すると、必要以上の電流が流れ、故障や火災の原因となります。

- 一般電話回線
- デジタル式構内交換機（PBX）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出･断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告

■ 電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。
電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■ 本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ 長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■ 乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス+とマイナス−の向き）に注意し、表示通りに入れる

■ 電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

注意

接続、設置に関するご注意

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ 配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■ 電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

注意

■ 長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

必ずする

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■ お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■ 通風孔の温度上昇に注意

注意

本機通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ 音量に注意する

必ずする

突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■ 長時間大きな音でヘッドホンを使用しない

禁止

聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動時のご注意

■ 移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因になります。

■ 持ち運びは2人以上で行う

必ずする

本機は非常に重いので、持ち運びは 2 人以上で行ってください。

■ 機器内部の点検について

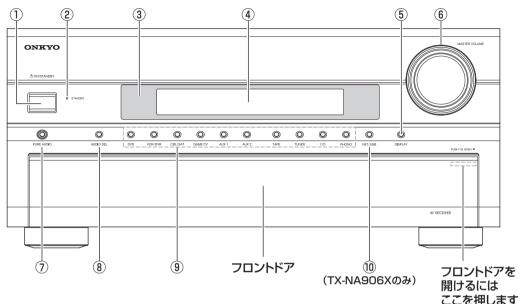
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ 本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　〕内のページに主な説明があります。

① ON/STANDBY ボタン〔48〕
主電源が入っているときに、電源のオン / スタンバイを切り換えます。

② STANDBY インジケーター〔48〕
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

③ リモコン受光部〔20〕
リモコンからの信号を受信します。

④ 表示部
11 ページをご覧ください。

⑤ DISPLAY ボタン〔71〕
表示部の情報を切り換えます。

⑥ MASTER VOLUME つまみ／インジケーター〔67〕
音量を調整します。
音量は基本的に−∞ dB・− 81.5dB…+ 18.0dB の範囲で調整できます（「ボリューム表示」を「相対値」に設定時）。
絶対値として音量表示するには、ボリューム表示の設定（☞ 105 ページ）をご覧ください。

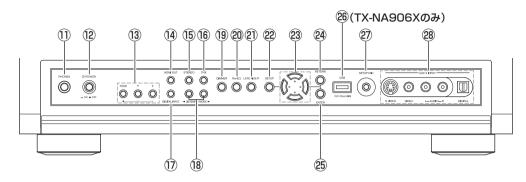
⑦ PURE AUDIO ボタン／インジケーター〔72〕
リスニングモードを「Pure Audio」にします。
リスニングモードが「Pure Audio」のとき、インジケーターが点灯します。
もう 1 度押すと、1 つ前に選んでいたリスニングモードに戻ります。

⑧ AUDIO SEL ボタン〔109〕
本機で再生する音声入力信号をアナログ、デジタル、HDMI、マルチチャンネルから選択します。

⑨ 入力切換ボタン（DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME/TV、AUX 1、AUX 2、TAPE、TUNER、CD、PHONO）〔67〕
再生する機器を選びます。

⑩ NET/USB ボタン（TX-NA906X のみ）〔110〕
NET/USB 機能の画面を表示します。ボタンを押すたびに「ネットワークサーバー」「USB」「インターネットラジオ」が切り替わります。

本体、リモコンボタンの名前と働き

■ 前面パネルフロントドア内ボタンおよび端子

⑪ PHONES（フォーンズ）端子〔68〕

標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑫ POWER（パワー）スイッチ〔48〕

本機の主電源を入／切します。

主電源が入ると、STANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

⑬ TONE（トーン）、＋ / －ボタン〔70〕

高音、低音を調整するときに使用します。

⑭ HDMI OUT（アウト）ボタン〔49〕

モニター出力設定（Monitor（モニター） Out（アウト））を切り換えます。

⑮ STEREO（ステレオ）ボタン〔72〕

リスニングモードをステレオにします。

⑯ THX ボタン〔72〕

THX のリスニングモードを選びます。

⑰ DIGITAL（デジタル） INPUT（インプット）ボタン〔59〕

デジタル音声入力を入力切換ボタンに設定します。

⑱ LISTENING（リスニング） MODE（モード） ◄/► ボタン〔72〕

リスニングモードを選びます。

⑲ DIMMER（ディマー）ボタン〔68〕

表示部の明るさを切り換えます。

⑳ Re-EQ（リ イーキュー）ボタン〔97〕

Re-EQ 機能をオン／オフします。

㉑ LATE（レイト） NIGHT（ナイト）ボタン〔97〕

レイトナイト機能をオン／オフします。

㉒ SETUP（セット アップ）ボタン

本機の設定を行います。

㉓ カーソル ▲/▼/◄/► ボタン

設定項目を選択します。

㉔ RETURN（リターン）ボタン

設定中に 1 つ前の表示に戻します。

㉕ ENTER（エンター）ボタン

選択している設定項目を確定するときに押します。

㉖ USB 端子（TX-NA906X のみ）〔116〕

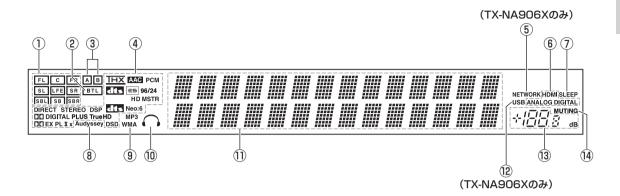
USB ストレージ（USB メモリーなど）を接続して、中に入っている音楽ファイル（MP3、WMA、WAV、AAC）を再生できます。

㉗ SETUP（セットアップ） MIC（マイク）端子〔61〕

付属の簡単スピーカー設定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置などを検出します。

㉘ AUX 2 INPUT（インプット）端子〔41、69〕

ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

表示部

① スピーカー／チャンネルインジケーター

本機のスピーカー環境設定と入力信号のチャンネルを表示します。

- □ はスピーカー環境設定で選択しているスピーカーを示します。
- 下記は入力信号に含まれているチャンネルを示します。
  - FL ：左フロントスピーカー
  - C ：センタースピーカー
  - FR ：右フロントスピーカー
  - SL ：左サラウンドスピーカー
  - LFE ：サブウーファー
  - SR ：右サラウンドスピーカー
  - SBL ：左サラウンドバックスピーカー
  - SB ：サラウンドバックスピーカー
  - SBR ：右サラウンドバックスピーカー

② BTL インジケーター 〔26〕

選択されているフロントスピーカーが BTL 接続用に設定されていると点灯します。

③ スピーカー A/B インジケーター（TX-NA906X のみ）〔22〕

選択されているスピーカーセット A または B を表示します。

④ リスニングモード／入力信号フォーマット表示〔72、73〕

入力されているデジタル信号の種類およびリスニングモードを表示します。

⑤ NETWORK（ネットワーク） インジケーター（TX-NA906X のみ）

NET/USB モードで「ネットワークサーバー」または「インターネットラジオ」が選ばれているとき、本機がホームネットワーク（LAN（ラン））に接続されていると点灯します。正しく接続されていないときは点滅します。

⑥ 音声信号表示〔71、109〕

選択している音声入力信号の種類（HDMI/ANALOG（アナログ）/DIGITAL（デジタル））を表示します。

⑦ SLEEP（スリープ） 表示〔68〕

スリープタイマーが設定されているときに点灯します。

⑧ Audyssey（オデッセイ） 表示〔61〕

簡単スピーカー測定中に点滅します。また、スピーカーの音場補正の設定で、Audyssey に設定していると点灯します。

⑨ MP3/WMA インジケーター（TX-NA906X のみ）

再生中の音楽ファイルが MP3 または WMA の場合、そのファイルフォーマットを表示します。

⑩ ヘッドホン表示〔68〕

ステレオヘッドホンを PHONES（フォーンズ） 端子に接続すると点灯します。

⑪ 多目的表示部

入力ソース、リスニングモード、HDMI モニター設定など各種の情報を表示します。

⑫ USB インジケーター（TX-NA906X のみ）〔116〕

NET/USB モードで「USB」が選ばれているとき、USB ストレージ（USB メモリーなど）が接続されていると点灯します。

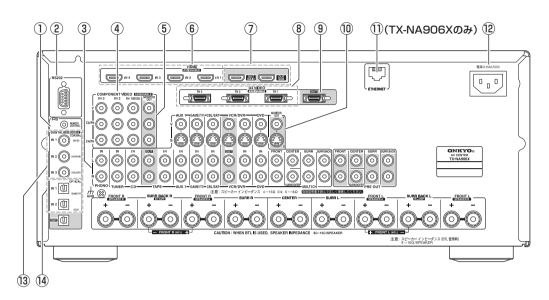
⑬ ボリュームレベル〔67〕

音量を表示します。

⑭ MUTING（ミューティング） 表示〔68〕

ミューティングが働いているときに点滅します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

後面パネル

① RI REMOTE CONTROL 端子

RI 端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。

RI ケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

② RS232 コネクター

③ PHONO IN 端子

レコードプレーヤーと接続します。本機はムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。

④ COMPONENT VIDEO IN 1/2/3 端子

接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子です。S 映像より良い画質が得られます。

⑤ COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子

本機からコンポーネント映像を出力する端子です。

S 映像より良い画質が得られます。

⑥ HDMI IN 1/2/3/4 端子

接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力します。IN 1～IN 4 の各端子は接続機器に合わせて入力切換ボタンに割り当てることができます。

⑦ HDMI OUT MAIN/SUB 端子

本機からデジタル映像信号をテレビに出力する端子です。

MAIN/SUB のどちらから出力するかは、「モニター出力設定」で切り替えます(☞ 49、52 ページ)。

「TV オーディオ出力」設定を "オン" にすると、音声信号を TV に出力できます(☞ 107 ページ)。

HDMI OUT MAIN に接続した機器は、本機と連動させることができます(☞ 108 ページ)。

⑧ D4 VIDEO IN 1/2/3 端子

接続した機器から D 映像を入力する端子です。

S 映像より良い画質が得られます。

⑨ D4 VIDEO OUT 端子

本機から D 映像を出力する端子です。

S 映像より良い画質が得られます。

⑩ MONITOR OUT 端子

接続しているモニターやテレビにビデオ映像（V 端子）、S 映像(S 端子)を出力する端子です。

⑪ ETHERNET 端子(TX-NA906X のみ)

ホームネットワーク（LAN）と接続するための端子です。

イーサネットケーブルを使ってルータやハブに接続します。

⑫ AC INLET

付属の電源コードを接続します。

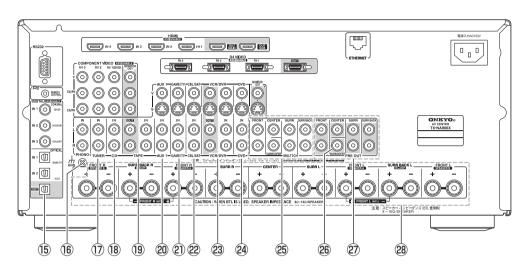
⑬ DIGITAL COAXIAL IN 1/2/3 端子

デジタル音声の入力端子です。

デジタル再生機器を接続します。

⑭ DIGITAL OPTICAL IN 1/2 端子

デジタル音声の入力端子です。

デジタル再生機器を接続します。

⑮ DIGITAL OPTICAL OUT 端子
デジタル音声の出力端子です。
デジタル録音機器を接続します。

⑯ GND 端子
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

⑰ TUNER IN 端子
チューナーを接続します。

⑱ CD IN 端子
CD プレーヤーを接続します。

⑲ TAPE IN/OUT 端子
テープデッキ、MD レコーダーなどの録音機器や iPod 用オンキヨー RI ドックを接続します。

⑳ AUX 1 IN 端子
LD プレーヤーや BS チューナー、iPod 用オンキヨー RI ドックなどを接続します。
接続した機器の映像をコンポジット端子（V）または S 端子に、音声を L/R 端子に入力します。

㉑ GAME/TV IN 端子
ゲーム機やテレビなどを接続します。
接続した機器の映像をコンポジット端子（V）または S 端子に、音声を L/R 端子に入力します。

㉒ CBL/SAT IN 端子
BS チューナーやケーブルチューナーなどを接続します。
接続した機器の映像をコンポジット端子（V）または S 端子に、音声を L/R 端子に入力します。

㉓ VCR/DVR IN/OUT 端子
ビデオデッキや DVD レコーダーなどを接続します。
接続した機器の映像をコンポジット端子（V）または S 端子に、音声を L/R 端子に接続します。

㉔ DVD IN 端子
DVD プレーヤーなどを接続します。
接続した機器の映像を V 端子または S 端子に、音声をコンポジット（L/R）端子に入力します。

㉕ MULTI CH 入力端子
マルチチャンネル出力に対応した DVD プレーヤーなどを接続します。

㉖ SUBWOOFER PRE OUT 端子
アンプ内蔵サブウーファーと接続します。

㉗ PRE OUT 端子
本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプと接続します。

㉘ スピーカー端子
スピーカーを接続します。
SPEAKER B FRONT L/R 端子に接続したスピーカーは、SPEAKER A FRONT L/R 端子に接続したスピーカーと切り替えて使用できます（TX-NA906X のみ）。

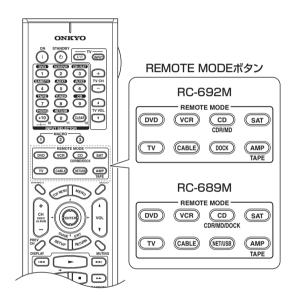
接続については、24 ～ 48 ページをご覧ください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコン（TX-SA806X:RC-692M/TX-NA906X:RC-689M）

REMOTE MODE ボタン

REMOTE MODE ボタンでリモートモードを切り換えると、本機に付属のリモコンで、他の AV 機器を操作できるようになります。操作する機器に合わせて、リモートモードを切り換えてください。

- 本機以外の機器を操作するには、ご使用になる機器に合わせて、あらかじめ各ボタンに 4 桁のリモコンコードを登録する必要があります。詳しくは 121 ～ 123 ページをご覧ください。

1	**操作する機器にあわせて、REMOTE MODE ボタンを押す**
2 AMP TAPE	**選択したボタンが、数秒間点灯します** 操作の際も、ボタンを押すたびに、選択しているモードのボタンが点灯します。

■ **AMP/TAPE モード .... 15 ～ 16 ページ**

本機を操作できます。RI 接続 * した、オンキヨー製チューナーやカセットデッキもこのモードで操作できます（☞ 16 ページ）。

AMP TAPE

* RI 接続については 46 ページをご覧ください。

■ **CD/CDR/MD モード .... 16 ページ**

お買い上げ時の設定では、オンキヨー製 CD プレーヤーがこのボタンに登録されています。リモコンコードを変更することで、オンキヨー製 CD レコーダーや MD レコーダー、他メーカー製の録音機器のいずれかを操作できます。

RC-692M CD CDR/MD
RC-689M CD CDR/MD/DOCK

■ **DVD モード .... 17 ページ**

お買い上げ時の設定では、オンキヨー製 DVD プレーヤーがこのボタンに登録されています。リモコンコードを変更することで、他メーカー製の DVD プレーヤー、DVD レコーダーのいずれかを操作できます。

DVD

■ **DOCK モード .... 18 ページ**

リモコンコードを変更することで、iPod 用オンキヨー RI ドックを操作できます。

RC-692M DOCK
RC-689M CD CDR/MD/DOCK

■ **NET/USB モード（TX-NA906X のみ）.. 19 ページ**

パソコンや USB メモリーなどに入っている音楽ファイルを再生したり、インターネットラジオを聴いたりできます。

NET/USB

■ **TV モード ....124 ページ**

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のテレビを操作できます。

TV

■ **VCR モード ....124 ページ**

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のビデオデッキを操作できます。

VCR

■ **SAT モード .... 125 ページ**

リモコンコードを登録することで、他メーカー製の BS チューナーを操作できます。

SAT

■ **CABLE モード ....125 ページ**

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のケーブルテレビチューナーを操作できます。

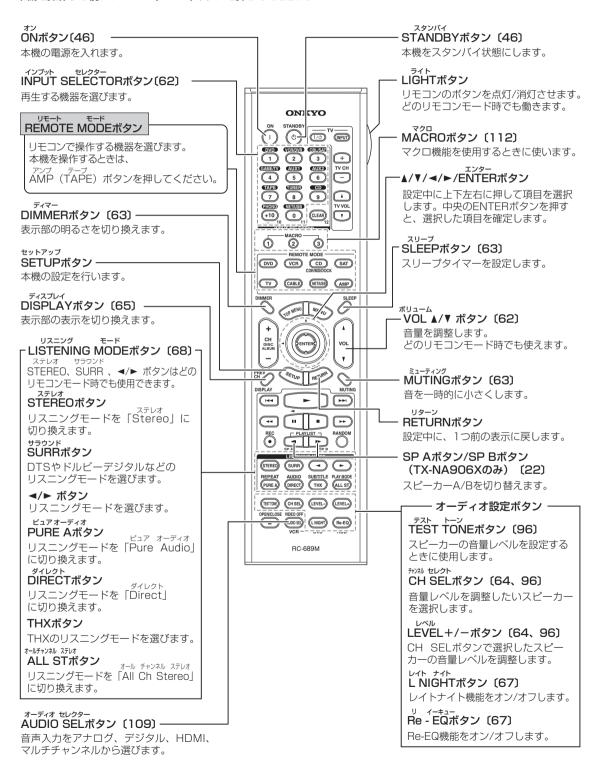
CABLE

ご注意

- 製品によっては、動作しない場合があります。

AMPモード（本機を操作するとき）

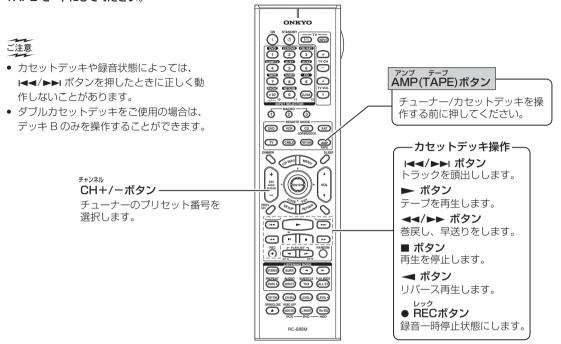
〔　〕内のページに主な説明があります。

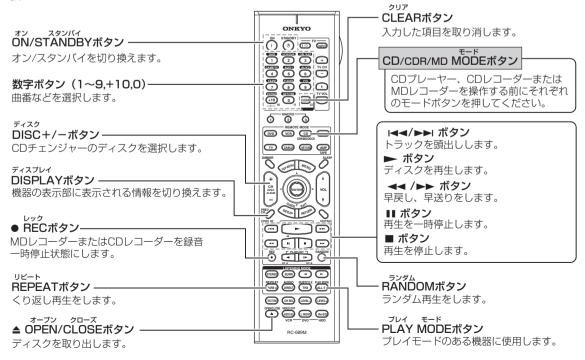
本機を操作する前に、AMP（TAPE）ボタンを押してください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

TAPE モード（本機に RI 接続したチューナー／カセットデッキを操作するとき）

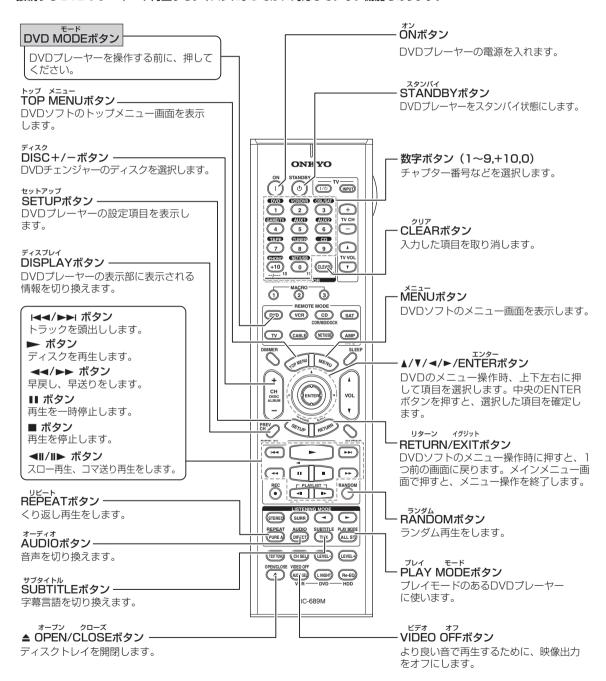
RI 接続したチューナーやカセットデッキを操作する前に、REMOTE MODE AMP（TAPE）ボタンを押して、リモコンを TAPE モードにしてください。

ご注意

- カセットデッキや録音状態によっては、⏮/⏭ ボタンを押したときに正しく動作しないことがあります。
- ダブルカセットデッキをご使用の場合は、デッキ B のみを操作することができます。

CD/CDR/MD モード（本機に接続した CD プレーヤー、CD レコーダーや MD レコーダーを操作するとき）

MD レコーダー、CD レコーダーを操作するときは、121 ページでリモコンコードを登録して、59 ページで入力表示を切り換えてください。

お買い上げ時の設定では、オンキヨー製 DVD プレーヤーを操作することができます。他社の製品を操作するときは、121 ページでリモコンコードを登録してください。

DVD モード（本機に接続した DVD プレーヤーを操作するとき）

接続する DVD プレーヤーや再生するディスクによっては、対応していない機能もあります。

本体、リモコンボタンの名前と働き

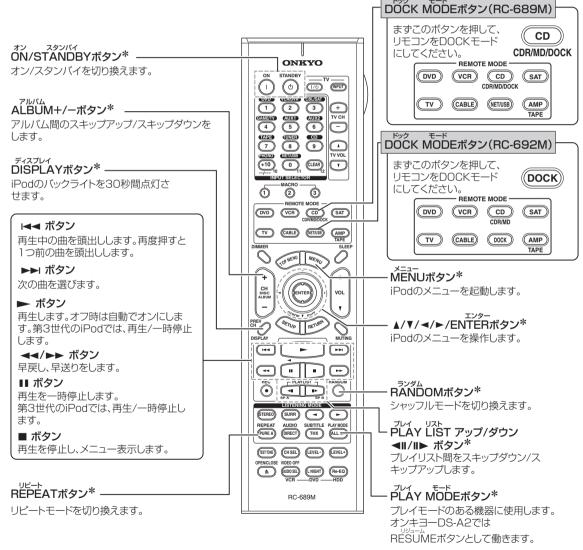
DOCK モード（本機と RI 接続したオンキヨー RI ドックに搭載した iPod を操作するとき）

DOCK モードで RI 接続したオンキヨー RI ドックに搭載した iPod が操作できます。

RI ドックを組み合わせるときは：

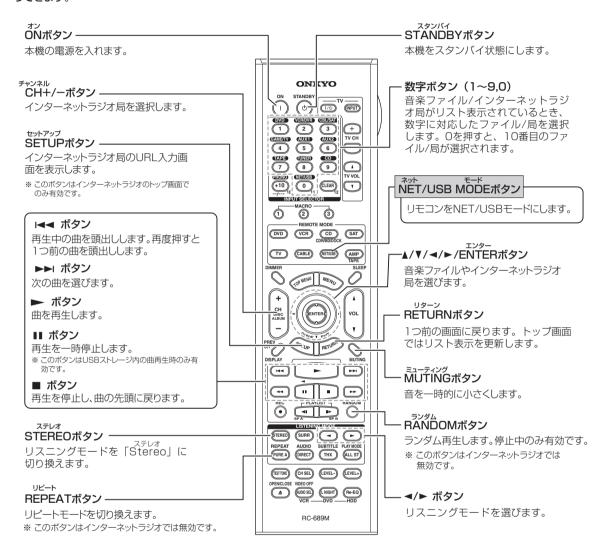
1. 本機の TAPE IN 端子または AUX 1 端子に接続する
2. RI ドックの RI MODE 切換スイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に合わせる
3. 入力表示を「DOCK」に切り換える（☞59 ページ）

ご注意

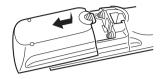
- 本機に付属のリモコンでオンキヨー RI ドックを操作するには、最初に 4 桁のリモコンコード「6004」を登録する必要があります
（☞ 121 ページ）。リモコンは本機に向けて操作します。

ご注意

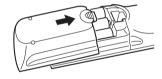
- ＊のついているボタンは、第 3 世代の iPod では使用できません。
- DS-A1 の取扱説明書もご覧ください。
- iPod は、米国及びその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

NET/USB モード（TX-NA906X のみ）
（ネットワークサーバー、USB、インターネットラジオを操作するとき）

NET/USB モードでパソコンや USB メモリーなどに入っている音楽ファイルを再生したり、インターネットラジオを聴いたりできます。

本体、リモコンボタンの名前と働き

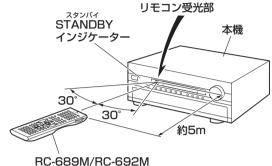
乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池 3 個を+（プラス）と−（マイナス）を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して 3 本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単 3 形をご使用ください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機の STANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

ご注意

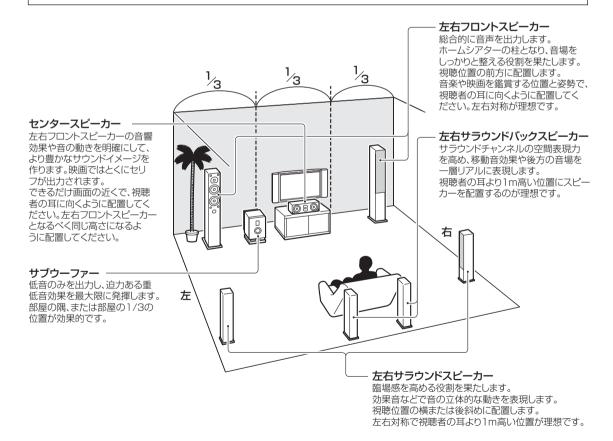
- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

ホームシアター

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生する信号によって、DTS やドルビーデジタル、ドルビープロロジックⅡx、DTS Neo:6 の再生やオンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。
THX のリスニングモードを聞くときは、THX 社認定スピーカーのご使用をおすすめします。

スピーカーの使いかた

2 つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。（2 チャンネル再生）
3 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。（3 チャンネルサラウンド）
4 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。（4 チャンネルサラウンド）
5 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。（5 チャンネルサラウンド）
6 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。（6 チャンネルサラウンド）
7 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。（7 チャンネルサラウンド）
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。（○ .1 チャンネル再生）

- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の簡単スピーカー設定用マイクを使って簡単スピーカー設定を行ってください。（☞ 61 ページ）

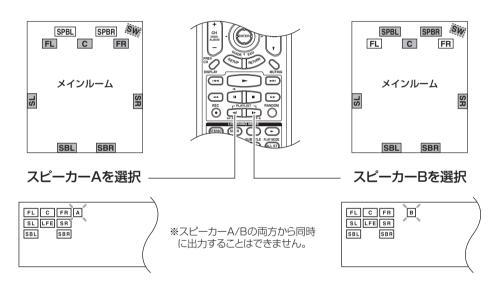
スピーカーを切り替えて使用する（TX-NA906X のみ）

本機で可能な接続例

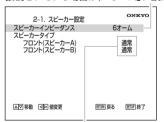
本機は、再生するソースや視聴環境に柔軟に対応できるよう、フロントスピーカー [A] と [B] を切り替えて使用できます。

※ 以下のイラストでは、アクティブ（使用可能）なスピーカーを、灰色で表しています。
※ FL、FR などのアルファベットの意味は次の通りです。
FL : 左フロント、FR : 右フロント、C : センター、SL : 左サラウンド、SW : サブウーファー、SR : 右サラウンド、
SBL : 左サラウンドバック、SBR : 右サラウンドバック、SPBL: 左スピーカー B、SPBR: 右スピーカー B

接続例 1: 1 つの部屋でフロントスピーカーを切り替えて使用する

メインルームに 2 系統のフロントスピーカーを配置すれば、映画は 7.1ch サラウンド再生で、クラシック音楽はステレオ再生でといった風に楽しむこともできます。また、1 系統のフロントスピーカーをバイアンプ接続または BTL 接続して、バイアンプ接続したフロントスピーカーと通常の接続をしたフロントスピーカーを切り替えて使用したり、BTL 接続したフロントスピーカーと通常の接続をしたフロントスピーカーを切り替えて使用したりすることもできます。

設定

スピーカーを切り替えて使用するには、「スピーカー設定」と、スピーカー B の「スピーカーコンフィグ設定」を次のように設定します。

4Ω以上6Ω未満のスピーカーが1台でも接続されている場合は「4オーム」に設定

スピーカーA/Bの接続状況に合わせて、「通常」、「バイアンプ」、「BTL」から選択

設定画面を開く前に、リモコンのSP Bボタンを押して、スピーカーBを選択しておく

スピーカーBのクロスオーバー周波数を設定

スピーカーBで使用するスピーカーを選択

※ スピーカー A の「スピーカーコンフィグ設定」はメインルームの視聴環境に合わせてください。簡単スピーカー設定（Audyssey MultEQ® XT）を使うと、この設定を自動で行うことができます（☞ 61 ページ）。
※ 設定方法についての詳細は、58、85 ～ 87 ページをご覧ください。
※ スピーカーの接続（バイアンプ接続、BTL 接続を含む）については、24 ～ 27 ページをご覧ください。

接続例 2:　2 つの部屋で使用する

メインルームをホームシアター（7.1ch または 5.1ch）として使用し、別室を 2ch のステレオ環境で使用できます。

※スピーカーA/Bの両方から同時に出力することはできません。

設定

2 つの部屋でスピーカーを使用するには、「スピーカー設定」と、スピーカー B の「スピーカーコンフィグ設定」を次のように設定します。

※ スピーカー A の「スピーカーコンフィグ設定」はメインルームの視聴環境に合わせてください。簡単スピーカー設定（Audyssey MultEQ® XT）を使うと、この設定を自動で行うことができます（☞ 61 ページ）。
※ 設定方法についての詳細は、58、85 ～ 87 ページをご覧ください。
※ スピーカーの接続（バイアンプ接続、BTL 接続を含む）については、24 ～ 27 ページをご覧ください。

接続例 3:　スピーカー B を使用しない

メインルームにスピーカーを配置して、スピーカー A だけを使用します。
スピーカー B を使用しない場合は、「スピーカー設定」（☞ 58 ページ）でフロント（スピーカー B）を「未使用」に設定します。（初期設定では、この状態になっています。）
リモコンの SP B ボタンは無効になります。

※「スピーカーコンフィグ設定」（☞ 85 ページ）はメインルームの視聴環境に合わせてください。簡単スピーカー設定（Audyssey MultEQ XT）を使うと、この設定を自動で行うことができます（☞ 61 ページ）。
※ スピーカーの接続（バイアンプ接続、BTL 接続を含む）については、24 ～ 27 ページをご覧ください。

接続する

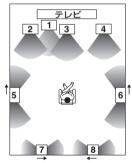
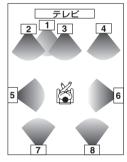
スピーカーを接続する

サラウンドバックスピーカーの配置について

サラウンドバックスピーカーは、7.1ch サラウンド再生を楽しむときに必要です。

設置例 1 は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、二つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

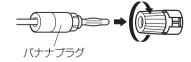
*位相：正弦波の 1 周期（0 ～ 360 度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、+、−の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

設置例 1

設置例 2

1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー

左右サラウンドバックスピーカーは、できるだけ間隔をあけずに配置してください。（THX 社推奨）

バナナプラグの使用について

バナナプラグを使用する場合、スピーカー端子を締めてからバナナプラグを挿入してください。

ご注意

● スピーカーコードの芯(しん)線をスピーカー端子のバナナプラグ用の穴にそのまま挿入しないでください。

スピーカーコード用ラベルの使いかた

本機はスピーカー端子の⊕側を色分けして識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。スピーカー端子は以下のように色分けしています。

左フロント	：白	左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
右フロント	：赤	右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
センター	：緑	センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド	：青	左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る
右サラウンド	：灰	右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る
左サラウンドバック	：茶	左サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る
右サラウンドバック	：ベージュ	右サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）にベージュのラベルを貼る

スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。
本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

① スピーカーコードの被覆を 15mm カットする

② 芯(しん)線の先端をしっかりとよじる

③ ねじをゆるめる

④ 芯(しん)線線を差し込む

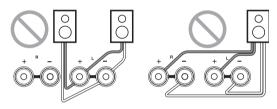
⑤ ねじを締め付ける

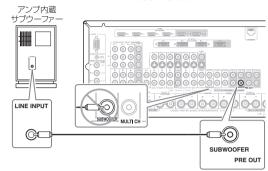
ご注意

● 芯(しん)線はしっかりとよじり、後面パネルなどの金属に接触しないようにしてください。

スピーカーの配置については「ホームシアターを楽しもう」(☞21 ページ)、「スピーカーを切り替えて使用する」(☞22 ページ) および「サラウンドバックスピーカーの配置について」(☞24 ページ)をご覧ください。
本機にはインピーダンスが 4 Ω〜 16 Ωのスピーカーを接続してください。ただし、インピーダンスが 4 Ω以上 6 Ω未満のスピーカーを 1 台でも接続するときは、58 ページで「スピーカーインピーダンス」を 4 オームに設定してください。

ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1 台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1 台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーを
PRE OUT: SUBWOOFER 端子に接続します。

!ヒント

- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または 1/3 の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。
- サブウーファーの設定については、66 ページの「アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合」の項をご覧ください。

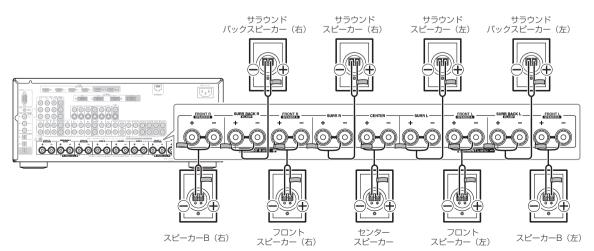
危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードの芯(しん)線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。
また、リアパネルにも触れないように、ご注意ください。

スピーカーコードはしっかりとよじってください。
銅線がリアパネルに触れるとショートする原因となります。

サラウンドバックスピーカーを1つだけ使用する場合は、SURR(サラウンド) BACK(バック) L 端子に接続してください。

5.1ch(チャンネル) の場合は、FRONT(フロント) L/R、CENTER(センター)、SURR L/R 端子に接続してください。

フロントスピーカーとスピーカー B を切り替えて使用する場合は、SPEAKER B FRONT L/R 端子にもスピーカーを接続してください。

フロントスピーカーを BTL 接続する

出力を大きくしたいとき、フロントスピーカー（またはスピーカー B）とサラウンドバックスピーカーの端子を使用して、ＢＴＬ（Bridged Transless）接続することができます。これは 2 つのアンプの出力をブリッジ接続して使用する方法で、通常の約二倍の出力を得ることができます。

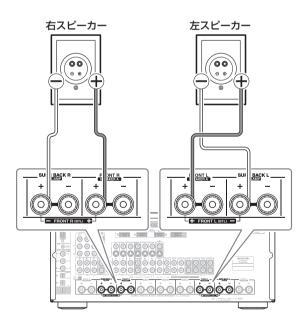
■ フロントスピーカーを BTL 接続する

ご注意

- BTL 接続時、本機は最大 2.1 チャンネルの再生となります。
- **BTL 接続にはインピーダンスが 8 Ω以上のスピーカーを使用してください。そうでないスピーカーを使用すると本機が損傷する場合があります。**

本機後面のスピーカーケーブルをすべて外し、本機の電源を入れて、OSD メニュー「スピーカータイプ」の「フロント（スピーカー A）」を「BTL」に設定します。

設定方法については、58 ページをご覧ください。

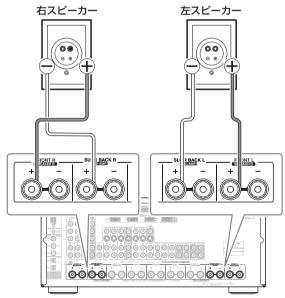
次に、本機の主電源を切り、下図のように FRONT L/R 端子、SURR BACK L/R 端子とスピーカーを接続します。

■ スピーカー B を BTL 接続する（TX-NA906X のみ）

ご注意

- BTL 接続時、本機は最大 2.1 チャンネルの再生となります。
- **BTL 接続にはインピーダンスが 8 Ω以上のスピーカーを使用してください。そうでないスピーカーを使用すると本機が損傷する場合があります。**

本機後面のスピーカーケーブルをすべて外し、本機の電源を入れて、OSD メニュー「スピーカータイプ」の「フロント（スピーカー B）」を「BTL」に設定します。

設定方法については、58 ページをご覧ください。

次に、本機の主電源を切り、下図のように SPEAKER B FRONT L/R 端子、SURR BACK L/R 端子とスピーカーを接続します。

フロントスピーカーをバイアンプ接続する

バイアンプ接続すると、高域と低域を分けてスピーカーに送ることができます。フロントスピーカーの端子から高域を、サラウンドバックスピーカーの端子から低域を出力することができます。

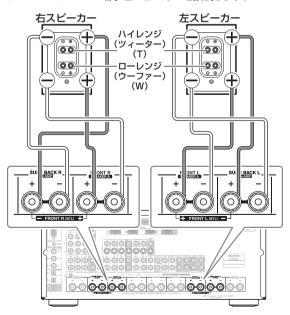
■ フロントスピーカーをバイアンプ接続する

ご注意

- バイアンプ接続に対応したスピーカー以外ではバイアンプ接続はできません。
- **バイアンプ接続では必ず FRONT L/R 端子はスピーカーのウーファー端子に、SURR BACK L/R 端子はスピーカーのツイーター端子にそれぞれ接続してください。**
- **バイアンプ接続ではスピーカーのウーファー端子とツイーター端子をつないでいるショートバーを必ず外してください。**
- バイアンプ接続時、本機は最大 5.1 チャンネルのサラウンド再生となります。

本機後面のスピーカーケーブルをすべて外し、本機の電源を入れて、OSD メニュー「スピーカータイプ」の「フロント（スピーカー A）」を「バイアンプ」に設定します。

設定方法については、58 ページをご覧ください。

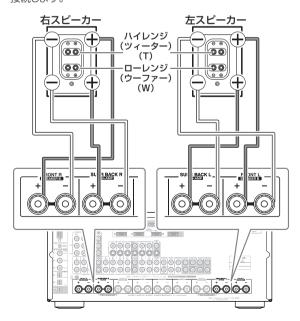
次に、本機の主電源を切り、下図のようにFRONT L/R端子、SURR BACK L/R 端子とスピーカーを接続します。

■ スピーカー B をバイアンプ接続する（TX-NA906X のみ）

ご注意

- バイアンプ接続に対応したスピーカー以外ではバイアンプ接続はできません。
- **バイアンプ接続では必ず SPEAKER B FRONT L/R 端子はスピーカーのツイーター端子に、SURR BACK L/R 端子はスピーカーのウーファー端子にそれぞれ接続してください。**
- **バイアンプ接続ではスピーカーのウーファー端子とツイーター端子をつないでいるショートバーを必ず外してください。**
- バイアンプ接続時、本機は最大 5.1 チャンネルのサラウンド再生となります。

本機後面のスピーカーケーブルをすべて外し、本機の電源を入れて、OSD メニュー「スピーカータイプ」の「フロント（スピーカー B）」を「バイアンプ」に設定します。

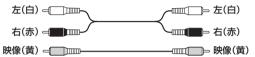
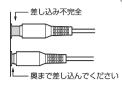
設定方法については、58 ページをご覧ください。

次に、本機の主電源を切り、下図のように SPEAKER B FRONT L/R 端子、SURR BACK L/R 端子とスピーカーを接続します。

接続する

接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（Rの表示）、白いコネクターを左チャンネル（Lの表示）、黄色のコネクターをビデオチャンネル（Vの表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子 / 出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてシャッタータイプですので、シャッターをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

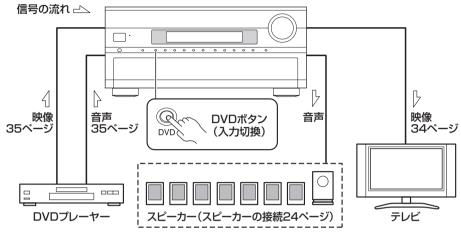
ご注意

- 光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、シャッターが破損する場合があります。

映像 / 音声ケーブルと端子の種類について

ケーブルと端子の種類				
	ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
映像	コンポーネントビデオコード	Y / CB/PB / CR/PR	Y / CB/PB / CR/PR	画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。映像機器の制御信号(アスペクト比など)を送ることはできません。
映像	D端子用接続コード		D4	画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号(アスペクト比など)を送ることができます。
映像	Sビデオコード		S	コンポジットの映像より良い画質が得られます。本機では映像機器の制御信号(アスペクト比など)を送ることはできません。
映像	ビデオコード（コンポジット）		V	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。
音声	光デジタルケーブル（オプティカル OPTICAL）		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はCOAXIALと同レベルです。
音声	同軸デジタルケーブル（コアキシャル COAXIAL）		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はOPTICALと同レベルです。
音声	オーディオ用ピンコード		L / R	アナログ音声を伝送します。
音声	オーディオ用ピンコード		FRONT / CENTER / SURR / SURR BACK / SUBWOOFER / MULTI CH	DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーなどとの接続に使用します。アナログマルチチャンネル音声を伝送します。
映像と音声	HDMIケーブル			映像と音声をデジタル伝送します。本機はHDMI Version 1.3aに対応しています。

AV センターを使う

DVD プレーヤーなど、映像機器は映像接続と音声接続を行ってください。本機の入力切換ボタンを押すだけでその機器の映像と音声を選ぶことができます。
例：DVD プレーヤーと組み合わせる場合

映像接続のしくみ

本機にはビデオ、S ビデオ、D 端子、コンポーネント、HDMI の 5 種類の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使います。

本機では映像信号を使用機器に合わせてアップコンバート／ダウンコンバートすることができます。「モニター出力設定」で、映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力するか、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力するかを選択できます（☞ 52 ページ）。

THX は、より良い映像をお楽しみいただくために、アップコンバートせず同じ入出力の信号をご使用いただくことを推奨します。（例えば、ビデオ入力はビデオ出力から、S ビデオ入力は S ビデオ出力からの信号をお楽しみください。）
「イミディエイト表示」の設定を「オフ」（☞ 105 ページ）に、「画質調整」の設定を初期値（☞ 102 ページ）に、出力解像度の設定を「スルー」（☞ 52 ページ）にすることも推奨しています。

「モニター出力設定」を「HDMI メイン」または「HDMI サブ」にした場合（☞ 49 ページ）

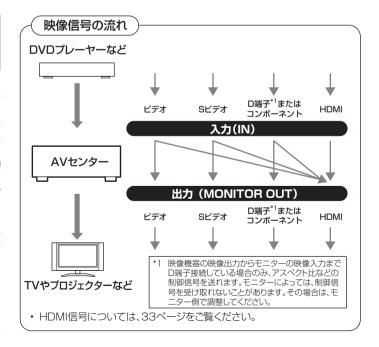
モニター出力設定（Monitor Out）を「HDMI メイン」または「HDMI サブ」にした場合、入力した映像信号の流れは右図のようになります。ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）に入力された映像信号はアップコンバートされて HDMI OUT 端子から出力されます。**本機の HDMI OUT MAIN 端子にテレビを接続している場合は「HDMI メイン」に、HDMI OUT SUB 端子にテレビを接続している場合は「HDMI サブ」に設定してください。**

ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）に入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子からも出力されます。

*1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

・ HDMI信号については、33ページをご覧ください。

!ヒント

- ビデオ、S ビデオ端子に入力された各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力するには、HDMI 入力端子の設定（☞ 53 ページ）とコンポーネントビデオ端子の設定（☞ 55 ページ）を両方とも「- - -」にする必要があります。

「モニター出力設定」を「アナログ」にした場合（☞ 49 ページ）

モニター出力設定（Monitor Out）を「アナログ」にした場合、入力した映像信号の流れは右図のようになります。ビデオ、S ビデオの各端子に入力された映像信号はアップコンバートされて COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子または D4 VIDEO OUT 端子から出力されます。**本機の HDMI OUT 端子をテレビに接続していない場合は「アナログ」に設定してください。**

ビデオ信号は S ビデオ信号にアップコンバートされます。逆に S ビデオ信号はビデオ信号にダウンコンバートされます。コンバートされた信号は MONITOR OUT V/S の各映像端子からのみ出力されます。VCR/DVR OUT V/S の各映像端子からは出力されませんのでご注意ください。

D 端子（またはコンポーネント）に入力した各映像信号は、そのまま各出力端子から出力されます。

映像信号の流れ

DVDプレーヤーなど

ビデオ　Sビデオ　D端子[*1]またはコンポーネント　HDMI

入力（IN）

AVセンター

出力（MONITOR OUT）

ビデオ　Sビデオ　D端子[*1]またはコンポーネント　HDMI

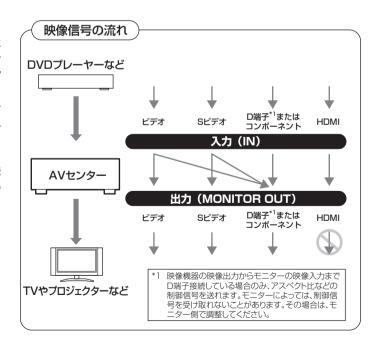
TVやプロジェクターなど

*1　映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

- 映像機器とビデオ端子またはSビデオ端子を使って接続するときは、コンポーネント端子の設定（☞55ページ）をすると、D端子接続やコンポーネント端子接続したモニターからも映像を出力することができます。
- 出力解像度（☞52ページ）を「スルー」に設定しているときにこの図のように信号が流れます。

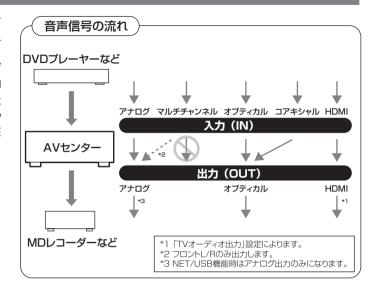
映像信号の流れと解像度設定

出力解像度を「スルー」以外に設定していると（☞ 52 ページ）ビデオ・S ビデオ信号はアップコンバートされて D 端子またはコンポーネントビデオ出力の流れになります。
ビデオ・S ビデオおよび D 端子またはコンポーネントビデオ出力の信号はそれぞれ出力されますが、HDMI 入力信号は出力されません。

D 端子（またはコンポーネント）に入力した各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子から出力されます。

音声接続のしくみ

本機はアナログ、デジタル（光／同軸）、アナログマルチチャンネル、HDMI の音声信号入力に対応しています。
本機はデジタル入力信号を変換してアナログ出力することはできません。また逆にアナログ入力信号を変換してデジタル出力することもできません。たとえば OPTICAL 端子や COAXIAL 端子に入力した音声信号を TAPE OUT 端子から出力することはできません。

ご注意

- NET/USB 機能の音声はアナログ出力のみです。デジタル出力されません（TX-NA906X のみ）。

HDMI 端子を使って接続する

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でテレビ / プロジェクター間をデジタル接続することを目的として策定されたインターフェース規格です。
従来の DVI（Digital Visual Interface）＊[1] 規格をさらに発展させて、オーディオ信号およびコントロール信号を伝送する機能を追加しています。従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMI ケーブルを 1 本接続するだけで、HDMI 端子対応の機器間で映像や音声をデジタルで伝送することができます。

HDMI のビデオストリーム（映像信号）は、DVI と原理的に互換性があります。DVI 端子を装備したテレビ / モニターなどに接続するには HDMI → DVI 変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機は HDCP を使用しており、対応の機器でのみ映像が出ます。

本機の HDMI インターフェースは、以下の規格に基づいています。
High-Definition Multimedia Interface Specification Informational Version 1.3a

対応音声フォーマット
- 2チャンネルリニアPCM（32～192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（7.1ch、32～192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（DSD、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolusion Audio、DTS-HD Master Audio、AAC）

ただし、プレーヤー側も HDMI Version 1.3a に対応している必要があります。

著作権保護について

本機は HDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）＊[2] に対応しています。HDCP とは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。
本機と接続する機器も HDCP に対応していることが必要です。
本機の HDMI OUT 端子とテレビ / プロジェクターなどの HDMI 入力端子を接続します。接続には、市販の HDMI ケーブルをご使用ください。

＊[1] DVI（Digital Visual Interface）: DDWG＊[3] が、99 年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

＊[2] HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）: Intel® が開発した HDMI/DVI 用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP 準拠の HDMI/DVI レシーバーが必要になる。

＊[3] DDWG（Digital Display Working Group）: Intel®、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packard などが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

接続のしかた

34 ～ 40 ページの接続方法のかわりに、HDMI ケーブルで映像信号と音声信号を伝送することができます。

ステップ 1： HDMI ケーブルを使って本機の HDMI 端子とブルーレイディスク /DVD プレーヤー、テレビまたはプロジェクターなどの HDMI 端子と接続してください。

ステップ 2： 49ページのモニター出力設定(Monitor Out)を「HDMI メイン」または「HDMI サブ」にしてください。

ステップ 3： 接続した HDMI IN 端子を 53 ページの「HDMI 入力設定」で割り当ててください。

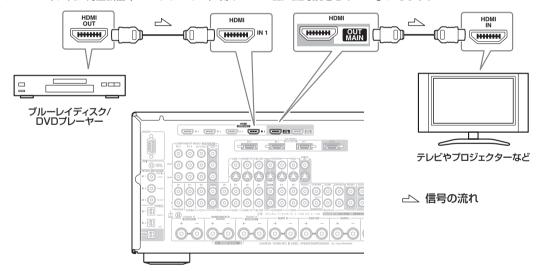
● **映像信号**

本機の HDMI IN 端子から入力したデジタル映像信号は、HDMI OUT 端子からテレビへ送られます。ビデオ（コンポジット）、S ビデオ、コンポーネントの各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力できます。

● **音声信号**

本機の HDMI IN 端子から入力したデジタル音声信号は、本機に接続されたスピーカーやヘッドホンへ出力できます。本機の「TV オーディオ出力」設定を「オン」にしていない普通の状態では HDMI OUT 端子から音声は出力されません（☞ 107 ページ）。

!ヒント

- 本機の HDMI IN 端子に入力した音声をテレビのスピーカーで聞く場合は、本機の「TV オーディオ出力」設定を「オン」にし（☞ 107 ページ）、次に再生機器 (DVD プレーヤー）側の HDMI 音声出力設定を「PCM」にします。

ご注意

- HDMI のビデオストリーム（映像信号）は、DVI と原理的に互換性があります。DVI 端子を装備したテレビ / モニターなどに接続するには HDMI → DVI 変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機は HDCP を使用しており、対応の受像機でのみ映像が出ます。
- 本機を通して HDMI 接続した機器の音声を楽しむときは、機器側で映像がテレビ画面に映るように設定してください（テレビ側の入力設定も確認してください）。テレビの電源がオフのときやテレビの入力が正しく選ばれていないと、本機からの音声が出ないことがあります。
- 「TV オーディオ出力」設定が「オン」（☞ 107 ページ）、または「TV 連動」設定が「有効」（☞ 108 ページ）の状態でテレビのスピーカーで音声を聴いているとき、本機の MASTER VOLUME つまみを上げると本機に接続したスピーカーから音が出るようになります。本機に接続したスピーカーからの音を止めるには設定を変更するか、テレビ側の設定を変更するか、あるいは MASTER VOLUME つまみを下げてください。
- HDMI 音声信号は、接続機器により制約されることがあります。HDMI 接続している機器から入力される画像の品質がよくなかったり、音声が出なかったりするときは、機器側の設定を確認してください。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。

接続する（映像機器を接続する）

テレビやプロジェクターと接続する

HDMI 接続については、32 ページの「HDMI 端子を使って接続する」を参考にしてください。

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと映像接続をしてください。

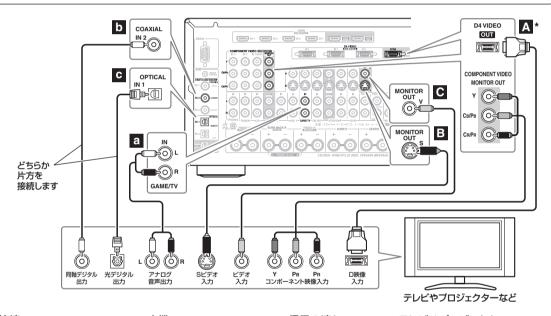
!ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする（TV の音声を本機で出力する場合）

a、b、c の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- テレビの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RIオーディオコントロール端子付テレビと連動させるときに必要です（☞47ページ）。

BS デジタルや地上デジタルのサラウンド放送を楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	テレビ / プロジェクター
A	D4 VIDEO OUT 端子 または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子	➡	D 映像入力端子 または コンポーネント映像入力端子
B	MONITOR OUT S 端子	➡	S ビデオ入力端子
C	MONITOR OUT V 端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子
a	GAME/TV L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 2（VCR/DVR）端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 1（GAME/TV）端子	⬅	光デジタル出力端子

* D4 VIDEO OUT 端子と COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子は同時に出力することができますが、映像にみだれが発生する場合は、どちらか片方のみ接続してください。

!ヒント

- テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機の VCR/DVR IN L/R 端子を接続してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーからテレビの音声をお楽しみいただけます。
- デジタル音声入力に接続するときは、57 ページをご覧ください。b の接続には音声入力の割り当てが必要です。

ブルーレイディスク /DVD プレーヤーと接続する

HDMI 接続については、32 ページの「HDMI 端子を使って接続する」を参考にしてください。

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から1つ選んでブルーレイディスク /DVD プレーヤーと映像接続をしてください。

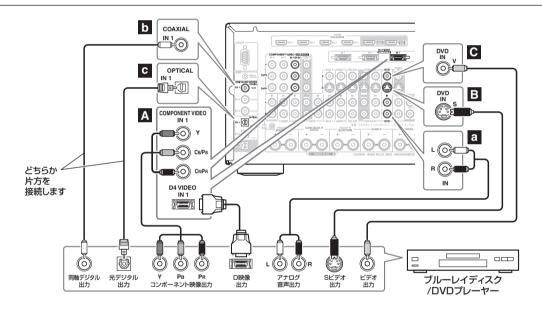
!ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでブルーレイディスク /DVD プレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- ブルーレイディスク/DVDの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI端子付オンキヨー製DVDプレーヤーと連動させるときに必要です（☞46ページ）。

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ブルーレイディスク /DVD プレーヤー
A	D4 VIDEO IN 1 端子 または COMPONENT VIDEO IN 1（DVD）端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子
B	DVD IN S 端子	⬅	S ビデオ出力端子
C	DVD IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	DVD IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 1（DVD）端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 1（GAME/TV）端子	⬅	光デジタル出力端子

!ヒント

- ブルーレイディスク /DVD プレーヤーにマルチチャンネルと 2 チャンネルの両方の出力端子がある場合で、本機の DVD IN L/R 端子だけを接続するときは、ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの 2 チャンネル出力端子と接続してください。マルチチャンネル接続は次ページをご覧ください。
- デジタル音声入力に接続するときは、57 ページをご覧ください。c の接続には音声入力の割り当てが必要です。

接続する（映像機器を接続する）

■ マルチチャンネル（5.1/7.1ch）出力端子がある DVD プレーヤーと接続する

DVD オーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVD オーディオやスーパーオーディオ CD などの再生がお楽しみいただけます。

5.1 チャンネル接続

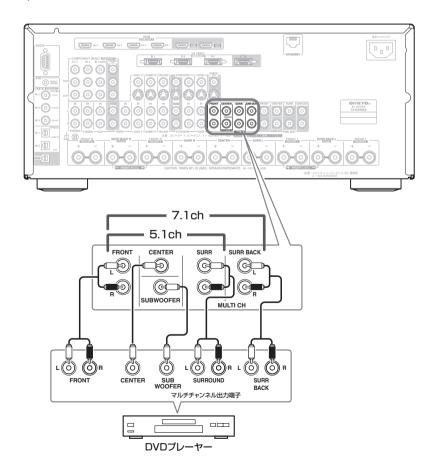
5.1 チャンネル接続するときは、マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコード 3 本を使って DVD プレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機の MULTI CH：FRONT L/R、SURR L/R、CENTER、SUBWOOFER 端子を接続します。

7.1 チャンネル接続

7.1 チャンネル接続するときは、5.1 チャンネル接続に加え、オーディオ用ピンコードを使って SURR BACK L/R 端子を接続してください。

以下の手順を実施してください。

1. リモコンの AMP ボタンを押してから、SETUP ボタンを押して「メニュー」を表示。
2. 「1. 入力 / 出力設定」を選び、ENTER ボタンを押す。
3. 「5. アナログ音声入力設定」を選び、ENTER ボタンを押す。
4. ◄/► ボタンを押して、MULTI CH 端子からの音声入力を割り当てる入力切換ボタンを選ぶ。
5. SETUP ボタンを押す。
6. AMP ボタンを押してから、AUDIO SEL ボタンを押して、「Multich」を選ぶ。
7. 「ANALOG」表示が点灯する。

（☞ 60、70 ページ）

ビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーと接続する（再生編）

ステップ 1：映像接続をする

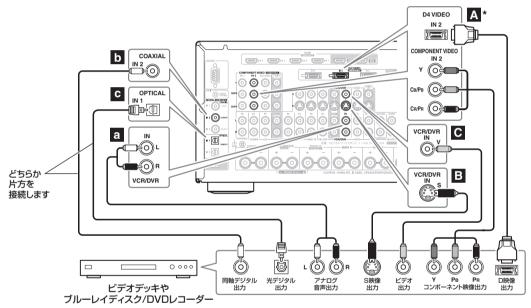
A、B、C の接続から 1 つ選んでビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーと映像接続をしてください。

!ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ / ブルーレイディスク /DVD レコーダー
A	D4 VIDEO IN 2 端子 または COMPONENT VIDEO IN 2 端子	←	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子
B	VCR/DVR IN S 端子	←	S ビデオ出力端子
C	VCR/DVR IN V 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	VCR/DVR IN L/R 端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 2（VCR/DVR）端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 1（GAME/TV）端子	←	光デジタル出力端子

* A の接続には映像入力の割り当てが必要です（☞ 55 ページ）。

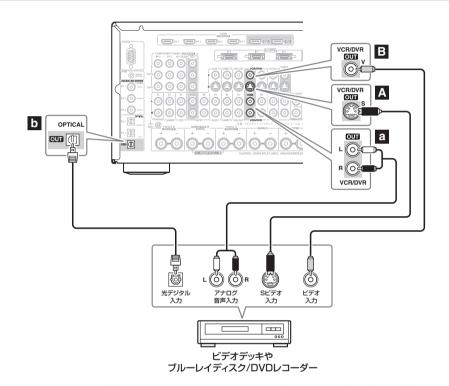
!ヒント

- この接続例ではビデオデッキあるいはブルーレイディスク /DVD レコーダーの内蔵チューナーの音声を本機を通して楽しめます。TV に音声出力がない場合に良い音質で番組を楽しむことができます。
- デジタル音声入力に接続するときは、57 ページをご覧ください。c の接続には音声入力の割り当てが必要です。

ビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーと接続する（録画編：本機を通して録画する）

ステップ 1： ビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーと A または B の映像接続をしてください。

!ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2： アナログ録音する場合は a、デジタル録音する場合は b の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ / ブルーレイディスク /DVD レコーダー
A	VCR/DVR OUT S 端子	➡	S ビデオ入力端子
B	VCR/DVR OUT V 端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子
a	VCR/DVR OUT L/R 端子	➡	アナログ音声入力端子
b	DIGITAL OPTICAL OUT 端子	➡	光デジタル入力端子

ご注意

- 録画をするときは、本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態では録画できません。

!ヒント

- 本機を通さずに TV あるいは他の機器から直接録音したい場合は、TV あるいは他の機器の音声 / ビデオ出力を録音するビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーの音声 / ビデオ入力に接続してください。
- 本機の V 端子に入力したビデオ（コンポジット）信号は本機の VCR/DVR OUT V 端子を通してのみ録画できます。たとえば、TV の映像出力を GAME/TV IN V 端子に接続した場合は録画するビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーも VCR/DVR OUT V 端子に接続します。同様に GAME/TV IN S 端子に S ビデオ信号を入力した場合は、録画するビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーも VCR/DVR OUT S 端子に接続します。

BS チューナー／ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーなどと接続する

ステップ 1：映像接続をする

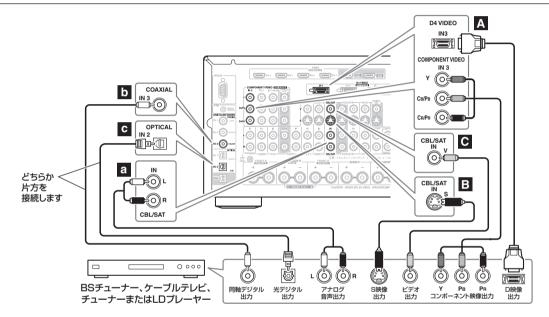
A、B、C の接続から1つ選んで BS チューナー／ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーと映像接続をしてください。

!ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで BS チューナー／ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	BS チューナー／ケーブルテレビ チューナー、LD プレーヤー
A	D4 VIDEO IN 3 端子 または COMPONENT VIDEO IN 3 端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子
B	CBL/SAT IN S 端子	⬅	S ビデオ出力端子
C	CBL/SAT IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	CBL/SAT IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 3（CBL/SAT）端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 2（CD）端子	⬅	光デジタル出力端子

ご注意

- 本機に LD プレーヤーの AC-3RF 出力端子は直接接続できません。LD プレーヤーでドルビーデジタル 5.1ch ソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

!ヒント

- デジタル音声入力に接続するときは、57 ページをご覧ください。c の接続には音声入力の割り当てが必要です。

ゲーム機と接続する

HDMI 接続については、32 ページの「HDMI 端子を使って接続する」を参考にしてください。

ステップ 1：映像接続をする

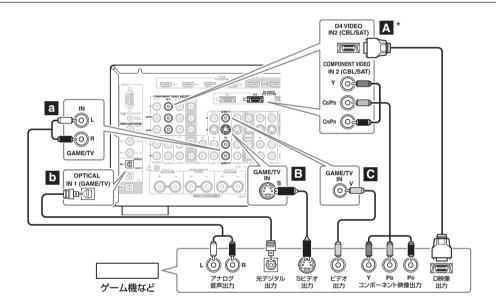
A、B、C の接続から1つ選んでゲーム機と映像接続してください。

!ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b の接続から必要な接続を選んでゲーム機と音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

AAC やドルビーデジタル、DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ゲーム機
A	D4 VIDEO IN 2 端子 または COMPONENT VIDEO IN 2 端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子
B	GAME/TV IN S 端子	⬅	S ビデオ出力端子
C	GAME/TV IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	GAME/TV IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL OPTICAL IN 1 (GAME/TV) 端子	⬅	同軸デジタル出力端子

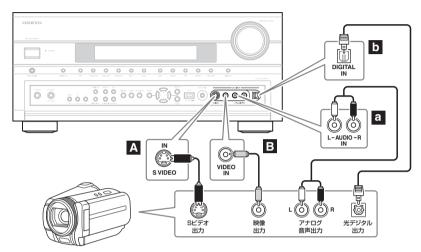
* A の接続には映像入力の割り当てが必要です（☞ 55 ページ）。

!ヒント

- デジタル音声入力に接続するときは、57 ページをご覧ください。b の接続には音声入力の割り当てが必要です。

ビデオカメラと接続する

ステップ 1：**A** または **B** の映像接続をしてください。

ステップ 2：**a** または **b** の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオカメラなど
A	AUX 2 INPUT S VIDEO 端子	←	S ビデオ出力端子
B	AUX 2 INPUT VIDEO 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	AUX 2 INPUT L-AUDIO-R 端子	←	アナログ音声出力端子
b	AUX 2 INPUT DIGITAL 端子	←	光デジタル出力端子

接続する（オーディオ機器を接続する）

CD プレーヤーやレコードプレーヤーと接続する

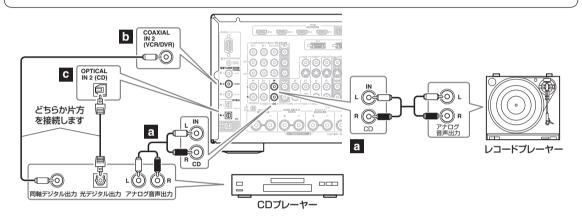
■ CD プレーヤーやフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーを接続するとき

ステップ 1 : 音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- CDの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI端子付オンキヨー製CDプレーヤーと連動させるときに必要です（☞46ページ）。

CD の PCM や DTS 信号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	CD プレーヤー / レコードプレーヤー
a	CD IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 2（VCR/DVR) 端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 2（CD)端子	⬅	光デジタル出力端子

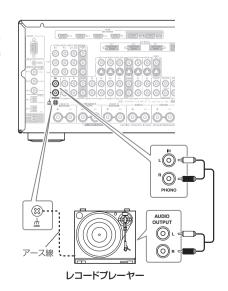
!ヒント

- デジタル音声入力に接続するときは、57 ページをご覧ください。b の接続には音声入力の割り当てが必要です。

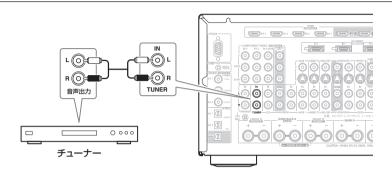
■ レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵でない場合

本機は、ムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。レコードプレーヤーの接続コードを本機のPHONO（フォノ） IN（イン） L/R 端子に接続します。

ご注意

- アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機の GND 端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。
- MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、レコードプレーヤーに昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続します。次に、昇圧トランスやヘッドアンプの音声出力端子と本機の PHONO IN L/R 端子を接続します。

チューナーを接続する

ステップ 1：音声接続をする

オーディオ用ピンコードでチューナーの音声出力端子と本機の TUNER IN L/R 端子を接続してください。

カセットデッキ、MD レコーダー、CD レコーダーを接続する

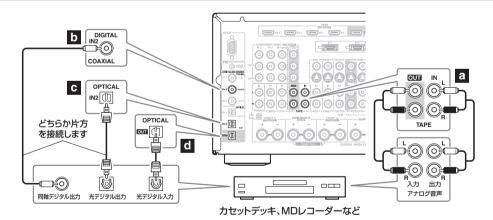
ステップ 1：音声接続をする

a、b、c、d の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- アナログ録音することができます。
- RI端子付オンキヨー製品と連動させるときに必要です（☞46ページ）。

PCM や DTS 信号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。

デジタル録音するときは、d の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	録音機器
a	TAPE IN L/R 端子 TAPE OUT L/R 端子	← →	アナログ音声出力端子 アナログ音声入力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 2（VCR/DVR）端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 2（CD）端子	←	光デジタル出力端子
d	DIGITAL OPTICAL OUT 端子	→	光デジタル入力端子

!ヒント

- デジタル音声入力に接続するときは、57 ページをご覧ください。b および c の接続には音声入力の割り当てが必要です。

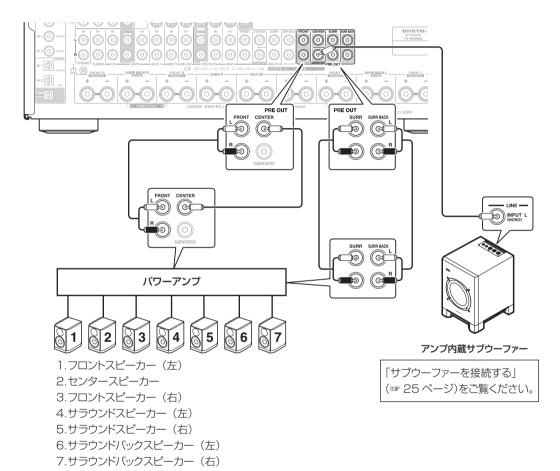
パワーアンプを接続する

パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用することができます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。
パワーアンプを使用するときは、各スピーカーをパワーアンプに接続し、パワーアンプの音声入力端子と本機の PRE OUT 端子を接続します。アンプ内蔵サブウーファーを使用するときは、本機の PRE OUT: SUBWOOFER 端子を接続します。

!ヒント

- PRE OUT 端子の出力はスピーカー端子からの出力と並列に出力されます。
- プリメインアンプと接続するときは、メインインかパワーインの端子に接続するようにしてください。
- ラインイン、テープインの端子ではご利用できません。

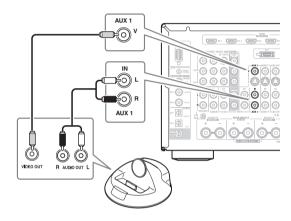
1.フロントスピーカー（左）
2.センタースピーカー
3.フロントスピーカー（右）
4.サラウンドスピーカー（左）
5.サラウンドスピーカー（右）
6.サラウンドバックスピーカー（左）
7.サラウンドバックスピーカー（右）

「サブウーファーを接続する」
(☞ 25 ページ)をご覧ください。

RI ドックを接続する

ご注意

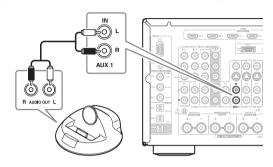
- RI ドックで使用できる iPod についてなどの詳細は、RI ドックの取扱説明書をご覧ください。

ご使用の iPod がビデオ対応機種の場合

オーディオ用ピンコードで RI ドックの AUDIO OUT L/R 端子と本機の AUX 1 IN L/R 端子を接続します。ビデオコードで RI ドックの VIDEO OUT 端子と本機の AUX 1 IN V 端子を接続します。
（イラストはオンキヨー RI ドック DS-A1XP の例です。）

オンキヨー RI ドック DS-A1/DS-A1X をご使用の場合

ビデオコードで RI ドックの VIDEO OUT 端子と本機の AUX 1 IN V 端子または、S ビデオコードで RI ドックの S VIDEO OUT 端子と本機の AUX 1 IN S 端子を接続します。

ご使用の iPod がビデオに対応していない機種の場合

オーディオ用ピンコードで RI ドックの AUDIO OUT L/R 端子と本機の AUX 1 IN L/R 端子を接続します。
（イラストはオンキヨー RI ドック DS-A1XP の例です。）

- RI ドック側で、RI MODE スイッチを HDD（あるいは HDD/DOCK）に設定してください。
- 本機の入力表示を DOCK にしてください（☞ 59 ページ）。
- RI ケーブルで RI ドックと本機を接続することも忘れずに行ってください。
- RI ドックに付属の取扱説明書もご覧ください。
- ご使用の iPod が音声のみに対応している場合、TAPE IN L/R 端子にも接続できます。
- 本機に付属のリモコンの CD（RC-689M）または DOCK（RC-692M）REMOTE MODE ボタンを押すことで、本機の入力が「DOCK」に切り換わり、RI ドックを操作できます。RI ドックを操作できないときは、リモコンコードを登録する必要があります（☞ 18、121 ページ）。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI 端子付きのオンキヨー製品に RI ケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RI ケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです（本機には付属していません）。
RI ケーブルの接続だけではシステムとして働きません。34 ～ 45 ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

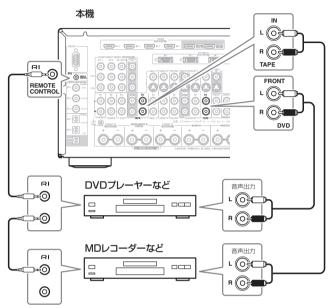
ステップ 1：RI ケーブル接続をする

本機と、本機に接続したオンキヨー製品の RI 端子を、RI ケーブルで正しく接続します。

ステップ 2：ピンコードを接続する

本機と、本機に接続したオンキヨー製品の音声端子をオーディオ用ピンコードで正しく接続します。

ステップ 3：入力表示を切り換える

MD レコーダーや CD レコーダー、RI ドックを本機に接続した場合は、入力表示を「MD」「CDR」「DOCK」に切り換えてください(☞ 59 ページ)。

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ダイレクトチェンジ機能

RI 接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。
DVD プレーヤーのマルチチャンネル再生をする場合は、AUDIO SEL ボタンを押して「Multich」を選ぶ必要があります(☞ 70 ページ)。

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます(☞14 ～ 18、124 ～ 125 ページ)。

ご注意

- 59 ページの「入力表示を切り換える」もご覧ください。
- 製品によっては RI 接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RI ケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI 端子が 2 つある場合、2 つの端子の働きは同じです。どちらにも接続できます。
- 新旧製品の連動動作の対応 / 非対応については、コールセンターにお問い合わせください。

RI オーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

ご注意

- HDMI コントロール(RIHD)を「有効」にしている場合(☞ 108 ページ)は、本機の RI 端子とテレビを接続しないでください。HDMI コントロール(RIHD)と RI オーディオコントロールの両方が機能し、誤動作の原因となることがあります。

本機は RI 端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

①テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る(スタンバイにする)と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

②テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング(消音)ができます。

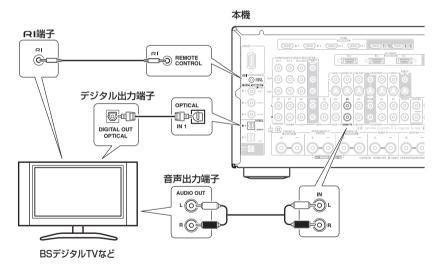
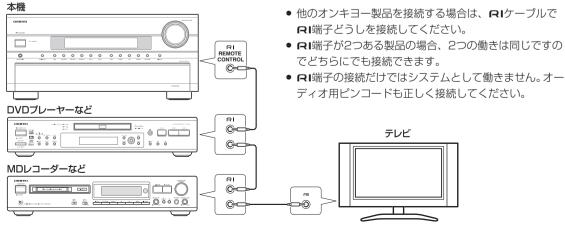
③本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能(音量、消音)をコントロールできるようになります。

連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で RI 端子が装備されているかどうかをご確認ください。
本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード(抵抗なし)を別途お求めください。

接続のしかた

- 本機のGAME/TV IN L/R音声入力端子を接続する
- モノラルミニプラグコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL OPTICAL IN 1端子と接続する

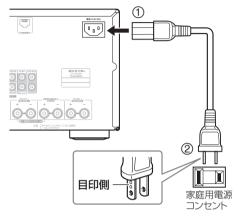
(テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません)

- 他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

接続する

電源コードを接続する

ステップ 1：付属の電源コードを本機の電源入力 AC100V 端子に接続する

ステップ 2：電源コードをコンセントに接続する

電源コードを接続する前に

- すべての接続が完了していることを確認してください。
- 付属の本機専用電源コード以外は使用しないでください。
- 家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で電源入力AC100V端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- 本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

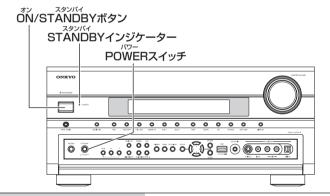
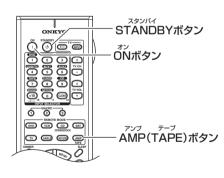
よりよい音で聴いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

ご注意

- 電源コードをコンセントから抜くときは、本機の主電源を切ってから抜いてください。

電源を入れる

1 POWER ON OFF

POWER スイッチを押して、主電源を入れる

STANDBY インジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。

2 本体 リモコン ON/STANDBY または AMP TAPE ON

本体の ON/STANDBY ボタン、またはリモコンの AMP（TAPE）MODE ボタンを押し、ON ボタンを押す

STANDBY インジケーターが消え、表示部が点灯します。

リモコンの ON ボタンをもう一度押すと、RI 接続したすべての機器の電源が入ります。

スタンバイ状態に戻すには

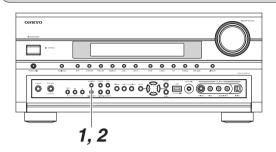
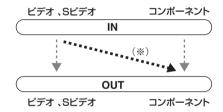
本体の ON/STANDBY ボタンまたはリモコンの STANDBY ボタンを押します。
主電源を切るには POWER スイッチを押し、OFF（■）にします。

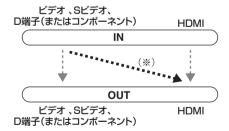
初期設定をする

この項目では、最初に本機を使用する前に実施する必要がある設定について説明します。

モニターを設定する

本機の HDMI OUT 端子以外にテレビを接続した場合：

モニター出力設定（Monitor Out）を必ず「Analog」に設定してください。Analog の設定で OSD メニューは画面表示されます。またビデオ、S ビデオの各映像入力信号はアップコンバート（※）されて D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。

本機の HDMI OUT 端子にテレビを接続した場合：

モニター出力設定（Monitor Out）を必ず「HDMI Main」または「HDMI Sub」に設定してください。HDMI の設定で OSD メニューは画面表示されます。またビデオ、S ビデオ、コンポーネントの各映像入力信号はアップコンバート（※）されて HDMI OUT 端子から出力されます。

HDMI 出力とコンポーネント出力の選択指定ができ、ご使用になるテレビが対応できる解像度に、必要に応じて本機でアップコンバートして出力します。
モニター出力設定（Monitor Out）は本体の HDMI OUT ボタンで Analog、HDMI Main、HDMI Sub の設定切り換えができます。

1

HDMI OUT

HDMI OUT ボタンを押す

現在の設定が表示部に表示されます。

2

HDMI OUT

HDMI OUT ボタンを（くり返し）を押す

Analog、HDMI Main、HDMI Sub を切り替えます。

- **Analog：** テレビを HDMI OUT MAIN 端子、HDMI OUT SUB 端子に接続していない場合に選びます。
- **HDMI Main：** テレビを HDMI OUT MAIN 端子に接続した場合に選びます。
- **HDMI Sub：** テレビを HDMI OUT SUB 端子に接続した場合に選びます。

ご注意

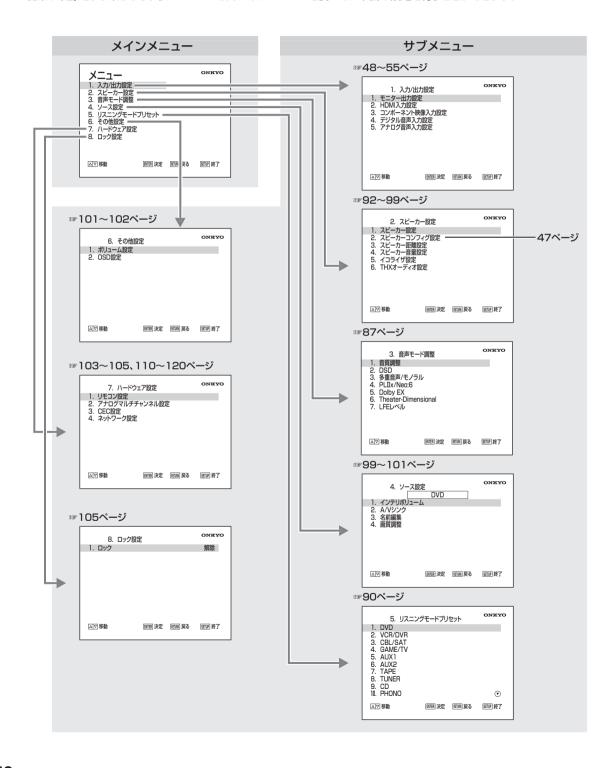
- **OSD メニュー画面は、「HDMI メイン」を選んでいるときは HDMI OUT MAIN 端子、「HDMI サブ」を選んでいるときは HDMI OUT SUB 端子からのみ出力されます。HDMI OUT 端子以外にテレビを接続しているとき、誤って HDMI メインまたは HDMI サブを選ぶとメニュー画面は消えます。その場合は本体の HDMI OUT ボタンで「Analog」に設定してください。**

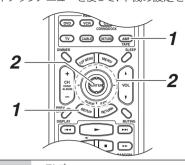
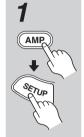
!ヒント

- モニター出力設定（Monitor Out）と解像度の設定（☞ 52、53 ページ）が本機の映像信号フローに及ぼす影響については、29 ページの「映像信号の流れ」をご覧ください。

初期設定をする

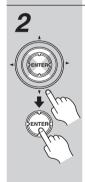
OSD マップ

OSD とは On（オン） Screen（スクリーン） Display（ディスプレイ） の略で、本機での設定や操作内容を接続したテレビなどのモニターに大きく表示して操作をしやすくする機能です。
音楽や映像をより楽しめるように、OSD セットアップメニューを使って、本機の設定を行うことができます。

OSD セットアップメニューを使用する

OSD セットアップメニューを使って、本機の設定を行います。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

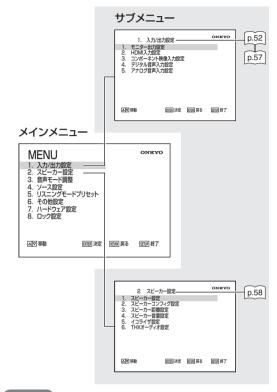
メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「サブメニュー」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

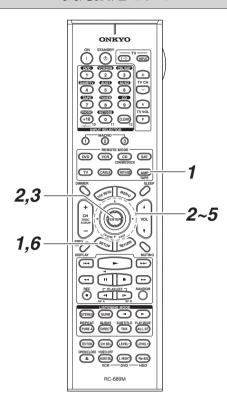
サブメニュー画面が表示されます。

「SETUP」ボタンを押すと、設定が終了となり、メニュー画面が消えます。

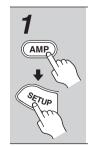
「RETURN（リターン）」ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

■ 初期設定項目

!ヒント

● メニュー画面が表示されないときは、49 ページのモニター設定を行ってください。

モニターの出力設定をする

モニター出力端子と出力の解像度を設定します。

本機の HDMI OUT 端子にテレビを接続した場合：
テレビを接続した端子に合わせて、「HDMI メイン」または「HDMI サブ」に設定してください。正しく設定されると、OSD メニューが画面表示されます。またビデオ、S ビデオ、コンポーネントの各映像入力信号はアップコンバートされて HDMI OUT 端子から出力されます。

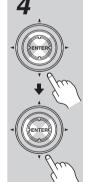
本機の HDMI OUT 端子以外にテレビを接続した場合：
「HDMI モニター」設定を必ず「アナログ」に設定してください。正しく設定されると、OSD メニューが画面表示されます。またビデオ、S ビデオの各映像入力信号はアップコンバートされて COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。

1 AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2 ▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3 ▲/▼ ボタンを押して「1. モニター出力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

4 ▲/▼ ボタンを押して「モニター出力設定」を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

アナログ： テレビを HDMI OUT MAIN 端子、HDMI OUT SUB 端子に接続していない場合に選びます。

HDMI メイン： テレビを HDMI OUT MAIN 端子に接続した場合に選びます。

HDMI サブ： テレビを HDMI OUT SUB 端子に接続した場合に選びます。

ご注意

- OSD メニュー画面は、「HDMI メイン」を選んでいるときは HDMI OUT MAIN 端子、「HDMI サブ」を選んでいるときは HDMI OUT SUB 端子からのみ出力されます。HDMI OUT 端子以外にテレビを接続しているとき、 誤って「HDMI メイン」または「HDMI サブ」を選ぶとメニュー画面は消えます。その場合は本体の HDMI OUT ボタンで「Analog」に設定してください。

5

▲/▼ ボタンを押して「解像度」を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

スルー：
入力信号の解像度とおなじ解像度で本機でコンバージョンしないでそのまま出力する場合に選択します（お買い上げ時の設定）。

自動：
テレビが対応していない解像度を自動でコンバートする場合に選択します。ただしモニター出力設定（Monitor Out）が「Analog」に設定されていると選べません。

480p：
480p の解像度で出力する場合、あるいは 480p にコンバートして出力する場合に選択します。

720p：
720p の解像度で出力する場合、あるいは 720p にコンバートして出力する場合に選択します。

1080i：
1080i の解像度で出力する場合、あるいは 1080i にコンバートして出力する場合に選択します。

1080p：
1080p の解像度で出力する場合、あるいは 1080p にコンバートして出力する場合に選択します。ただしモニター出力設定（Monitor Out）が「Analog」に設定されていると選べません。

ソース：
「4-4. 画質調整」内の「解像度」（☞ 103 ページ）で設定した解像度で出力します。（ソースごとの設定が可能になります。）

6

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

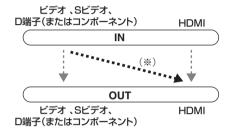
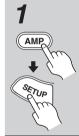
!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

映像信号入力の設定をする

HDMI 入力端子の設定

HDMI IN 1 ～ IN 4 端子に、HDMI 出力端子のある DVD プレーヤーなどを接続しているときに設定します。

たとえば、DVD プレーヤーを本機の HDMI IN 1 端子に接続したときは、DVD に「IN 1」を割り当ててください。HDMI ケーブルで本機の HDMI OUT 端子にテレビを接続した場合、「- - -」に設定すると、ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）の各映像入力信号をアップコンバート（※）して HDMI OUT 端子から出力できます。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メニュー」を表示させる

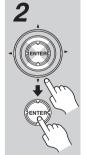
メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

ONKYO
1. 入力/出力設定
1. モニター出力設定
2. HDMI入力設定
3. コンポーネント映像入力設定
4. デジタル音声入力設定
5. アナログ音声入力設定

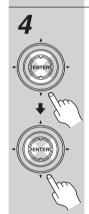
3

▲/▼ ボタンを押して「2.HDMI 入力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1-2. HDMI入力設定　ONKYO

TAPE ---
TUNER ---
CD ---
PHONO ---

移動　値変更　RETURN 戻る　SETUP 終了

4

▲/▼ ボタンを押して設定する入力を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

HDMI1, HDMI2, HDMI3, HDMI4：
映像機器を接続した HDMI IN 端子を選びます。

例として：
DVD プレーヤーを HDMI IN 1 端子に接続した場合は、DVD 項目を HDMI1 にしてください。

- - -：
ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）の各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力する場合に選びます。D 端子（またはコンポーネント）の入力信号を出力するか、ビデオ、S ビデオ端子の入力信号を出力するかは、「コンポーネントビデオ端子の設定」（☞ 55 ページ）で設定することができます。

ご注意

- アップコンバートして HDMI OUT 端子から出力する場合、必ずモニター出力設定（Monitor Out）をテレビを接続した端子に合わせて「HDMI メイン」または「HDMI サブ」（☞ 49、52 ページ）にして下さい。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意

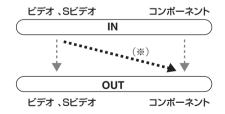
- ビデオ、S ビデオ端子に入力された各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力するには、HDMI 入力端子の設定（上記）とコンポーネントビデオ端子の設定（☞ 55 ページ）を両方とも「---」にする必要があります。
- HDMI IN 1 ～ IN 4 の各入力端子に割り当てできる入力切換ボタンは 1 つまでです。
- ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）の各映像入力信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力する場合は、必ず「モニター出力設定」をテレビを接続した端子に合わせて「HDMI メイン」または「HDMI サブ」にします。
- HDMI IN 1 ～ IN 4 を設定した入力切換ボタンには、自動的に同じ HDMI 1 ～ 4 のデジタル音声入力が割り当てられます。

コンポーネントビデオ端子の設定

D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO OUT 端子にテレビなどのモニターを接続しているときに設定します。お買い上げ時の設定では、下の表のようにDVD 以外は設定されていません。
ここで設定した映像入力端子からの映像が、D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。各入力ごとに設定できます。

本機の D4 VIDEO IN 端子に映像機器を接続した場合、必ず D4 VIDEO IN 端子を入力切換ボタンに割り当ててください。たとえば D4 VIDEO IN 3 端子に DVD プレーヤーを接続した場合、入力切換ボタン DVD を D4 入力 3 に設定します。

入力	映像入力端子の初期設定
DVD	RCA1（色差入力）
VCR/DVR	- - -
CBL/SAT	- - -
GAME/TV	- - -
AUX 1	- - -
AUX 2	- - -
TAPE	- - -
CD	- - -
PHONO	- - -

D 端子用接続コードまたはコンポーネントビデオケーブルで本機の D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子にテレビを接続した場合、設定を「- - -」にすると、ビデオ、S ビデオの各映像入力信号をアップコンバート（※）して D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力できます。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して「3. コンポーネント映像入力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1-3. コンポーネント映像入力設定 ONKYO
TAPE - - -
TUNER - - -
CD - - -
PHONO - - -
移動 値変更 戻る 終了

4

▲/▼ ボタンを押して割り当てたい入力切換ボタンを選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

RCA 1（色差入力）:

映像機器を COMPONENT VIDEO IN 1 端子に接続した場合に選びます。

RCA 2（色差入力）:

映像機器を COMPONENT VIDEO IN 2 端子に接続した場合に選びます。

RCA 3（色差入力）:

映像機器を COMPONENT VIDEO IN 3 端子に接続した場合に選びます。

D4 入力 1:

映像機器を D4 VIDEO IN 1 端子に接続した場合に選びます。

D4 入力 2:

映像機器を D4 VIDEO IN 2 端子に接続した場合に選びます。

D4 入力 3:

映像機器を D4 VIDEO IN 3 端子に接続した場合に選びます。

- - - :

映像機器を V または S のビデオ端子に接続した場合に選びます。各映像信号はアップコンバートされて D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。

- アップコンバートして D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力するには、モニター出力設定（Monitor Out）を「Analog（アナログ）」（☞ 49 ページ）にして、コンポーネントビデオ端子の設定を「---」にする必要があります。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

デジタル音声入力端子の設定

デジタル音声入力端子の接続は、ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル音声入力端子は、お買い上げ時の設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- 接続した機器がデジタル音声入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル音声入力端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「- - -」にする必要があります。

入力	デジタル 音声入力端子の初期設定
DVD	COAX1(同軸入力)
VCR/DVR	COAX2(同軸入力)
CBL/SAT	COAX3(同軸入力)
GAME/TV	OPT1(光入力)
AUX1	- - -
AUX2	フロント入力(固定)
TAPE	- - -
TUNER	- - -
CD	OPT2(光入力)
PHONO	- - -

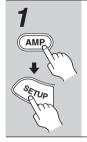
- 53 ページで HDMI 端子を割り当てた入力には、本設定も自動的に HDMI 端子が割り当てられます。また、この入力に他のデジタル音声入力を割り当てることもできます。

例：

本機後面の OPTICAL IN 1 端子に CD プレーヤーを接続した場合

CD のデジタル音声入力端子の初期設定は「OPT 2」のため、「OPT 1」に設定を変更します。

DVD プレーヤーとアナログ接続のみをした場合

DVD のデジタル音声入力端子の初期設定は「COAX 1」のため、「- - -」に設定を変更します。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

1. 入力/出力設定　ONKYO
1. モニター出力設定
2. HDMI入力設定
3. コンポーネント映像入力設定
4. デジタル音声入力設定
5. アナログ音声入力設定

3

▲/▼ ボタンを押して「4. デジタル音声入力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ ボタンを押して設定する入力を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

以下のデジタル音声入力端子を割り当てることができます。

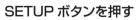
COAX 1　：(COAXIAL 1 端子)
COAX 2　：(COAXIAL 2 端子)
COAX 3　：(COAXIAL 3 端子)
OPT 1　：(OPTICAL 1 端子)
OPT 2　：(OPTICAL 2 端子)
- - -　：(アナログ)

- 入力が AUX 2 のときは、フロント入力（前面パネルドア内のデジタル入力端子）に固定となります。

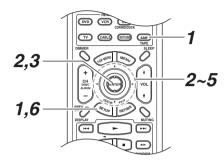
5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

スピーカーの基本設定をする

この項目は簡単スピーカー設定（☞61 ページ）では自動設定されません。
この設定を変更した場合、もう 1 度簡単スピーカー設定を行ってください。

接続したスピーカーのインピーダンス（Ω）、スピーカー B の使用 / 不使用、フロントスピーカーの接続方法（通常、BTL 接続、バイアンプ接続）を設定します。

ご注意

- 設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

1

AMP（アンプ） ボタンを押してから SETUP（セットアップ） ボタンを押して、「メニュー」を表示させる

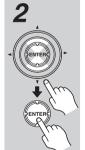
メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER（エンター） ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

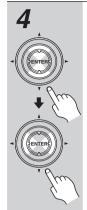
2. スピーカー設定　　ONKYO
1. スピーカー設定
2. スピーカーコンフィグ設定
3. スピーカー距離設定
4. スピーカー音量設定
5. イコライザ設定
6. THXオーディオ設定

3

▲/▼ ボタンを押して「1. スピーカー設定」を選び、ENTER（エンター） ボタンを押す

設定画面が表示されます。

2-1. スピーカー設定　　ONKYO

スピーカーインピーダンス	6オーム
スピーカータイプ	
フロント(スピーカーA)	ノーマル
フロント(スピーカーB)	未使用

4

▲/▼ ボタンを押して「スピーカーインピーダンス」を選び、◄/► ボタンを押して「4 オーム」または「6 オーム」を選ぶ

4 オーム：接続したスピーカーの中に 1 台でも 4 Ω以上 6 Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。
6 オーム：接続したスピーカーがすべて 6 Ω以上の場合に選択します。

!ヒント

- ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。

5

▲/▼ ボタンを押して「フロント (スピーカー A)」または「フロント (スピーカー B)」を選び、◄/► ボタンを押して設定を選ぶ

未使用：スピーカー B を未使用にします。スピーカー A/B の切り替えができなくなり、スピーカー A だけが有効になります（スピーカー A は未使用に設定できません）。
ノーマル：通常のスピーカー接続の場合に選択します。
バイアンプ：フロントスピーカー（またはスピーカー B）をバイアンプ接続している場合に選択します。
BTL：フロントスピーカー（またはスピーカー B）を BTL 接続している場合に選択します。この設定を選択すると、「スピーカーインピーダンス」の設定値は自動的に「8 オーム」となり変更できません。（BTL 接続には 8 Ω以上のスピーカーが必要なため。）

!ヒント

- バイアンプ接続、BTL 接続については 26、27 ページをご覧ください。

6

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

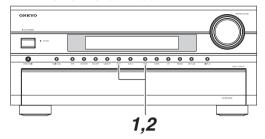
- 本体の SETUP（セットアップ） ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター） ボタンでも操作することができます。

入力表示を切り替える

オンキヨーの RI 端子付き MD レコーダー、CD レコーダーや RI ドックを本機の TAPE 端子や AUX 1 端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り替える必要があります。

1

TAPE

または

AUX 1

入力切換ボタンの「TAPE（テープ）」または「AUX 1」を押し、表示部に「TAPE」または「AUX1」を表示させる

TAPE

または

AUX1

2

TAPE

または

AUX 1

（3 秒間）

TAPE ボタンまたは AUX 1 ボタンを約 3 秒押し続けて、表示を切り換える

この手順をくり返すと以下のように表示が切り換わります。

TAPE ボタン：
「TAPE」→「MD」→「CDR」→「DOCK」→「TAPE」

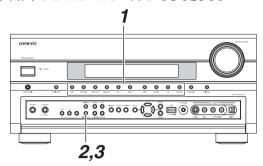
AUX 1 ボタン：
「AUX1」→「DOCK」→「AUX1」

ご注意

- 「DOCK」は、「TAPE」または「AUX1」のどちらか片方でしか表示できません。
  どちらかで「DOCK」の表示に切り換えたときは、もう片方では切り換えることができません。
- 入力を切り換えたあと、名称を変更することができます（☞ 101 ページ）。

DIGITAL INPUT ボタンで切り替える

デジタル音声入力端子の入力切換ボタンへの割り当て設定は本体の DIGITAL INPUT ボタンでもできます。

1

デジタル音声入力を割り当てたい入力切換ボタンを押す

2

DIGITAL INPUT

DIGITAL（デジタル） INPUT（インプット） ボタンを押す

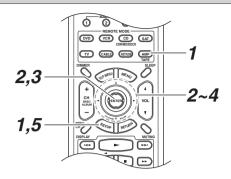
手順 1 で選んだ入力切換ボタンに割り当てられている現在の設定が表示されます。

3

DIGITAL INPUT

DIGITAL INPUT ボタンを（くり返し）押す

手順 **2** で選んだ入力に割り当てるデジタル音声端子を選択します。

アナログ音声入力の設定

本機の MULTI CH 端子に DVD プレーヤーなどを接続した場合、必ず入力切換ボタンに割り当てします。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メニュー」を表示させる

2

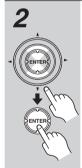
▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

1. 入力/出力設定

1. モニター出力設定
2. HDMI入力設定
3. コンポーネント映像入力設定
4. デジタル音声入力設定
5. アナログ音声入力設定

ONKYO

3

▲/▼ ボタンを押して「5. アナログ音声入力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1-5. アナログ音声入力設定

マルチチャンネル　DVD

◁▷ 値変更　RETURN 戻る　SETUP 終了

ONKYO

4

◄/► ボタンを押して、MULTI CH 端子からの音声入力を割り当てたい入力切換ボタンを選ぶ

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- MULTI CH 端子に接続した機器を再生するときは、AUDIO SEL ボタンをくり返し押して「Multich」を選んでください（☞ 70 ページ）。
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

簡単スピーカー設定（Audyssey MultEQ® XT）をする

付属の調整されたマイクで、Audyssey（オデッセイ） MultEQ（マルチイーキュー） XT は自動的に接続されるスピーカーの低音管理の為、サブウーファー (存在しているなら) への最適なクロスオーバー周波数と主な視聴位置からの距離を測定します。
Audyssey MultEQ XT は、試聴している部屋に起因する音響効果の歪みを取り除き、試聴範囲に起こる問題を補えます。
結果は皆さんにとって明瞭で、バランスの良い音となっています。
Audyssey MultEQ XT を使用可能にすることで、Audyssey Dynamic（ダイナミック） EQ（イーキュー） ™ を使うことができます。それは、どんな音量でもオクターブからオクターブへの適切なバランスを維持する機能です。
この機能を使用する前に、使用する全てのスピーカーを接続してください。
Audyssey Dynanic EQ 機能を有効にすると、Audyssey Dynamic（ダイナミック） Volume（ボリューム） ™ を利用できるようになります。

Audyssey Dynamic Volume について

Audyssey Dynamic Volume は、テレビ番組、コマーシャルや、映画における音量の大小が著しく変化する問題を解決します。
Dynamic Volume は利用者にとって好ましい音量を設定するために視聴者の設定音源を同時に監視し、音量の調整が必要かどうかを決定します。
Dynamic Volume は、必要であるときはいつでも、ダイナミックレンジを最適化している間、再生音量を維持するために必要な急速または緩やかな調整をします。
Audyssey Dynamic EQ と Dynamic Volume 機能が組み合わされることで、映画を見るか否かに関係なく、音源が最適な音量に調節され、認識された低音反応、音のバランス、周囲の印象や対話明快などの状態が、ステレオからサラウンドサウンド内容に変わるかどうかに関係なく、同じ状態で残っています。

Dynamic EQ について

Audyssey Dynamic EQ は人間の知覚が部屋の音響効果を考慮して音量を減少させることによる、音質の悪化を改善します。
Dynamic EQ は、どんなユーザによって選択されたボリューム設定でも正しい周波数特性とサラウンドサウンドレベルを瞬間で選択します。
結果として、ボリュームにおける変化にもかかわらず、低音域反応と、色調のバランスと、周囲の印象が一定のままで残っています。
Dynamic EQ は、部屋で実際の出力音量レベルに入って来るソースレベルから情報を結合します (前提条件として音量修正対策のため)。
Audyssey Dynamic EQ は、どんなボリュームレベルででもあらゆるリスナーによりよいバランスと音を提供するために、Audyssey MultEQ と連携して機能します。

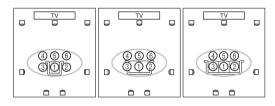
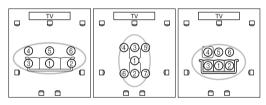
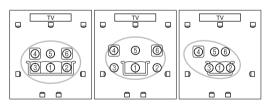
測定位置

何人かで一緒にホームシアターを楽しむための最適なスピーカー設定をするため、付属の簡単スピーカー設定用マイクを最高 8 ケ所まで設置して本体内蔵の自動測定プログラム（Audyssey MultEQ XT）で測定します。
下図を参考に簡単スピーカー設定用マイクを置く位置をご確認ください。

■ 1 回目の測定位置

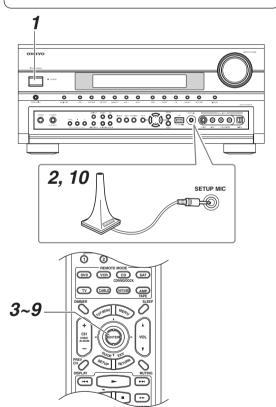
視聴する部屋の中心、あるいは一人で視聴する場合の位置にマイクを置きます。

■ 2 回目～ 8 回目の測定位置

1 回目の中心位置以外の視聴位置を最高 8 ケ所まで測定します。

◯ : 視聴エリア

①～⑦ : 視聴位置

自動測定プログラム（Audyssey MultEQ® XT）を使う

ご注意
- 接続したスピーカーの中に 1 台でも 4 Ωのスピーカーがある場合、簡単スピーカー設定を始める前に「スピーカーインピーダンス」を変更（☞ 58 ページ）してください。
- MUTING 機能が設定されていると、解除されます。
- スピーカー A が選択されている場合にのみ使用できます。
- ヘッドホンを接続しているとき、またはスピーカー B が選択されているときは、測定できません。
- 設定に必要な時間は 3 ケ所で約 15 分かかります。測定位置の数やスピーカーの数によって時間は変わります。
- 測定中はマイクを抜かないでください。測定が中止になります。
- 測定中にスピーカー接続を外さないでください。

1

本機の電源を入れ、接続したテレビの電源を入れる

テレビの入力を本機を接続した入力に切り換えてください。

2

付属の簡単スピーカー設定用マイクを 1 回目の測定位置に設置してから、マイクのプラグを本機の SETUPMIC（セットアップ マイク）端子に接続する

テレビに下記の画面が表示されます。

マイクを視聴時の耳に近い位置に設置します。

ご注意
- 簡単スピーカー設定（Audyssey MultEQ® XT）を始める前に、部屋にあるスピーカーの位置を、映画が楽しめるような場所へ配置して、本機に接続してください。部屋内の音域特性が変化したときは、必要に応じて再び簡単スピーカー設定をします。
- 簡単スピーカー設定を始める前に、スピーカーとマイク間の経路を妨げる障害を避けてください。
  正確に測定することができなくなります。
- 三脚台を使用して、視聴するときの耳に近い高さの位置に、マイクの先端が天井を向くように、固定してください。測定中に、マイクを直接手で握っていると、正確に測定することができなくなります。
- 部屋をできるだけ静かにしてください。周囲の雑音は、測定値の誤差を生むことになります。窓を閉めて、携帯電話、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光ライト、家電機器、調光器、その他の機器を停止してください。
- 携帯電話は、使用中でなくても、RFI（無線周波妨害）のため測定の障害となることがあるので、測定中はすべてのオーディオ機器から遠ざけるか、または電源を切ってください。

3

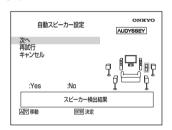
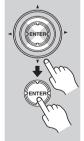
ENTER ボタンを押す

測定プログラムが接続したスピーカーを順次検出してテスト音を順番に出します。検出には数分かかります。

!ヒント

- 測定中は部屋の中をできるだけ静かな状態にしてください。周囲に雑音があると正しく測定できないことがあります。屋外の音、室内の電気製品から出る音や人の話し声などが影響を与えることがあります。
- 測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。

4

スピーカー検出結果が表示されます。

Yes： スピーカーが検出されました。
No： スピーカーは検出されませんでした。

接続したスピーカーがすべて検出されている場合は ▲/▼ ボタンで「次へ」を選び、ENTER ボタンを押す

検出されていないスピーカーがある場合は ▲/▼ ボタンで「再試行」を選び、ENTER ボタンを押す

次へ： 次の操作に進むときに選びます。
再試行： 再測定するときに選びます。手順 ***2*** に戻ります。
キャンセル： 測定結果を反映しないで終了するときに選びます。

5

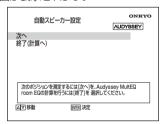
2 回目の測定位置で測定する画面が表示されます。

測定用マイクを 2 回目位置（☞ 62 ページ）に設置して ENTER ボタンを押す

測定に数分かかります。

同じ操作を何回か続けます。

6

3 回目から 7 回目が終了すると以下の画面が表示されます。

▲/▼ ボタンで項目を選び、ENTER ボタンを押す

次へ： さらに別の測定位置を測定したい場合に選びます。8 回目の位置の測定が完了すると自動で手順 ***7*** に移ります。
終了（計算へ）：これ以上の別の測定位置は測定しない場合、またこれまでの測定結果にもとづいて最適なスピーカー設定をする計算処理をする場合に選びます。

7 測定が完了すると計算処理開始の画面が表示されます。

8 計算処理が完了すると設定保存、設定確認をする画面が表示されます。

▲/▼ ボタンで項目を選び、ENTER ボタンを押す

設定保存： 設定を保存して「自動スピーカー設定」画面を終了する場合に選びます。
設定保存中はしばらくお待ちください。

スピーカーコンフィグ設定確認：「スピーカーコンフィグ設定」を確認する場合に選びます。

スピーカー距離設定確認：「スピーカー距離設定」を確認する場合に選びます。

スピーカー音量設定確認：「スピーカー音量設定」を確認する場合に選びます。

キャンセル： 設定結果を反映しないで終了するときに選びます。

9 「設定保存」を選ぶと保存開始の画面が表示されます。

ご注意

- 保存中は電源コードを抜いたり、電源を OFF したりしないでください。

10 測定用のマイクのプラグを抜く

表示部に「UnplugSetupMic」と表示されます。

ご注意

- 簡単スピーカー設定が完了するとスピーカー音場補正（イコライザ）設定（☞ 90 ページ）は Dynamic（ダイナミック） EQ（イーキュー） ™に設定されます。

エラーメッセージ

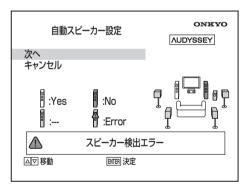
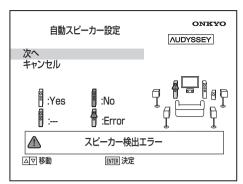
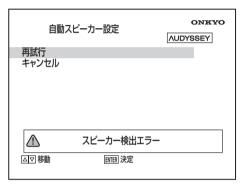
簡単スピーカー設定中にエラーメッセージが表示される場合があります。それぞれのメッセージ内容は以下のとおりです。

❑ 騒音が大きすぎます

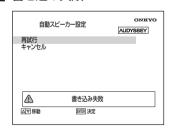
測定環境の騒音が大きすぎて測定できません。騒音の原因を取り除いてください。

再試行： 再度測定します。
（測定していたポイントから再開します）
キャンセル： 測定をキャンセルして終了します。

❑ スピーカー検出エラー

スピーカーが検出されないと、以下のようなエラーメッセージが表示されます。Yes はスピーカーを検出したこと示し、No はスピーカーを検出しなかったことを示します。スピーカーのケーブル接続をチェックし再測定するか、簡単スピーカー設定を中止してください。

右フロントスピーカーは検出されませんでした。

左フロントスピーカーに問題があります。スピーカーが損傷している可能性があります。このマークがサブウーファーに付いた場合はサブウーファーの出力レベルが大きすぎる可能性もあります。

1 回目の測定でのスピーカー数と、2、3 回目の測定でのスピーカー数が違います。
検出できないスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

再試行： エラーが出たところから測定し直します。
キャンセル： 結果をキャンセルして終了します。

❑ 書き込み失敗

測定結果の保存に失敗しました。
2、3 度試してもこのエラーメッセージが出る場合は、本機が故障している可能性があります。
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

再試行： 再度保存し直します。
キャンセル： 結果をキャンセルして終了します。

スピーカー設定をマニュアルで変更する

ごくまれに、簡単スピーカー設定で適切な測定ができないことがあります（例：室内のノイズが大きすぎる場合など）。2 度目のスピーカー設定でもうまくいかなければ、手動で設定する必要があります。

ご注意

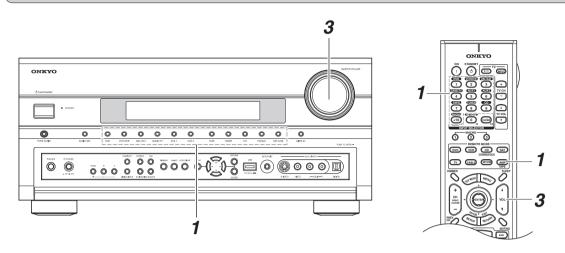
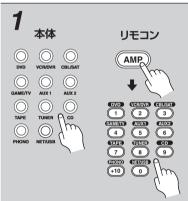
- THX 認証スピーカーシステムを使用するときは、クロスオーバー周波数設定を 80Hz(THX) にすることをお勧めします。簡単スピーカー設定を行っていても手動で 80Hz(THX) に設定し直してください。
- 低域周波数の持つ無指向性、あるいは各部屋の持つ固有の特性などにより、THX 認証スピーカーシステムはローパスフィルター設定、ダブルバス設定、ディスタンス設定を手動で設定し直してください。

アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合

サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、簡単スピーカー設定で認識されない場合があります。測定結果を確認する画面で、サブウーファー（SW）が「いいえ」と表示されるときは、サブウーファーの音量を半分くらいまで上げ、周波数を最大にした状態でご使用ください。また、カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「Off」あるいは「DIRECT」の状態にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。カットオフ周波数を「Off」にできない場合は、周波数を最大にしてご使用ください。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する

1

再生する機器を選ぶ

本体の入力切換ボタンを押します。または、リモコンの AMP（アンプ）ボタンを押してから INPUT（インプット） SELECTOR（セレクター） ボタンを押します。

NET/USB ボタンは、押すたびに「ネットワークサーバー」「USB」「インターネットラジオ」が切り替わります（TX-NA906X のみ）。

2

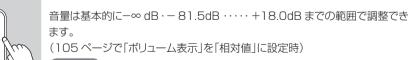
選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を本機の HDMI OUT（アウト）、D4 OUT、COMPONENT（コンポーネント） VIDEO（ビデオ） MONITOR（モニター） OUT（アウト）、MONITOR OUT 端子を接続した入力に切り換えてください。
また、DVD 対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

本体　　リモコン

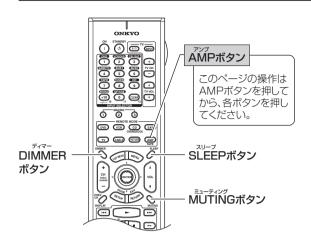
本体の MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム） つまみ、またはリモコンの VOL（ボリューム） ▲/▼ ボタンで音量を調整する

音量は基本的に–∞ dB・– 81.5dB ‥‥‥ +18.0dB までの範囲で調整できます。
（105 ページで「ボリューム表示」を「相対値」に設定時）

!ヒント

- 本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4

リスニングモードを楽しむ（☞ 72 ページ）

各機器の設定をします（☞ 100、101 ページ）。

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。本体の DIMMER ボタンでも操作できます。

リモコンの DIMMER（ディマー） ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

明るい＊1 → 明るい＊2
↑ ↓
暗い＊2 ← やや暗い＊2

＊1 MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム） つまみのまわりのライトが点灯
＊2 MASTER VOLUME つまみのまわりのライトが消灯

一時的に音量を小さくする

リモコンの MUTING（ミューティング） ボタンを押す

● 表示部に「MUTING」が点滅します。

■ 解除するには

もう一度 MUTING ボタンを押してください。
（音量を変えたり、STANDBY（スタンバイ） ボタンを押した場合にも解除されます。）

!ヒント

● 「ミュート減衰量」設定でミューティング時の音量レベルを調整できます（☞ 105 ページ）。

スリープタイマーを使う

リモコンの SLEEP（スリープ） ボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90 分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに 10 分単位で設定時間が短くなります。

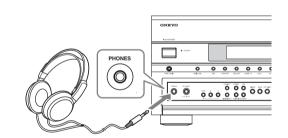
● スリープタイマー設定中はSLEEP表示が点灯します。

■ 残り時間を確認するには

スリープタイマー設定中に SLEEP ボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が 10 分以下のときに再び SLEEP ボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■ スリープタイマーを解除するには

SLEEP 表示が消えるまで、くり返し SLEEP ボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

ヘッドホンで聞く

PHONES（フォーンズ） 端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

● 接続する時は音量を下げてください。
● ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。
● 「Pure Audio」、「Mono」または「Direct」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になります。
● ヘッドホン接続時は、「Pure Audio」、「Mono」、「Direct」または「Stereo」のリスニングモードが選択できます。
● マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聴こえます。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護された DVD などはデジタル録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL IN（COAXIAL または OPTICAL）端子から入力したデジタル信号は、DIGITAL OUT（OPTICAL）端子からのみ出力されます。
  HDMI IN 端子から入力された信号は出力されません。
  アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- DTS 対応の CD や LD をアナログ録音すると、DTS 信号はノイズとして録音されることがあります。
- VCR/DVR IN 端子に入力された映像や音声は、VCR/DVR OUT 端子に出力されません。同様に TAPE IN 端子に入力された音声は、TAPE OUT 端子に出力されません。これは出力と入力にループができて故障するのを防ぐためです。
- リスニングモードが「Pure Audio」のときは、ビデオ回路の電源がオフになるため映像が出力されません。録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。

再生しながら録画する

現在再生中の音楽や映画を録画します。

1

入力切換ボタンを押して録画する機器（再生側）を選ぶ

2

録画する機器（録画側）の準備をする

- 録画する機器を録画待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録画機器で行ってください。
- 録画のしかたについては、録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3

録画を始める

手順 ***1*** で選んだ再生機器を再生します。

異なるソースの音楽と映像を録音･録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD 端子に接続した CD プレーヤーの音声と AUX 2 INPUT VIDEO 端子に接続したビデオカメラの映像を VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録音･録画する例です。

1

録画する機器（再生側）の準備をする

例： AUX 2 INPUT VIDEO 端子に接続したビデオカメラと CD IN 端子に接続した CD プレーヤーを準備する

2

VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

3

AUX 2

入力切換ボタンの「AUX 2」を押す

4

入力切換ボタンの「CD」を押す

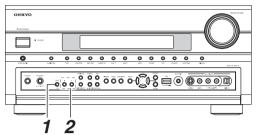
音声出力は CD に変わりますが、映像出力は手順 ***3*** で選んだ AUX 2 のまま変わりません。VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、AUX 2 INPUT VIDEO 端子に接続したビデオカメラと CD プレーヤーの再生を始めます。
映像はビデオカメラから録画し、音声は CD プレーヤーから録音されます。

ご注意

- この方式で録音できるのは TUNER、TAPE、CD、PHONO 端子に接続した機器の音声のみです。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」、「Pure Audio」、「THX」以外のリスニングモード時の音質を調整することができます。

1 TONE ボタンをくり返し押して、調整するスピーカーの「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ

2 ＋/－ボタンを押して、レベルを調整する

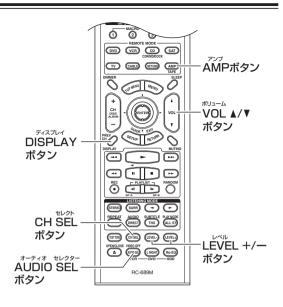
Bass： フロントスピーカーの低音の音質を、－10dB ～＋10dB の範囲内で 1dB ずつ調整できます。（お買い上げ時の設定は「0」です。）

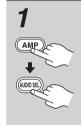
Treble： フロントスピーカーの高音の音質を、－10dB ～＋10dB の範囲内で 1dB ずつ調整できます。（お買い上げ時の設定は「0」です。）

ご注意

- スピーカー B が選ばれているときは、これらのボタンで調整できません。一度リモコンの SP A ボタンでスピーカー A を選んでから「Bass」「Treble」を調整し、SP B ボタンでスピーカー B に戻してください。
- この設定はフロントスピーカーも含めてスピーカー A/B で同じ設定値が適用されます。

!ヒント

- 「3-1. 音質調整」メニューからも設定できます。（☞ 94 ページ）
- Direct、Pure Audio、THX リスニングモードではここでの設定は効果がありません。

マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVD プレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVD オーディオやスーパーオーディオ CD などの再生をお楽しみいただけます。36 ページの通り正しく接続され、60 ページの通り、MULTI CH 端子が入力切換ボタンに割り当てられていることを確認してください。

1 AMP ボタンを押してから AUDIO SEL ボタンを押して、「Multich」を選び、「ANALOG」表示を点灯させる

Audio Selector
: Multich

ANALOG

点灯

2 DVD プレーヤーを再生する

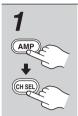
3 VOL ▲/▼ ボタンで音量を調整する

!ヒント

- 本体の入力切換ボタン、MASTER VOLUME つまみでも操作できます。

スピーカーの音量を一時的に調整する

一時的に各スピーカーの音量をお好みに調整することができます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

リモコンの AMP（アンプ）ボタンを押してから、CH SEL（チャンネル セレクト）ボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

ご注意

- スピーカー構成の設定（☞ 85 ページ）で「なし」または「使用しない」を選択したスピーカーは調整できません。
- ミューティング機能がオンになっているときは調整できません。

2

LEVEL（レベル）＋ / －ボタンを押して、音量を調整する

スピーカーは－ 12 d B ～＋ 12 d B、サブウーファーは－ 15 d B ～＋ 12 d B の範囲で調整できます。

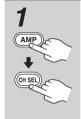
■ ヘッドホンの音量を調整する

ヘッドホン接続中に、左右の音量をお好みに調整することができます。スタンバイ状態にしても設定を記憶しています。

1

リモコンの AMP ボタンを押してから CH SEL ボタンを押して、「H P Left（ヘッドホン レフト）」（左）または「HP Right（ライト）」（右）を選ぶ

HP Left
: -3.5dB

2

LEVEL ＋ / －ボタンを押して、音量を調整する

－ 12 d B ～ +12 d B の範囲で調整できます。

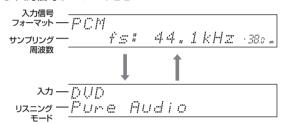
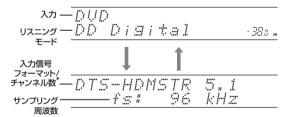
表示を確認する

AMP ボタンを押してから、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押す

本体の DISPLAY ボタンでも操作できます。

- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- DISPLAYボタンを押すたびに、表示内容が下記のように切り換わります。

● 入力信号がアナログのとき

● 入力信号が PCM のとき

● 入力信号が PCM 以外のデジタル信号のとき

＊ 入力信号がアナログのときは信号フォーマットの表示はありません。入力信号が PCM のときはサンプリング周波数が表示されます。入力信号がデジタルのときは信号フォーマットとチャンネル数が表示されます。マルチチャンネルの PCM などのデジタル入力の場合は信号フォーマット、チャンネル数、サンプリング周波数が表示されます。
サンプリング周波数やフォーマット表示は、約 3 秒経過すると、もとの表示に戻ります。

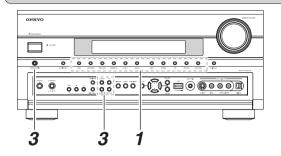
● 入力信号が AAC の音声多重放送(2 ヶ国語放送など)のとき

入力 — CBL/SAT
入力信号フォーマット — AAC :1+1

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

リスニングモードを選ぶ

本体のボタンで選ぶ

1

入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

入力表示を確認する場合は、DISPLAY ボタンを押してください(☞ 71 ページ)。

3

PURE AUDIO ボタン、LISTENING MODE ◄/► ボタン、THX ボタン、または STEREO ボタンでリスニングモードを選ぶ

PURE AUDIO：リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。
Pure Audio ボタンが点灯します。
このモードでは、表示部が消灯します。また、HDMI OUT 端子以外のビデオ出力から、映像が出なくなります。
もう 1 度押すと、1 つ前のリスニングモードに戻ります。

LISTENING MODE ◄/►：対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

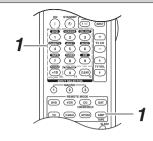
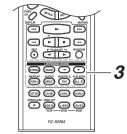
STEREO：リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

THX：THX のリスニングモードに切り換えます。

!ヒント

- 希望のリスニングモードを選べない場合は、入力されている信号を確認してください。
- 対応するリスニングモード一覧表をご覧ください（☞ 76 ～ 82 ページ）。

リモコンで選ぶ

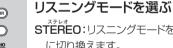
1

INPUT SELECTOR ボタンを押して、再生する機器を選んでから AMP ボタンを押す。

2

選んだ機器を再生する

入力表示を確認する場合は、DISPLAY ボタンを押してください(☞ 71 ページ)。

3

リスニングモードボタンを押してリスニングモードを選ぶ

STEREO：リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

SURR：Dolby Digital や DTS のリスニングモードに切り換えます。

◄/►：対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

PURE A：リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。Pure Audio インジケーターが点灯します。
このモードでは、表示部が消灯します。また、HDMI OUT 端子以外のビデオ出力から、映像が出なくなります。

DIRECT：リスニングモードを「Direct」に切り換えます。

THX：THX のリスニングモードに切り換えます。

ALL ST：リスニングモードを「All Ch Stereo」に切り換えます。

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。本機には以下のリスニングモードがあります。

Pure Audio

Direct モードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（HDMI 以外のビデオ回路の電源を切るため、HDMI 以外の映像が出なくなります。）

Direct

もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。

Stereo

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2 言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVD などに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

Multich

アナログのマルチチャンネル接続や HDMI 接続をしているときに使用できるリスニングモードです。

Dolby Pro Logic IIx

2 チャンネルで収録された音楽や映画を 6.1 から 7.1 チャンネルで再生できます。
明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CD や映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。
5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 7.1 チャンネルで再生できます。

- Dolby PL IIx Movie
  VHS や DVD ビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。
- Dolby PL IIx Music
  CD などのステレオ音楽や、ライブを記録した DVD に適しています。
- Dolby PL IIx Game
  ゲームを楽しむときに使用できます。

Dolby Pro Logic II

2 チャンネルで収録された音楽や映画を 5.1 チャンネルで再生できます。

サラウンドバックスピーカーを接続していない 5.1 チャンネルのときは、Dolby Pro Logic IIx の代わりに、このリスニングモードになります。

Dolby Digital

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。Dolby Digital ロゴのついた DVD、LD などの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX/Dolby EX

5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 6.1/7.1 チャンネルで再生できます。
5.1 チャンネルに背面のサラウンドチャンネルを増やし、6.1/7.1 チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。5.1 チャンネルで記録された DolbyDigital ロゴのついた DVD、LD の再生時は Dolby DigitalEX となり、その他のソースでは Dolby EX となります。

Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus フォーマットのブルーレイ、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHD フォーマットのブルーレイ、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。
本機が対応している信号については、71 ページを参照してください。

DTS

完全に分離させた 5.1 チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するには DTS 出力が可能な DVD プレーヤーが必要です。DTS ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24

DTS 96/24 ロゴのついた CD、DVD、LD などに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete（ディスクリート）

DTS にサラウンドバックを追加した、6.1/7.1 チャンネルサラウンドです。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めてすべてのチャンネルが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。DTS-ES ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix（マトリックス）

DTS-ES 収録ソフトを 6.1/7.1 チャンネル再生します。
DTS-ES 収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1/7.1 チャンネルに復元して再生します。
DTS-ES ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo（ネオ）：6

2 チャンネルで収録されたソースを 5.1/6.1/7.1 チャンネルで再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。
映画に最適な Cinema（シネマ）モードと音楽再生に最適な Music（ミュージック）モードが選択できます。
5.1 チャンネルで収録された DTS ロゴのついた DVD や CD の再生時は Neo：6 となり、6.1/7.1 チャンネルで再生します。

- Neo：6 Cinema（シネマ）
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現され、2 チャンネルの VHS や DVD ビデオ、テレビ番組に適しています。
- Neo：6 Music（ミュージック）
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の 2 チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2 チャンネルで収録された CD などに適しています。

DTS-HD High（ハイ） Resolution（リゾリューション） Audio（オーディオ）

DTS-HD High Resolution Audio フォーマットのブルーレイ、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

DTS-HD Master（マスター） Audio（オーディオ）

DTS-HD Master Audio フォーマットのブルーレイ、HDDVD ディスクに使用できるリスニングモードです。
本機が対応している信号については、72 ページを参照してください。

Neural THX 5.1/7.1

特殊な信号処理技術を採用し、チャンネルセパレーションとオーディオ特性を細かく処理することにより音像がより微細に再生されます。両方のリスニングモードとも 2 チャンネルで収録された音楽や映画を 5.1 あるいは 7.1 チャンネルで再生できます。放送局ではサラウンドの音声コンテンツをエンコードしてステレオで送信することができ、サラウンドでもステレオでも楽しむことができます。

DSD

Direct（ダイレクト） Stream（ストリーム） Digital（デジタル）の略でスーパーオーディオ CD に音声データを収録するときに使われます。
スーパーオーディオ CD のマルチチャンネル再生に使用します。

AAC

MPEG（エムペグ）-2 AAC 方式で圧縮されたデジタルデータで、最大 5.1 チャンネルのサラウンド音声を提供します。
地上デジタル、BS/CS デジタル放送などの AAC ソースを再生するために使用します。

THX

ルーカスフィルム (Lucasfilm) 社が提唱する劇場用音響の品質規格。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ / 残響音 / 音響機材 / スピーカーの設置位置など厳格な品質基準が設けられています。全世界で 5,000 を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。
THX モードは、ホームシアター環境での再生のために、音質上・空間上のサウンドトラック特性を丁寧に最適化します。マトリックスエンコードされた 2 チャンネルソースやマルチチャネルソースで使用することができます。サラウンドバックの音声は、ソースや選択するリスニングモードによって異なります。

- THX Cinema（シネマ）
  THX Cinema モードは、映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画などのサウンドトラックをホームシアター環境での再生のために補正します。このモードでは、THX Loudness Plus が劇場レベルに設定され、Re-EQ、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）、アダプティブ･デコリレーション（Adaptive Decorrelation）がアクティブになります。
- THX Music（ミュージック）
  THX Music モードは、主として映画よりも明らかに高レベルにマスタリングされている音楽を聴くために調整されています。このモードでは、THX Loudness Plus が音楽再生のために設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）のみがアクティブになります。

- THX Games
  THX Games モードは、ゲームの音声を空間的に忠実に再生するためのモードで、多くの場合映画と同じミキシングがされますが、小規模な環境ためのモードです。THX Loudness Plus がゲームの音声のレベルに応じて設定され、ティンバー・マッチング(Timbre Matching)がアクティブになります。
- THX Ultra2 Cinema
  5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 7.1 チャンネルで再生できます。再生するサラウンド成分を分析し、雰囲気や方向感を最適化するようサラウンドバックに振り分けます。横と後方の広がりと定位感をさらに高めます。
- THX Ultra2 Music
  このモードは、5.1 チャンネルで収録された音楽ソースを 7.1 チャンネルで再生使用できるように設計されています。
- THX Ultra2 Games
  このモードは、5.1 チャンネルで収録されたゲームソースを 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルで再生使用できるように設計されています。
- THX Surround EX
  ドルビーラボラトリーズと THX 社で共同開発されたホームシアター用フォーマットです。ドルビーデジタル EX の技術で従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計 7.1 チャンネルとなります。

■ オンキヨー独自のリスニングモード

Mono Movie
古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施した音を出力します。
モノラルでも臨場感をお楽しみ頂けます。

Orchestra
クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged
アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix
ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

TV Logic
放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch Stereo
BGM として音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

Full Mono
すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

T-D (Theater-Dimensional)
2 つ、あるいは 3 つのスピーカー環境でも、バーチャル 5.1ch サラウンドを楽しめます。残響の少ないリスニング環境で使用されるとより良い効果が得られます。

ご注意
- オンキヨー独自のリスニングモードでは、オンキヨーのオリジナル DSP で処理される前に一度ドルビー PLIIx または Neo:6 の処理回路を通る場合があります。そのときは PLIIx あるいは Neo:6 の表示が点灯します。

聴きたいリスニングモードが選べない
- デジタル接続はしましたか?または HDMI 接続はしましたか?
  ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか?
  ドルビーデジタルや DTS ロゴのついた DVD の本編を再生中に、本機の PCM 表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定が PCM になっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

Analog ソースと PCM ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	Analog/PCM		マルチチャンネルアナログ	マルチチャンネル PCM					
	32～96kHz*1	176.4/192kHz*2		32～96kHz*1 マルチチャンネル	32～96kHz*1 2ch	32～96kHz*1 モノラル/多重音声	176.4/192kHz*2 マルチチャンネル	176.4/192kHz*2 2ch	176.4/192kHz*2 モノラル/多重音声
主なソース / リスニングモード	CD、TV、ラジオ		DVD	DVD			DVD		
Pure Audio	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Direct	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●		●	●	●	●	●	●
Mono	●			●	●	●			
Multichannel			●	●			●		
Neo:6				●*4					
Neural THX				●*7	●*5*7				
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie*3	●			●*4	●				
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music*3	●			●*4	●				
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game*3	●				●				
Dolby EX				●*4					
Neo:6 Cinema	●				●				
Neo:6 Music	●				●				
THX Cinema/Music/Games*5				●					
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema*5	●*3			●*4	●*3				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music*5	●*3			●*4	●*3				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games*5	●*3				●*3				
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music*5	●				●				
Neo:6 + THX Cinema/Music/Game				●*4					
PLII Game +THX Ultra2 Games	●				●				
THX Surround EX				●*4					
THX Ultra2 Cinema/Music/Games				●*4					
Neural THX +THX Cinema/Music/Games*5				●*7	●*7				
Mono Movie*5*6	●			●	●	●			
Orchestra*5*6	●			●	●	●			
Unplugged*5*6	●			●	●	●			
Studio-Mix*5*6	●			●	●	●			
TV Logic*5*6	●			●	●	●			
All Ch Stereo	●			●	●	●			
Full Mono	●			●	●	●			
T-D*6	●			●	●	●			

*1 32/44.1/48/88.2/96kHz
*2 マルチチャンネルの 176.4/192kHz PCM 信号は、HDMI 接続からのみ出力します。
*3 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
*4 ソースによっては、選べないことがあります。
*5 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*6 88.2 kHz、96 kHz の PCM は、それぞれ 44.1kHz、48kHz で処理されます。
*7 32～48kHz の信号で選択することができます。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

!ヒント

- 入力信号の種類は、DISPLAY ボタンを押して表示部で確認することができます。
- 多重音声の場合は 95 ページの多重音声の設定で主音声または副音声を選択します。

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	ドルビーデジタル			ドルビーデジタルプラス		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル／多重音声	マルチチャンネル	2ch	モノラル／多重音声
主なソース / リスニングモード	DVD、DTV など			ブルーレイ、HD DVD		
Pure Audio	●	●	●	●	●	●
Direct	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●	●	●
Neo:6	●*3			●*3		
Neural THX	●	●*4		●	●*4	
Dolby Digital	●					
Dolby Digital Plus				●*1		
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*2	●*3	●		●*3	●	
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*2	●*3	●		●*3	●	
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*2		●			●	
Dolby EX	●*3	●		●*3		
Neo:6 Cinema		●			●	
Neo:6 Music		●			●	
THX Cinema/Music/Games*4	●			●		
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema*4	●*3	●*2		●*3	●*2	
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music*4	●*3	●*2		●*3	●*2	
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games*4		●*2			●*2	
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music*4		●			●	
Neo:6 + THX Cinema/Music/Game	●*3			●*3		
PLII Game +THX Ultra2 Games		●			●	
THX Surround EX	●*3			●*3		
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●*3			●*3		
Neural THX +THX Cinema/Music/Games*4	●	●		●	●	
Mono Movie*4	●	●	●	●	●	●
Orchestra*4	●	●	●	●	●	●
Unplugged*4	●	●	●	●	●	●
Studio-Mix*4	●	●	●	●	●	●
TV Logic*4	●	●	●	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●	●	●
T-D	●	●	●	●	●	●

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、入力信号によっては、Dolby Digital が代わりに使用されます。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
*3 ソースによっては、選べないことがあります。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

ご注意　HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の 1 つと考えられますが、故障ではありません。

!ヒント
- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- 多重音声の場合は 95 ページの多重音声の設定で主音声または副音声を選択します。

DTS ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	DTS、DTS96/24			DTS-ES Discrete/Matrix
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	
主なソース / リスニングモード	CD、DVD など			CD、DVD など
Pure Audio	●	●	●	●
Direct	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●
DTS, DTS 96/24	●			●
DTS-ES Discrete/Matrix				●*1
Neo:6	●*3			
Neural THX	●*5	●*4*5		
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*2	●*3	●		
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*2	●*3	●		
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*2		●		
Dolby EX	●*3			
Neo:6 Cinema	●	●		
Neo:6 Music	●	●		
THX Cinema/Music/Games*4	●			
DTS-ES Discrete/Matrix*4 +THX Cinema/Music/Games				●*1
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema*4	●*3	●*2		
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music*4		●*2		
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games*4		●*2		
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music*4		●		
Neo:6 + THX Cinema/Music/Game	●*3			
PLII Game +THX Ultra2 Games		●		
THX Surround EX	●*3			
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●*3			
Neural THX +THX Cinema/Music/Games*4	●*5	●*5		
Mono Movie*4*5	●	●	●	●
Orchestra*4*5	●	●	●	●
Unplugged*4*5	●	●	●	●
Studio-Mix*4*5	●	●	●	●
TV Logic*4*5	●	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●
T-D*5	●	●	●	●

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTS になります 。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
*3 ソースによっては、選べないことがあります。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*5 DTS 96/24 は、DTS で処理されます。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

!ヒント

- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。

TrueHD ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	TrueHD			TrueHD 192kHz		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル / 多重音声	マルチチャンネル	2ch	モノラル / 多重音声
主なソース / リスニングモード	ブルーレイ、HD DVD			ブルーレイ、HD DVD		
Pure Audio	●	●	●	●	●	
Direct	●	●	●	●	●	
Stereo	●	●	●	●	●	
Mono	●	●	●			
True HD	●			●		
Neo:6	●＊2					
Neural THX	●＊4	●＊3＊4				
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie＊1	●＊2	●				
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music＊1	●＊2	●				
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game＊1		●				
Dolby EX	●＊2					
Neo:6 Cinema		●				
Neo:6 Music		●				
THX Cinema/Music/Games＊3	●					
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema＊3	●＊2	●＊1				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music＊3	●＊2	●＊1				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games＊3		●＊1				
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music＊3		●				
Neo:6 + THX Cinema/Music/Game	●＊2					
PLII Game +THX Ultra2 Games		●				
THX Surround EX	●＊2					
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●＊2					
Neural THX +THX Cinema/Music/Games＊3	●＊5	●＊5				
Mono Movie＊3	●	●	●			
Orchestra＊3	●	●	●			
Unplugged＊3	●	●	●			
Studio-Mix＊3	●	●	●			
TV Logic＊3	●	●	●			
All Ch Stereo	●	●	●			
Full Mono	●	●	●			
T-D	●	●	●			

＊1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
＊2 ソースによっては、選べないことがあります。
＊3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
＊4 32 ～ 48kHz の信号で選択することができます。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

ご注意
HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の 1 つと考えられますが、故障ではありません。

!ヒント
- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- 多重音声の場合は 95 ページの多重音声の設定で主音声または副音声を選択します。

DTS-HD ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	DTS-HD High Resolution			DTS-HD Master Audio			DTS-HD Master Audio 192kHz		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	マルチチャンネル	2ch	モノラル	マルチチャンネル	2ch	モノラル
主なソース / リスニングモード	ブルーレイ、HD DVD			ブルーレイ、HD DVD			ブルーレイ、HD DVD		
Pure Audio	●	●	●	●	●	●	●	●	
Direct	●	●	●	●	●	●	●	●	
Stereo	●	●	●	●	●	●	●	●	
Mono	●	●	●	●	●	●			
DTS-HD High Resolution	●								
DTS-HD Master Audio				●			●		
Neo:6	●*2			●*2					
Neural THX	●*4	●*3*4		●*4	●*3*4				
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*1	●*2	●		●*2	●				
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*1	●*2	●		●*2	●				
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*1		●			●				
Dolby EX	●*2			●*2					
Neo:6 Cinema		●			●				
Neo:6 Music		●			●				
THX Cinema/Music/Games*3	●			●					
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema*3	●*2	●*1		●*2	●*1				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music*3	●*2	●*1		●*2	●*1				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games*3		●*1			●*1				
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music*3		●			●				
Neo:6 + THX Cinema/Music/Game	●*2			●*2					
PLII Game +THX Ultra2 Games		●			●				
THX Surround EX	●*2			●*2					
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●*2			●*2					
Neural THX +THX Cinema/Music/Games*4	●*4	●*4		●*4	●*4				
Mono Movie*3	●	●	●	●	●	●			
Orchestra*3	●	●	●	●	●	●			
Unplugged*3	●	●	●	●	●	●			
Studio-Mix*3	●	●	●	●	●	●			
TV Logic*3	●	●	●	●	●	●			
All Ch Stereo	●	●	●	●	●	●			
Full Mono	●	●	●	●	●	●			
T-D	●	●	●	●	●	●			

＊1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
＊2 ソースによっては、選べないことがあります。
＊3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
＊4 32 ～ 48kHz の信号で選択することができます。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

ご注意 HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の 1 つと考えられますが、故障ではありません。

!ヒント
- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。

DTS Express（エクスプレス）、DSD ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	DTS Express			DSD[*1]	
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	マルチチャンネル（3／2.1）	2ch
主なソース／リスニングモード	ブルーレイ、HD DVD			SACD	
Pure Audio	●	●	●	●	●
Direct	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●	●
DTS Express	●				
DSD				●	
Neo:6	●[*3]			●	
Neural THX	●	●[*4]		●	●[*4]
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie[*2]	●[*3]	●		●	●
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music[*2]	●[*3]	●		●	●
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game[*2]		●			●
Dolby EX	●[*3]			●	
Neo:6 Cinema		●			●
Neo:6 Music		●			●
THX Cinema/Music/Games[*4]	●			●	
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema[*4]	●[*3]	●[*2]		●	●[*2]
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music[*4]	●[*3]	●[*2]		●	●[*2]
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games[*4]		●[*2]			●[*2]
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music[*4]		●			●
Neo:6 + THX Cinema/Music/Game	●[*3]			●	
PLII Game +THX Ultra2 Games		●			●
THX Surround EX	●[*3]			●	
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●[*3]			●	
Neural THX +THX Cinema/Music/Games[*4]	●			●	
Mono Movie[*4]	●	●	●	●	●
Orchestra[*4]	●	●	●	●	●
Unplugged[*4]	●	●	●	●	●
Studio-Mix[*4]	●	●	●	●	●
TV Logic[*4]	●	●	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●	●
T-D	●	●	●	●	●

[*1] DSD 信号は、PCM44.1kHz に変換されてから処理されます。
[*2] サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
[*3] ソースによっては、選べないことがあります。
[*4] サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

ご注意　HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の 1 つと考えられますが、故障ではありません。

!ヒント
- お手持ちの SACD プレーヤーで PCM 出力か DSD 出力かを選択できるときは、PCM 出力を選ぶことでより良い音質でお楽しみいただける場合があります。
- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。

AAC ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	AAC		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル / 多重音声
主なソース / リスニングモード	地上 /BS/110° CS デジタル		
Pure Audio	●	●	●
Direct	●	●	●
Stereo	●	●	●
Mono	●	●	●
AAC	●		
Neo:6	●＊2		
Neural THX	●	●＊3	
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie＊1	●＊2	●	
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music＊1	●＊2	●	
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game＊1		●	
Dolby EX	●＊2		
Neo:6 Cinema		●	
Neo:6 Music		●	
THX Cinema/Music/Games＊3	●		
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema＊3	●＊2	●＊1	
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music＊3	●＊2	●＊1	
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games＊3		●＊1	
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music＊3	●＊2	●	
Neo:6+THX Cinema/Music/Games	●＊2		
PLII Game +THX Ultra2 Games		●	
THX Surround EX	●＊2		
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●＊2		
Neural THX +THX Cinema/Music/Games＊3	●	●	
Mono Movie＊3	●	●	●
Orchestra＊3	●	●	●
Unplugged＊3	●	●	●
Studio-Mix＊3	●	●	●
TV Logic＊3	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●
Full Mono	●	●	●
T-D	●	●	●

＊1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
＊2 ソースによっては、選べないことがあります。
＊3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

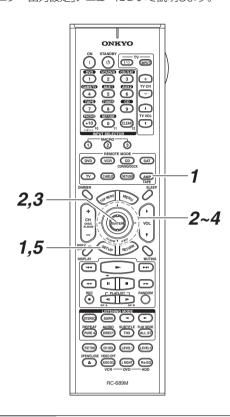
左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

!ヒント

- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- 多重音声の場合は 95 ページの多重音声の設定で主音声または副音声を選択します。

設定する（応用編）

モニターの出力設定をする

「モニター出力設定」メニューについて説明します。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力設定」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

1. 入力/出力設定　ONKYO
1. モニター出力設定
2. HDMI入力設定
3. コンポーネント映像入力設定
4. デジタル音声入力設定
5. アナログ音声入力設定

移動　ENTER 決定　RETURN 戻る　SETUP 終了

3

▲/▼ ボタンを押して設定したい設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は次ページをご覧ください。

4

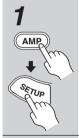
▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで選択する

1 つ前の画面に戻るときは、RETURN（リターン）ボタンを押します。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

画質調整

■ 解像度（Resolution）

本機がアップコンバージョンするときに出力する映像の解像度を設定します。お手持ちのテレビに合わせて設定してください。

- **スルー：** 入力された映像の解像度と同じ解像度で出力します。（お買い上げ時の設定）
- **自動：** テレビ側が推奨しているいちばん良い解像度で出力します。モニター出力設定（Monitor Out）が「Analog」に設定されていると利用できません。
- **480p：** 入力された映像の解像度が 480p のときと 480p にコンバージョンしたいときに選びます。
- **720p：** 入力された映像の解像度が 720p のときと 720p にコンバージョンしたいときに選びます。
- **1080i：** 入力された映像の解像度が 1080i のときと 1080i にコンバージョンしたいときに選びます。
- **1080p：** 入力された映像の解像度が 1080p のときと 1080p にコンバージョンしたいときに選びます。モニター出力設定（Monitor Out）が「Analog」に設定されていると利用できません。
- **ソース：** 「4-4. 画質調整」内の「解像度」で設定した解像度で出力します。（ソースごとの設定が可能になります。）（☞ 103 ページ）

■ 明るさ（Brightness）

この設定で画面の明るさを -50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ コントラスト（Contrast）

この設定で明暗の差を -50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ 色合い（Hue）

この設定で画面の赤と緑のバランスを -20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-20 は最も緑色が強くなります。+20 は最も赤色が強くなります。

■ 彩度（Saturation）

この設定で濃さを -50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最も淡い色になります。+50 は最も鮮やか色になります。

■ R 明るさ（R Brightness）

この設定で画面の R（赤）の明るさを -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ R コントラスト（R Contrast）

この設定で R（赤）の明暗の差を -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ G 明るさ（G Brightness）

この設定で画面の G（緑）の明るさを -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ G コントラスト（G Contrast）

この設定で G（緑）の明暗の差を -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ B 明るさ（B Brightness）

この設定で画面の B（青）の明るさを -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ B コントラスト（B Contrast）

この設定で B（青）の明暗の差を -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

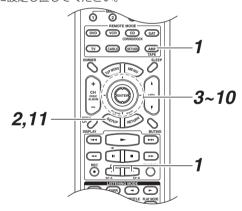
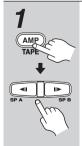
スピーカーの設定をする

この中の多くのメニューは簡単スピーカー設定（61 ページ）で自動設定されています。以下の手順は、簡単スピーカー設定の後に使用するスピーカーを変更した場合や手動で設定したい場合、簡単スピーカー設定で自動設定された内容を確認する場合に使用します。
ヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

スピーカー構成の設定（スピーカーコンフィグ）

> 簡単スピーカー設定（☞ 61 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。（スピーカー B のフロント、LFE ローパスフィルタ、ダブルバスは手動で設定する必要があります。）

各スピーカーの有 / 無やクロスオーバー周波数などを設定します。またスピーカー A と B で使用するスピーカーをそれぞれ選択することもできます。

- THX認証のスピーカーシステムを使用するときは、簡単スピーカー設定を行ってもこの設定で80Hz（THX）に設定し直してください。

1

AMP（アンプ） ボタンを押してから SP A または SP B ボタンを押して、設定するスピーカーセット A または B を選ぶ（TX-NA906X のみ）

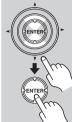
ご注意

- 「スピーカー設定」（☞ 58 ページ）で「フロント（スピーカー B）」が「未使用」になっている場合、スピーカーセット B は選べません。
- TX-SA806X：AMP ボタンを押して、手順 2 に進みます。

2

SETUP（セットアップ） ボタンを押して「メインメニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

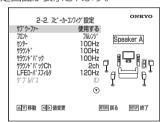
3

▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER（エンター） ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

4

▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカーコンフィグ設定」を選び、ENTER ボタンを押す

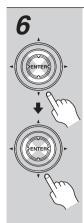
設定画面が表示されます。

5

▲/▼ ボタンを押して「サブウーファー」を選び、◄/► ボタンでサブウーファーの使用 / 不使用を選ぶ

使用する　：サブウーファーを接続している場合
使用しない：サブウーファーを接続していない場合

ご注意

- この設定はスピーカー A/B で共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

6

▲/▼ ボタンを押して設定するスピーカーを選び、◄/► ボタンでスピーカーの有無とクロスオーバー周波数を選ぶ

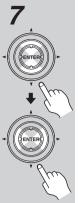
「フロント」「センター」「サラウンド」「サラウンドバック」についてそれぞれ設定します。
接続されていないスピーカーは「なし」を選んでください。
接続されているスピーカーはクロスオーバー周波数を選んでください。

!ヒント

- クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を何 Hz からサブウーファーで出力するかの設定で、**フルレンジ、40、50、60、70、80（THX）、90、100、120、150、200Hz** から選択できます。お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

ご注意

- THX 認証のスピーカーシステムを使用するときは、簡単スピーカー設定を行ってもこの設定で 80Hz（THX）に設定し直してください。
- フロントは「なし」に設定できません。サラウンドを「なし」にするとサラウンドバックも自動的に「なし」になります。
- 手順 ***5*** でサブウーファーを「使用しない」にした場合、フロントは「フルレンジ」に固定されます。他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。
- フロントを「フルレンジ」以外に設定した場合、他のスピーカーで「フルレンジ」を選べなくなります。
- フロントはスピーカー A/B で別々に設定できます。現在選択されているスピーカーセットのフロントの値を変更しても、もう一方は変わりません。
  その他のスピーカーの設定は A/B で共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

7

▲/▼ ボタンを押して「サラウンドバック Ch（チャンネル）」を選び、◄/► ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch（チャンネル） ： 接続したサラウンドバックスピーカーが 1 つの場合（SURROUND BACK SPEAKERS L 端子に接続してください。）

2ch ： 接続したサラウンドバックスピーカーが 2 つの場合

ご注意

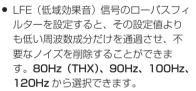
- サラウンドバックスピーカーが「なし」になっている場合、この項目は設定できません。
- この設定はスピーカー A/B で共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

8

▲/▼ ボタンを押して「LFE ローパスフィルタ」を選び、◄/► ボタンでローパスフィルタの周波数を選ぶ

!ヒント

- LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。**80Hz（THX）、90Hz、100Hz、120Hz** から選択できます。

ご注意

- THX 認証のスピーカーシステムを使用するときは、簡単スピーカー設定を行ってもこの設定で 80Hz（THX）に設定し直してください。
- この設定はスピーカー A/B で共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

9

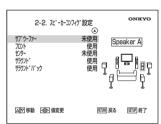
▲/▼ ボタンを押して「ダブルバス」を選び、◄/► ボタンで設定する

オフ(THX)：
サブウーファーを強調しません。

オン：
サブウーファーを強調します。

ご注意
- サブウーファーを「使用する」にしていて、フロントを「フルレンジ」に設定している場合のみ設定できます。
- THX 認証のスピーカーシステムを使用するときは「オフ（THX)」を選択してください。
- この設定はスピーカーA/Bで共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

10

▲/▼ ボタンを押して設定するスピーカーを選び、▲/▼ ボタンで使用 / 未使用を選ぶ（TX-NA906X のみ）

（この画面は「スピーカーコンフィグ設定」の2 ページ目 / 「ダブルバス」の下にあります。）

!ヒント
- 手順 ***5***、手順 ***6*** では実際に接続されているスピーカーの有無を設定しました。ここでは接続されている各スピーカーを使用するかどうかを設定します。
- この設定はスピーカー A/B で別々に設定できます。現在選択されているスピーカーセット（A または B）の値を変更しても、もう一方は変わりません。このため、スピーカー A ではサラウンドバックスピーカーを使用し、スピーカー B ではサラウンドバックスピーカーを使用しないといったように、A/B で使用するスピーカーを使い分けることができます。

ご注意
- フロントスピーカーは「未使用」にできません。常に「使用」となります。
- 手順 ***5***、手順 ***6*** で「使用しない」または「なし」にしたスピーカーは設定できません。画面上で「使用」となっていても実際には該当するスピーカーから音声は出力されません。

11

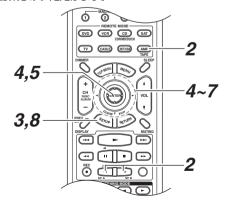
SETUP ボタンを押す

設定が終了したら、SETUP ボタンを押します。メニュー画面が消えます。
- メインメニュー画面に戻るには、RETURN ボタンを押してください。

!ヒント
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

簡単スピーカー設定（☞ 61 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。（スピーカー B のフロントは手動で設定する必要があります。）

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

1

視聴位置から各々のスピーカーまでの距離を測って、メモに書き留めてください

2

AMP ボタンを押してから SP A または SP B ボタンを押して、設定するスピーカーセット A または B を選ぶ（TX-NA906X のみ）

ご注意

- 「スピーカー設定」（☞ 58 ページ）で「フロント（スピーカー B）」が「未使用」になっている場合、スピーカーセット B は選べません。
- TX-SA806X：AMP ボタンを押して、手順 3 に進みます。

3

SETUP ボタンを押して「メインメニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

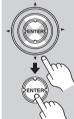
4

▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

2. スピーカー設定　ONKYO
1. スピーカー設定
2. スピーカーコンフィグ設定
3. スピーカー距離設定
4. スピーカー音量設定
5. イコライザ設定
6. THXオーディオ設定

△▽ 移動　ENTER 決定　RETURN 戻る　SETUP 終了

5

▲/▼ ボタンを押して「3. スピーカー距離設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

2-3. スピーカー距離設定　ONKYO

単位	メートル
左フロント	3.60m
センター	3.60m
右フロント	3.60m
右サラウンド	2.10m
右サラウンドバック	2.10m
左サラウンドバック	2.10m
左サラウンド	2.10m
サブウーファー	3.60m

Speaker A

△▽ 移動　◁▷ 値変更　RETURN 戻る　SETUP 終了

ご注意

- 「2. スピーカーコンフィグ設定」で「使用しない」または「なし」にしたスピーカーは選択できません。

6

▲/▼ ボタンを押して「単位（Unit）」を選び、◄/► ボタンで単位を選ぶ

メートル：距離をメートルで設定します。0.15 m 単位で 0.15 m から 9.00 m の範囲で設定できます。

フィート：距離をフィートで設定します。0.5ft 単位で 0.5ft から 30.0ft の範囲で設定できます。

7

▲/▼ ボタンを押してスピーカーを選び、◄/► ボタンで距離を設定する

接続されているすべてのスピーカーについて、スピーカーから視聴位置までの距離を実際に近い数値に設定します。

ご注意

- 右フロント、左フロントはスピーカー A/B で別々の値に設定できます。現在選択されているスピーカーセット（A または B）の値を変更しても、もう一方は変わりません。
  その他のスピーカーの設定は A/B で共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

8

SETUP ボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったら SETUP ボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、RETURN ボタンを押してください。

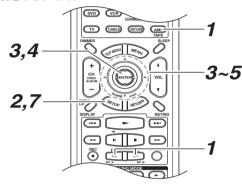
!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション）

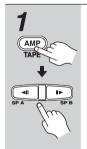
簡単スピーカー設定（☞ 61 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。（スピーカー B のフロントは手動で設定する必要があります。）

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。
スタンバイ状態にしても記憶しています。

- ミューティング中やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

ご注意

本機は THX 対応機種ですので、テスト音は標準レベルの 0dB（絶対値の場合は 82）で出力されます。

通常お聞きになっている音量が小さい場合は、突然大きな音になりますのでご注意ください。

1

AMP ボタンを押してから SP A または SP B ボタンを押して、設定するスピーカーセット A または B を選ぶ

ご注意

- 「スピーカー設定」（☞ 58 ページ）で「フロント（スピーカー B）」が「未使用」になっている場合、スピーカーセット B は選べません。
- TX-SA806X：AMP ボタンを押して、手順 2 に進みます。

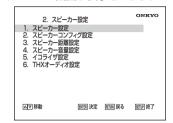
2

SETUP ボタンを押して「メインメニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

3

▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す

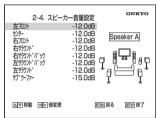
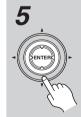
サブメニュー画面が表示されます。

4

▲/▼ ボタンを押して「4. スピーカー音量設定」を選び、ENTER ボタンを押す

スピーカー音量設定画面が表示され、「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーから出力されます。

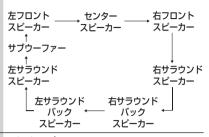
ご注意

- 「2. スピーカーコンフィグ設定」で「使用しない」または「なし」にしたスピーカーは選択できません。

5

▲/▼ ボタンでスピーカーを切り換え、◄/► ボタンを押してテスト音を調整する

すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

- −12dB〜+12dBの範囲で0.5dB単位で調整できます。
- サブウーファーは−15dB〜+12dBの範囲内で調整できます。

6 手順 **5** をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

7 SETUP ボタンを押す

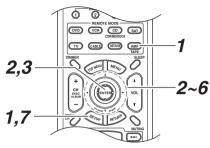
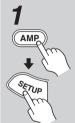
メニュー画面が消えます。

!ヒント

- リモコンの TEST TONE ボタンでテスト音を出して設定することもできます。この場合、LEVEL －／＋ボタンでテスト音を調整し、CH SEL ボタンでスピーカーを切り換えます。
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

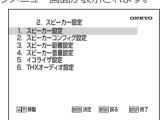
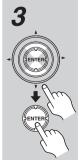
スピーカーの音場補正

簡単スピーカー設定（☞ 61 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は 89 ページで調整できます。ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

1 AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2 ▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3 ▲/▼ ボタンを押して「5. イコライザ設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

2-5. イコライザ設定　ONKYO

イコライザモード	手動
設定チャンネル	フロント
63Hz	0dB
160Hz	0dB
400Hz	0dB
1000Hz	0dB
2500Hz	0dB
6300Hz	0dB
16000Hz	0dB

移動　値変更　戻る　終了

4

◄/► ボタンを押して「イコライザモード」を設定する

オフ：
すべての音域で同じ音量になります。

手動：
お好みで設定できます。

MultEQ XT※1：

Dynamic EQ※1：

Dynamic Vol（弱）※1：

Dynamic Vol（強）※1：

※1 簡単スピーカー設定を既に実施している場合に選択できます。簡単スピーカー設定終了時点で、自動的にDynamic EQ™に設定されます。

「Dynamic EQ」を選んだ場合は、MultEQ® XTまたはDynamic EQが有効になります。

「Dynamic Vol（弱）」または「Dynamic Vol（強）」を選んだ場合は、MultEQ XT、Dynamic EQまたはDynamic Volume™が有効になります。

「手動」を選んだ場合は、手順**5**に進みます。「オフ」を選んだ場合は、手順**7**に進みます。

ご注意

- 「手動」設定はスピーカーAに対してのみ有効です。スピーカーBにはイコライザの設定が適用されません。

■ MultEQ XT

Audyssey MultEQ XTが有効です（☞61ページ）

■ Dynamic EQ

Audyssey MultEQ XTとDynamic EQが有効になります（☞61ページ）

■ Dynamic Vol（弱）

Audyssey MultEQ XT、Dynamic EQ、Dynamic Volume（低圧縮モード）が有効になります。（☞61ページ）

■ Dynamic Vol（強）

Audyssey MultEQ XT、Dynamic EQ、Dynamic Volume（高圧縮モード）が有効になります。（☞61ページ）

5

▲/▼ ボタンを押して設定チャンネルを選び、◄/► ボタンでスピーカーを選ぶ

2-5. イコライザ設定　ONKYO

イコライザモード	手動
設定チャンネル	フロント
63Hz	0dB
160Hz	0dB
400Hz	0dB
1000Hz	0dB
2500Hz	0dB
6300Hz	0dB
16000Hz	0dB

移動　値変更　RETURN 戻る　SETUP 終了

6

▲/▼ ボタンで調整したい音域（周波数）を選び、◄/► ボタンで調整する

以下の音域を選択できます。
63Hz、160Hz、400Hz、1000Hz、2500Hz、6300Hzまたは16000Hz
またサブウーファーの音域は以下より選択できます。
25Hz、40Hz、63Hz、100Hzまたは160Hz
－6dB～＋6dBの範囲で1dB単位で調整できます。

!ヒント

- 160Hzなど、低い周波数は低音域、6300Hzなどの高い周波数は高音域を表します。

この手順をくり返し、接続したすべてのスピーカーを設定します。

7

SETUPボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったらSETUPボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、RETURNボタンを押してください。

!ヒント

- 本体のSETUPボタン、▲/▼/◄/►ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

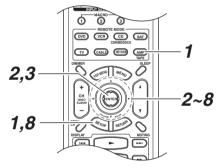
ご注意

- リスニングモードが、DirectまたはPure Audioに設定されていると、効果がありません。
- 入力音源またはリスニングモードの設定によっては、望ましい効果を得ることができないことがあります。
- HDMI入力した176.4/192kHzの信号には効果がありません。

THX スピーカーの設定

この項目は簡単スピーカー設定（☞ 61 ページ）では自動で設定されていません。

以下の操作を行えます。

1. サラウンドバックスピーカーの間隔を指定できます。
2. THX 認証のサブウーファーを使用しているときは、このページで説明している THX サブウーファーを「使用する」に設定してください。「使用する」に設定すると、THX の Boundary Gain Compensation (BGC- 境界利得補正) を設定できるようになります。壁ぎわなど、部屋の境界のすぐ近くに座っているリスナーには、低い周波数が強調されます。BGC はこれを補正する機能です。
3. THX Loudness Plus を設定できます。Loudness Plus 設定を「オン」にすると、低音量で、音声表現の微妙なニュアンスを楽しめるようになります。THX リスニングモードを選択しているときに利用できます。

THX Loudness Plus

THX Loudness Plus は、THX Ultra2 Plus ™ および THX Select2 Plus ™ 認定のレシーバーに搭載された、新しいボリュームコントロール技術です。THX Loudness Plus を使用すると、ホームシアターの視聴者はどんなボリュームレベルでも、豊かで繊細なサラウンド効果を体験できます。

ボリュームをリファレンスレベル（基準レベル）よりも下にすると、一定レベルのサウンドエレメント（音質要素）が失われたり、視聴者によって違う感じに聴こえたりします。

THX Loudness Plus はボリュームを下げたときに発生する音質上・空間上の変化を周囲のサラウンドチャンネルレベルと周波数レスポンスをインテリジェントに調整することで補います。

このことにより、ユーザーはボリューム設定に関係なくサウンドトラックのインパクトを忠実に体験することができます。

THX Loudness Plus は、どの THX リスニングモードで聴いているときでも自動的に設定されます。新しく開発された THX Cinema、THX Music、THX Games のモードは、コンテンツのタイプに応じて、THX Loudness Plus の設定が適切に適用されるように調整されています。

1

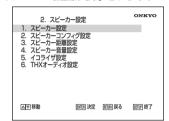
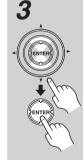
AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す

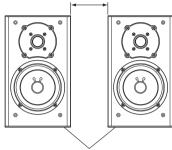
サブメニュー画面が表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して「6. THX オーディオ設定」を選び、ENTER ボタンを押す

※「Loudness Plus」を「オフ」に設定した場合、「Loudness Plus」の下にある、「THX 設定優先」という項目を選択できるようになります。

4

◄/► ボタンで「サラウンドバック間距離」を設定する（7.1 チャンネル利用の場合）

この距離を測定

サラウンドバックスピーカー

サラウンドバックスピーカーの間隔を指定できます。

＜0.3 m：
スピーカー間の距離が 0 〜 30cm 未満の場合（お買い上げ時の設定）

0.3m ― 1.2m：
スピーカー間の距離が 30cm 〜 1.2 mの場合（お買い上げ時の設定）

＞1.2m：
スピーカー間の距離が 1.2m 以上を超える場合

スピーカー構成の設定（☞ 85 ページ）で、サラウンドバック Ch を 2 chに設定している場合のみ、利用可能となります。

5

▲/▼ ボタンで「THX サブウーファー」を選び、◄/► ボタンで設定する

使用しない：THX 認証のサブウーファーを使用していないときに選びます

使用する：THX 認証のサブウーファーを使用しているときに選びます

6

▲/▼ ボタンで「BGC」を選び、◄/► ボタンで設定する

オフ：BGC 効果をオフにします。

オン：BGC 効果をオンにします。

- 手順 ***5*** で THX サブウーファーを「使用する」に設定しているときだけ設定できます。

7

▲/▼ ボタンで「Loudness Plus」を選び、◄/► ボタンで設定する

オフ：Loudness Plus 効果を「オフ」にします。

オン：Loudness Plus 効果を「オン」にします。（お買い上げ時の設定）

- 「Loudness Plus」を「オフ」に設定した場合、「Loudness Plus」の下にある、「THX設定優先」という項目を選択できるようになります。

8

▲/▼ ボタンで「THX 設定優先」を選び、◄/► ボタンで設定する

はい：THX リスニングモードに Dynamic EQ™/Dynamic Volume™ が効きません。

いいえ：THX リスニングモードに Dynamic EQ/Dynamic Volume が設定により効きます。

- 手順 ***7*** でLoudness Plusを「オフ」に設定しているときだけ設定できます。

9

SETUP ボタンを押す

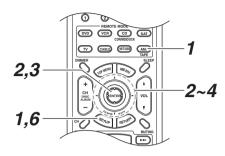
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、RETURN ボタンを押してください。

!ヒント

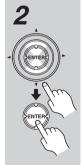
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

音響効果を調整する

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整することができます。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「3. 音声モード調整」を選び、ENTER ボタンを押す

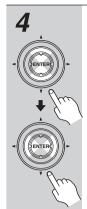
サブメニュー画面が表示されます。

3. 音声モード調整　ONKYO
1. 音質調整
2. DSD
3. 多重音声/モノラル
4. PLⅡx/Neo:6
5. Dolby EX
6. Theater-Dimensional
7. LFEレベル

△▽ 移動　ENTER 決定　RETURN 戻る　SETUP 終了

3

▲/▼ ボタンを押して設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

4

▲/▼ ボタンを押して設定したいメニューを選び、◄/► ボタンで調整する

設定メニューの内容は次項目をご覧ください。
1 つ前の画面に戻るときは、RETURN ボタンを押します。

5

手順 3 と手順 4 をくり返す

6

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

音質調整

70 ページの設定と同じです。
フロントスピーカーも含めてスピーカー A/B で同じ設定値が適用されます。

DSD

DAC Direct

DSD(スーパーオーディオ CD) 音声信号を A/V シンクやディレイなどの DSP 回路に通すか、通さないかを設定します。または Pure Audio、Direct のリスニングモード選択時に DSP 回路に通すかどうかを設定します。

使用しない　：　DSD 信号は DSP 処理されます。
使用する　：　DSD 信号は DSP 処理されません。

「使用する」に設定されている状態で DSD 信号が入力されるとリスニングモード「Direct」が「DSD Direct」になります。表示部に「DSD Direct」と表示されます。

多重音声 / モノラル

■ 多重音声

入力チャンネル

音声多重放送や二ヶ国語放送などで音声や言語を選択します。
DISPLAY ボタンを押して表示部に音声の数が「1 + 1」と表示されたら、音声多重放送です。

主　：主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）
副　：副音声を出力します。
主 / 副：主音声と副音声の両方を出力します。

■ モノラル再生

入力チャンネル

2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ /PCM 信号を、「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

左+右：左右チャンネルの信号両方を再生します。（お買い上げ時の設定）
左　：左チャンネルの音声を再生します。
右　：右チャンネルの音声を再生します。

出力スピーカー

「Mono」リスニングモードを選んだときに、どのスピーカーからモノラル音声を出力するか設定することができます。

左 / 右：左右フロントスピーカーから出力します。
センター：センタースピーカーから出力します。（お買い上げ時の設定）

PLIIx/Neo:6

■ PLIIx Music（2ch 入力）

2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ /PCM 信号を、「PLIIx Music」リスニングモードで再生するときの設定をします。
サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、「PLIIx」は「PLII」と表示されます。

Panorama

音場を横方向に広げることができます。

オン：パノラマ効果を「オン」にします。
オフ：パノラマ効果を「オフ」にします。（お買い上げ時の設定）

Dimension

音場を前方または後方へ移動させせることができます。お買い上げ時は「0」に設定されています。

!ヒント

- 「0」を中心に、「− 1」、「− 2」、「− 3」にすると前方へ、「+ 1」、「+ 2」、「+ 3」にすると後方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整するとバランスが良くなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。
Dolby Pro Logic IIx では、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。
お買い上げ時の設定は「3」ですが、0 〜 7 の範囲で選択できます。

■ Neo:6 Music

Center Image

「Neo:6 Music」は、2 チャンネルで収録されたソースを 6 チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。
どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。
お買い上げ時の設定は「2」ですが、0 〜 5 の範囲で選択できます。

!ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（− 6dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に便利です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby EX

■ Dolby EX

ドルビーデジタル EX 信号の再生方法を設定します。

自動 ：ドルビーデジタルの 6.1 チャンネル識別信号があるとき、Dolby のリスニングモードは Dolby Digital EX、THX のリスニングモードは THX Surround EX が選べます。（お買い上げ時の設定）

手動 ：リスニングモード表の通りに選べます。

Theater-Dimensional

■ リスニングアングル

T-D リスニングモードでの最適な視聴角度を設定します。視聴位置からの左右スピーカーの角度を設定します。左右スピーカーは視聴位置から等距離が望ましいです。

狭い ：30 度以内の場合にこの設定を選びます。

広い ：30 度以上の場合にこの設定を選びます。

LFE レベル

各入力信号の低域効果（LFE）レベルを設定します。Dolby Digital、DTS、AAC、マルチチャンネル PCM、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DSD 信号の設定ができます。

お買い上げ時の設定はすべて「0dB」ですが、−∞ dB、− 20dB、− 10dB、0dB から選べます。
低域効果音が強調されすぎる場合は、− 20dB や−∞ dB を選んでください。

■ Dolby Digital

ドルビーデジタルやドルビーデジタルプラスを再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ DTS

DTS 信号や DTS-HD ハイレゾリューション信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ AAC

AAC 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ マルチチャンネル PCM

HDMI IN 端子から入力した DVD オーディオなどのマルチチャンネル PCM 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ Dolby TrueHD

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD ディスクの Dolby TrueHD 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ DTS-HD Master Audio

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD ディスクの DTS-HD Master Audio 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ DSD

DSD（スーパーオーディオ CD）マルチチャンネルの LFE チャンネルのレベルを設定します。

Music Optimizer 機能を使う

リモコンの DIRECT ボタンを使って、音声に関する設定をすることができます。

1

AMP ボタンを押してから DIRECT ボタンを押し続ける

設定項目が本体の表示部に表示されます。

2

◄/► ボタンで設定を選ぶ

設定項目の内容は次項目をご覧ください。

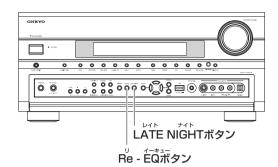
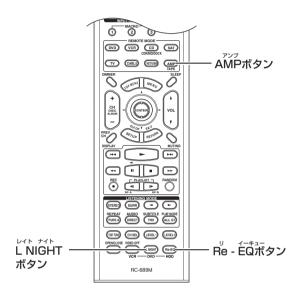
■ Optimizer

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3 などの非可逆圧縮ファイルの再生時に便利です。

Off ：Music Optimizer 機能を「オフ」にします。（お買い上げ時の設定）

On ：Music Optimizer 機能を「オン」にします。

ご注意

- この機能は、48kHz 以下の PCM 信号とアナログ信号に働きます。また、リスニングモードが「Pure Audio」と「Direct」のときは、効果がありません。

Re-EQ 機能を使う

高音域が強調されたサウンドを、ホームシアター用に補正します。高音域が強すぎる場合に設定します。Re-EQ の設定は、リスニングモードによっては使用できない場合があります。

リモコン

AMP ボタンを押してから、Re-EQ ボタンを（くり返し）押す

ON または OFF を切り換えます。

レイトナイト機能を使う

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。

この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

リモコン

AMP ボタンを押してから、L NIGHT ボタンを（くり返し）押す

Late Night
:Off

Dolby Digital、Dolby Digital Plus を再生するときは：

Off ： レイトナイト機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
Low ： 音量幅を小さくします。
High ： 音量幅をさらに小さくします。

Dolby TrueHD を再生するときは：

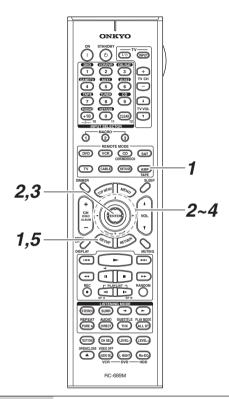
Auto ：再生ソースに準じてダイナミックレンジと音量が自動で調整されます。（お買い上げ時の設定）
Off ： レイトナイト機能をオフにします。
On ： レイトナイト機能をオンにします。

本体

ご注意

- ドルビー TrueHD ソフトの場合は自動で Auto になります。
- **レイトナイト機能は、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD ソフトにのみ効果があります。**
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

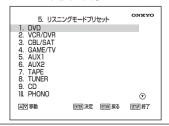
よく使うリスニングモードを設定しておく

入力される信号によって、よく使うリスニングモードを設定しておくことができます。
再生中に切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると設定されたモードに戻ります。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してからSETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TVに適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ボタンを押して「5. リスニングモードプリセット」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して入力ソースを選び、ENTERボタンを押す

信号フォーマットが表示されます。

▼

4

▲/▼ボタンを押して「設定したい信号の種類」を選び、◄/►ボタンでリスニングモードを選ぶ

選択できるリスニングモードは設定する入力信号によって異なります。

- 「最終値」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

5

SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体のSETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◄/►ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

アナログ /PCM

CD などの PCM 信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DTS

DTS、DTS-HD High（ハイ） Resolution（レゾリューション） Audio（オーディオ） 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

AAC

AAC 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D. F. 2ch（チャンネル）

2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D. F. モノラル

モノラルで記録されたドルビーデジタル、AAC などのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

マルチチャンネル PCM

HDMI IN 端子から入力した DVD オーディオなどのマルチチャンネル PCM 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

192/176.4kHz

HDMI IN 端子から入力した DVD オーディオなど、サンプリング周波数が 192/176.4kHz の信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby（ドルビー） TrueHD

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD ディスクの Dolby True（トゥルー）HD 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DTS-HD Master（マスター） Audio（オーディオ）

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD ディスクの DTS-HD Master Audio 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DSD

HDMI IN 端子から入力した DSD(スーパーオーディオ CD) マルチチャンネル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

入力音声の調整をする（音量差調整、遅延補正）

OSD の「4. ソース設定」で本機に接続した複数の機器間の音量差の調整、あるいは映像が音声より遅れる場合の補正ができます。

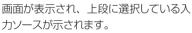
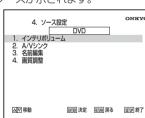
1 調整したい入力を入力切換ボタンで選び、接続機器を再生する

たとえば DVD の映像が音声より遅れている場合、DVD を再生します。

2 SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

3 ▲/▼ ボタンを押して「4. ソース設定」を選び、ENTER ボタンを押す

画面が表示され、上段に選択している入力ソースが示されます。

4 ▲/▼ ボタンで設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は次ページをご覧ください。

5 ▲/▼ ボタンで設定項目を選び、◄/► ボタンで設定を調整する

6 SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、RETURN ボタンを押してください。

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

インテリボリューム（機器間の音量差を減らす）

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。◄/► ボタンで調整してください。
他の機器と比べて音量が大きい場合は ◄ ボタン、小さい場合は ► ボタンを押して調整します。

- －12dB～＋12dBの範囲で1dB単位で調整できます。

A/V シンク（映像遅延補正）

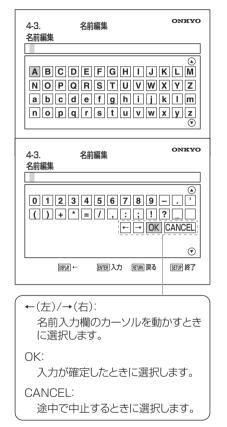
DVD プレーヤーをプログレッシブ再生しているとき映像が音声より遅れている場合があります。A/V シンク機能を使って音声を遅延調整することで修正できます。
0 ～ 250ms（ミリ秒）の範囲で 5ms 単位で調整できます。
ENTER ボタンを押して再生画面を表示し、◄/► ボタンで調整してください。

HDMI の「リップシンク」設定が「有効」になっていて、お使いのテレビが HDMI リップシンク機能に対応している場合は A/V シンクの設定時間が表示されます。HDMI リップシンクの遅延時間は括弧で表示されます。

ご注意

- A/V シンク機能は Pure Audio（ピュア オーディオ）リスニングモードでは効果がありません。またアナログ入力ソースを Direct（ダイレクト）リスニングモードで再生する場合も効果がありません。

名前編集（入力に名前をつける）

DVD や VCR/DVR などの各入力に名前をつけて表示させることができます。画面上の文字・記号を入力することで変更します。
▲/▼/◄/► ボタンで文字・記号を選び、ENTER（エンター）ボタンを押して決定します。この手順を繰り返して変更名を確定した後で、「OK」の文字を選び、ENTER ボタンを押して終了です。

この操作で 10 文字まで入力できます。

文字を訂正するときは：

1. ▲/▼/◄/► ボタンを押して「←」（左）または「→」（右）を選び、ENTER ボタンを押す
2. ENTER ボタンを押してカーソルを動かし、訂正したい文字を選ぶ（ENTER ボタンを押すたびに、カーソルが 1 文字ずつ動きます）
3. ▲/▼/◄/► ボタンで正しい文字を選んで、ENTER ボタンを押す

!ヒント

- 本体の SETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。
- 入力につけた名前を初期値の状態に戻したいときは、空スペースを入力して既に入力している名前を消去してください。

画質調整

画質を調整することで、画面をお好みの状態に設定できます。
▲/▼ ボタンで設定項目を選び、◄/► ボタンで設定してください。
画面を表示して調整するときは、ENTER ボタンを押します。

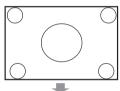
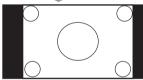
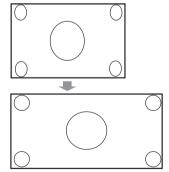
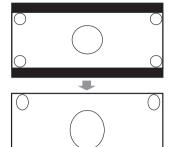
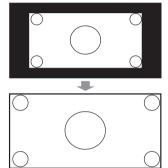
■ ゲームモード（Game Mode）

ゲーム機など、本機に接続したビデオ機器の再生中にビデオ信号の遅延が発生する場合は、機器に接続した入力セレクターで、「ゲームモード」を選択して、「オン」に設定してください。

オフ　：ゲームモード無効（お買い上げ時の設定）
オン　：ゲームモード有効

■ ズームモード（Zoom Mode）

アスペクト比（横縦比）を設定します。

通常（Normal）：

フル（Full）：
（お買い上げ時の設定）

ズーム（Zoom）：

ワイドズーム
（Wide Zoom）：

!ヒント

リモコンの入力セレクターモードボタンで設定することもできます。

1. リモコンを AMP モードにする。
2. 表示部に設定項目が表示されるまで、現在選択しているセレクターボタンを押し続ける。
3. ▲/▼ ボタンで「Zoom Mode」を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ。

■ ISF モード（ISF Mode）

本機はImaging Science Foundation (ISF) が設定した、設定および校正基準を採用しています。ISF はビデオ性能を最適化するための業界基準をきめ細かく考案し、技術者や取付け作業員に対してこれらの基準を運用するための教育プログラムを実施し、本機から最適な画質を得ています。したがって、ISF 認定の設置工事担当者が設定および校正作業を行うようにお勧めします。

ご注意

- 「ISF モード」を選択すると、「解像度」から「B コントラスト」の設定が変更されます。

カスタム：ユーザー設定（すべての項目を自由に設定できます）
昼間設定：部屋が明るい場合の設定
夜間設定：部屋が暗い場合の設定

■ 解像度（Resolution）

本機がアップコンバージョンするときに出力する映像の解像度を設定します。お手持ちのテレビに合わせて設定してください。「1-1. モニター出力設定」で「ソース」を選んでいるときのみ有効です。入力機器ごとの解像度設定を行います。

スルー：入力された映像の解像度と同じ解像度で出力します。ただし、テレビが対応していない解像度の場合は、自動的にコンバージョンします。（お買い上げ時の設定）
自動：テレビ側が推奨しているいちばん良い解像度で出力します。モニター出力設定（Monitor Out）が「Analog」に設定されているとスルーになります。
480p：入力された映像の解像度が 480p のときと 480p にコンバージョンしたいときに選びます。
720p：入力された映像の解像度が 720p のときと 720p にコンバージョンしたいときに選びます。
1080i：入力された映像の解像度が 1080i のときと 1080i にコンバージョンしたいときに選びます。
1080p：入力された映像の解像度が 1080p のときと 1080p にコンバージョンしたいときに選びます。モニター出力設定（Monitor Out）が「Analog」に設定されていると 1080i になります。

■ 明るさ（Brightness）

この設定で画面の明るさを -50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ コントラスト（Contrast）

この設定で明暗の差を -50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ 色合い（Hue）

この設定で画面の赤と緑のバランスを -20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-20 は最も緑色が強くなります。+20 は最も赤色が強くなります。

■ 彩度（Saturation）

この設定で濃さを -50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最も淡い色になります。+50 は最も鮮やか色になります。

■ 画質モード（Picture Mode）

DVD を再生する際、その DVD がフィルムから記録されたものか、ビデオから記録されたものかによって最適な出力の仕方が変わります。この設定で DVD に合わせた画質モード(出力変換の方法)を選択することができます。

自動　：再生されるDVDに合わせて自動でビデオ / フィルムに対応します。（お買い上げ時の設定）
ビデオ　：ビデオから記録された DVD（30 fps）に適した画質モードです。ビデオから記録された DVD を再生するときに選びます。
フィルム　：フィルムから記録された DVD（24 fps）に適した画質モードです。フィルムから記録された DVD を再生するときに選びます。

■ エッジエンハンスメント（Edge Enhancement）

エッジエンハンスメント機能を設定します。映像の輪郭をシャープにする機能です。

オフ　：エッジエンハンスメント機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
低　：少し映像の輪郭をシャープにします。
中　：「低」よりもより映像の輪郭をシャープにします。
高　：「中」よりもさらに映像の輪郭をシャープにします。

■ モスキート NR（Mosquito NR）

モスキートノイズの低減機能を設定します。元の映像に圧縮がかかっているときなどに映像の輪郭に点の集まりが現れてぼやけてしまうことがあります。この点の集まりがモスキートノイズです。蚊の群れが飛んでいるように見えることからこう呼ばれます。

オフ　：モスキートノイズの低減機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
低　：モスキートノイズを少し低減します。
中　：「低」よりもよりモスキートノイズを低減します。
高　：「中」よりもさらにモスキートノイズを低減します。

■ ランダム NR（Random NR）

ランダムノイズの低減機能を設定します。ランダムノイズとは、画面上に不規則に現れる点のことです。

オフ　：ランダムノイズの低減機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
低　：ランダムノイズを少し低減します。
中　：「低」よりもよりランダムノイズを低減します。
高　：「中」よりもさらにランダムノイズを低減します。

■ ブロック NR（Block NR）

ブロックノイズの低減機能をオン / オフします。動きの速い映像を再生しているときなどに伝送速度が追いつかず画面上にモザイクがかかったような不自然な四角が現れることがあります。この四角がブロックノイズです。

オフ　：ブロックノイズの低減機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
オン　：ブロックノイズの低減機能をオンにします。

■ ガンマ（Gamma）

入力された画像の R（赤）·G（緑）·B（青）色データ信号と、出力する色データ信号の相対関係を調節します。
-3 ～ +3 の範囲で調節することができます。（お買い上げ時の設定は 0）

■ R 明るさ（R Brightness）

この設定で画面の R（赤）の明るさを -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ R コントラスト（R Contrast）

この設定で R（赤）の明暗の差を -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ G 明るさ（G Brightness）

この設定で画面の G（緑）の明るさを -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ G コントラスト（G Contrast）

この設定で G（緑）の明暗の差を -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ B 明るさ（B Brightness）

この設定で画面の B（青）の明るさを -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ B コントラスト（B Contrast）

この設定で B（青）の明暗の差を -50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ 初期値

► ボタンまたは ENTER ボタンを押すことで、画質調整の設定をお買い上げ時の設定に戻すことができます。
映像を最適な状態で楽しむために、THX は、「画質調整」の設定を初期値にすることを推奨しています。

音量設定 /OSD 設定をする

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「6. その他設定」を選び、ENTER ボタンを押す

3

▲/▼ ボタンを押して設定したい設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は次ページをご覧ください。

4

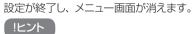
▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで選択する

1 つ前の画面に戻るときは、RETURN ボタンを押します。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ボリューム設定

■ ボリューム表示の設定

ボリュームの表示方法を絶対値と相対値に切り換えることができます。

絶対値
MIN・0.5・1…99・99.5・MAXの範囲で表示します。

相対値（お買い上げ時の設定）
−∞ dB・−81.5dB・・・・・・・+18.0dBの範囲で表示します。絶対値の音量82が相対値の0dBに相当します。

■ ミュート減衰量の設定

ミューティング時の音量を聞いている音よりどれだけ下げるか設定しておくことができます。10dB単位で−∞ dB、−50dB〜−10dBの範囲で設定できます。お買い上げ時の設定は、−∞ dBです。

■ 最大音量の設定

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大値を設定することができます。
相対値表示の場合は、オフ・+17dB〜−32dBの範囲内で設定できます。
絶対値表示の場合は、オフ・99〜50の範囲内で設定できます。
設定しないときは「オフ」を選びます。

■ パワーオン時音量の設定

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。
相対値表示の場合は、最終値・−∞ dB・−81dB〜+18dBの範囲内で設定できます。
絶対値表示の場合は、最終値・最小・1…最大の範囲内で設定できます。
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「最終値」を選びます。

ご注意

- 「最大音量」で設定した値より高く設定することはできません。

■ ヘッドホンレベルの設定

スピーカーで聞くときとヘッドホンで聞くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。
−12dB〜+12dBの範囲で調整できます。

OSD設定

■ イミディエイト表示の設定

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。（ただし、「オン」に設定しても、再生機器をCOMPONENT VIDEO入力端子、D4 VIDEO入力端子、HDMI入力端子に接続しているときは、操作内容は表示されません。）
映像を最適な状態で楽しむために、THXは、イミディエイト表示機能をオフにすることを推奨しています。

オン　：　表示します。（お買い上げ時の設定）
オフ　：　表示しません。

■ モニタータイプの設定

操作内容の表示がテレビ画面からはみ出たり、伸びて映っている場合は、お持ちのテレビに合わせて設定してください。

4:3　：　ご使用のテレビが4:3のとき設定します。
16:9　：　ご使用のテレビが16:9のとき設定します。
（お買い上げ時の設定）

■ 表示位置の設定

操作内容の表示をテレビ画面のどの位置に表示させるかを設定します。

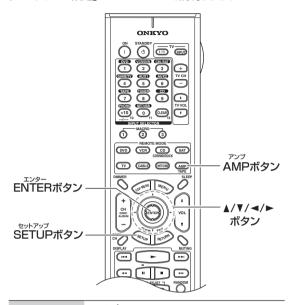
下　：　画面の下方に表示します。
（お買い上げ時の設定）
上　：　画面の上方に表示します。

■ 言語（Language（ランゲージ））の設定

操作内容の表示言語を以下の内から選択して設定できます。

日本語 ：（お買い上げ時の設定）
English ：英語
Deutsch ：ドイツ語
Français ：フランス語
Español ：スペイン語
Italiano ：イタリア語
Nederlands ：オランダ語
Svenska ：スウェーデン語

ハードウェアの設定をする

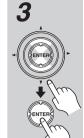
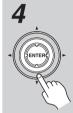
「ハードウェア設定」メニューについて説明します。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「7. ハードウェア設定」を選び、ENTER ボタンを押す

「ハードウェア設定」サブメニュー画面が表示されます。

7. ハードウェア設定　ONKYO
1. リモコン設定
2. アナログマルチチャンネル設定
3. HDMI
4. ネットワーク設定

△▽ 移動　ENTER 決定　RETURN 戻る　SETUP 終了

3

▲/▼ ボタンを押して設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は次ページをご覧ください。

4

▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで設定する

1 つ前の画面に戻るときは、RETURN ボタンを押します。

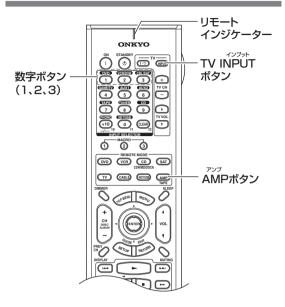
5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

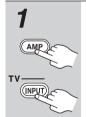
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

リモコン設定

■ リモコン ID

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるために、リモコン ID を変更することができます。「1」、「2」、「3」から選べます。
お買い上げ時は、本体、リモコンともに「1」に設定されています。設定したら、次にリモコン側の設定をします。

ご注意

- リモコン、本体共に同じリモコン ID に設定する必要があります。

1

AMP ボタンを押しながら、TV INPUT ボタンを押す

約 4 秒間、リモートインジケーターが点滅します。

2

設定したいリモコン ID の数字ボタンを 1 ～ 3 から選び、押す

リモートインジケーターが 2 度点滅します。

アナログマルチチャンネル設定

■ サブウーファー入力感度

DVD プレーヤーによっては、マルチチャンネル出力時に LFE（低域効果音）チャンネルが 15dB 高く出力されるものがあり、サブウーファーの音量が大きくなることがあります。
この設定では、マルチチャンネル入力時のサブウーファーの音量を設定することができます。
0dB（お買い上げ時の設定）、5dB、10dB、15dB から選択できます。
サブウーファーが大きすぎる場合は、10dB や 15dB を選んでください。

HDMI 設定

■ TV オーディオ出力

HDMI 端子から音声出力を「する / しない」の設定ができます。本機の HDMI OUT 端子とテレビの HDMI 入力端子を接続していて、テレビのスピーカーから音声を聴きたいときなどに設定します。通常は「オフ」にしておいてください。
入力信号やテレビによっては、「オン」にしても音が出ない場合があります。

オフ ：出力しません。（お買い上げ時の設定）
オン ：出力します。

ご注意

- TV オーディオ出力の設定が「オン」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。
- TV 連動の設定が「有効」の場合は、「自動」になります。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「オン」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- TV オーディオ出力が「オン」に設定されているか、TV 連動の設定が有効になっていて、ご利用のテレビのスピーカーを通してお聴きになっているときに（☞ 34 ページ）、本機のマスターボリュームつまみを操作すると、本機の左右フロントスピーカーから音声が出力されます。音声を出力させたくないときは、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。

■ リップシンク

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

無効 ： 自動では補正しません。（お買い上げ時の設定）
有効 ： 自動的に補正します。

ご注意

- リップシンク機能は HDMI リップシンク対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。
- リップシンク機能によって補正される遅延時間を、A/V シンクメニューで確認することができます（☞ 101 ページ）。

■ x.v.Color（カラー）

x.v.Color 対応のソースやモニターを HDMI 接続したときに「有効」に設定すると、色の表現力が向上します。

無効 ： x.v.Color を使用しません。
（お買い上げ時の設定）
有効 ： x.v.Color を使用します。

ご注意
- 「 有効」にして色がおかしくなる場合は、「無効」に設定してください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

■ コントロール

本機と HDMI 接続した CEC 規格対応機器や RIHD ＊ 対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

無効 ： RIHD コントロールを使用しません。
（お買い上げ時の設定）
有効 ： RIHD コントロールを使用します。

ご注意
- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「無効」に設定してください。
- 「 有効」に設定して、おかしな動作をする場合は「無効」にしてください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

＊ RIHD はオンキヨー製品の連動機能の名称です。
本機では HDMI 規格で定められている CEC（Consumer（コンシューマー） Electronics（エレクトロニクス） Control（コントロール））を使用した連動を行うことができます。CEC に対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD 対応機器以外での動作は保証いたしません。

電源連動

HDMI で接続された RIHD 対応機器と、電源連動させたい場合に「有効」に設定してください。ただし、接続機器が対応していない場合や接続機器の設定の状態によっては連動しない場合があります。

無効 ： 電源連動を使用しません。
有効 ： 電源連動を使用します。（お買い上げ時の設定）

ご注意
- 「 有効」に設定しているときは、本機の消費電力が増えます。
- 電源連動の設定は、コントロールの設定が「有効」の場合に変更できます。
- 電源連動は、HDMI Power（パワー） Control 機能に対応した機器に接続している場合にのみ動作します。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

TV 連動

HDMI 接続した RIHD 対応テレビから、本機をコントロールしたいときに「有効」にします。

無効 ： TV 連動を使用しません。
（お買い上げ時の設定）
有効 ： TV 連動を使用します。

ご注意
- テレビが対応していない場合や、対応しているかどうか分からないときは、「無効」に設定してください。
- TV 連動の設定は、コントロールと電源連動の両方の設定が「有効」の場合に変更できます。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意
- コントロール、電源連動、TV 連動の設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、再度入れ直してください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- CEC 規格準拠の TV と連動するには、モニター出力設定（Monitor（モニター） Out（アウト））を「HDMI メイン」にしておく必要があります。

ネットワーク設定

110 ～ 120 ページをご覧ください。

ロック設定

誤って設定を変更してしまわないように、設定したメニューにロックをかけることができます。

ロック ： ロックをかけます。ロックをかけておくと、そのあとに設定を変更しても、スタンバイ状態にすることで、ロックをかけたときの状態に戻ります。
解除 ： 設定操作にロックをかけません。
（お買い上げ時の設定）

音声入力を選ぶ

再生機器の音声出力を複数、本機の音声入力に接続している場合、たとえばDVDプレーヤーをアナログ、デジタル、マルチチャンネル、HDMIの各入力に接続している場合、AUDIO SELボタンで聞きたい音声を選びます。

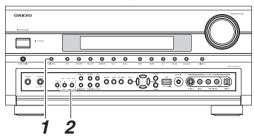
AUDIO SELボタンをくり返し押す

HDMI、Auto、Multich、Analogから選びます。

- HDMI： 入力切換ボタンに割り当てたHDMI IN端子を選びます。「HDMI」表示が点灯します。（HDMI IN端子は必ず、前もって入力切換ボタンに割り当てておきます。）
- Auto： 入力切換ボタンに割り当てたCOAXIAL IN端子、OPITICAL IN端子を選びます。「DIGITAL」表示が点灯します。（COAXIAL IN端子、OPTICAL IN端子は必ず、前もって入力切換ボタンに割り当てておきます。）
- Multich： 入力切換ボタンに割り当てたMULTI CH端子を選びます。「ANALOG」表示が点灯します。（MULTI CH端子は必ず、前もって入力切換ボタンに割り当てておきます。）
- Analog： アナログ入力を選びます。

デジタル入力信号の設定

DTSやPCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

1

AUDIO SELボタンを押して、「Auto」を表示させる

2

TONE＋/−ボタンでPCM、DTSまたはAutoを選ぶ

- Auto： デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。
- PCM：- Autoで CDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。
- DTS： AutoでDTS-CDを再生するとき、DTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS-HD以外のDTS音声を再生できます。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。本機表示部のDTSインジケーターが点滅します。

ご注意

- DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

映画・音楽を鑑賞する（NET/USB 機能編）（TX-NA906X のみ）

本機には NET（ネット）/USB という機能があります。
この機能では次の 3 つのことができます。

1 ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する（☞ 114 ページ）

!ヒント

ネットワークの設定については、112 ページをご覧ください。
本機をホームネットワーク（LAN（ラン））に接続して、ネットワークサーバー（パソコンなど）に入っている音楽ファイルを再生することができます。

2 USB ストレージ * 内の音楽ファイルを再生する（☞ 116 ページ）

本機の前面パネルの USB ポートに USB ストレージを接続すると、USB ストレージに入っている音楽ファイルを再生することができます。

* USB メモリーなど

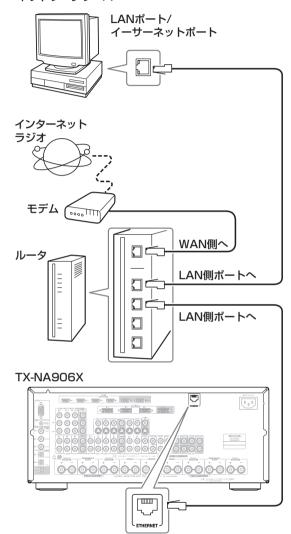
3 インターネットラジオを聴く（☞ 118 ページ）

本機にインターネットラジオ局の URL を入力して、インターネットに接続すると、インターネットラジオを聴くことができます。

!ヒント

ネットワークの設定については、112 ページをご覧ください。

ネットワーク機器の接続

ネットワーク機器がそろったら、以下のように接続して、ホームネットワーク（(LAN）を構築します。

!ヒント

各ネットワーク機器やインターネットへの接続には、個々の機器の設定が必要になります。
これらの設定については、各機器の取扱説明書やメーカー / ISP にご確認ください。

映画・音楽を鑑賞する（NET/USB 機能編）（TX-NA906X のみ）

ホームネットワーク(LAN)について

複数の機器をケーブルなどで接続し、お互いに通信できるようにしたものをネットワークといいます。
家庭ではパソコンやゲーム機をインターネットに接続したり、複数のパソコンで相互にデータをやりとりしたりするために、ネットワーク作る（一般的に構築するといわれます）ケースが多いようです。
このように家庭内など比較的狭い範囲に構築されるネットワークは LAN（Local Area Network）と呼ばれます。
この取扱説明書では、この LAN のことをもう少し身近に感じられるようにホームネットワーク（家庭のネットワーク）と書いています。

本機（TX-NA906X）はパソコンなどのネットワークサーバーと接続することでネットワークサーバー内（パソコン内）の音楽ファイルを再生したり、インターネットと接続することでインターネットラジオを聴いたりすることができます。

このとき、本機とパソコンやインターネットを直接接続するわけではありません。
パソコンやインターネットと接続するためにいくつかの機器（ネットワーク機器）が必要になります。

ホームネットワーク(LAN)構築に必要な機器

本機のNET/USB機能を使用するためのホームネットワーク（LAN）に必要な機器は以下の通りです。

ルータ

本機とパソコンや、本機とインターネットの間に入って情報（データ）の流れをコントロールするのが、このルータという機器です。
ネットワークでは情報（データ）の流れをトラッフィック（日本語では「交通」の意）といいます。
ルータは各機器の中でトラフィックコントロールつまり情報の交通整理をする役割を担っています。

- 本機では**100Base-TXスイッチ内蔵のブロードバンドルータ**の使用を推奨します。
- また、**DHCP機能搭載**のルータであれば、ネットワークの設定を簡単にすることができます。
- ISPと契約している場合（後述モデムの項参照）には、**契約するISP業者が推奨するルータ**をご使用ください。

これらのルータについてはお買い求めの販売店または契約されている ISP にご相談ください。

Ethernet ケーブル（CAT-5）

ネットワークを構成する機器同士を実際につなぎ合わせるのが、この Ethernet ケーブルです。Ethernet ケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルがあります。

- 本機では**CAT-5に適合した**Ethernet**ストレート**ケーブルを使用します。

Ethernet ケーブルについてはお買い求めの販売店にご相談ください。

ネットワークサーバー（パソコンなど / ネットワークサーバー使用時）

音楽ファイルを入れておいて、再生時に本機に曲を提供する機器です。

- 本機で使用する際に必要な条件は、ネットワークサーバーとして使用する機器によって異なります。
- 本機では、**Windows Media Player 11、Windows Media Connect 2.0、uPnP AV互換サーバー、DLNA互換サーバー**をネットワークサーバーとして使用できます。
- 本機で音楽ファイルを快適に再生するための条件は、使用するネットワークサーバー（パソコンの性能）に依存します。それぞれの機器使用については、各取扱説明書をご覧ください。

モデム（インターネットラジオ使用時）

ホームネットワーク（LAN）とインターネットを接続する機器です。
モデムにはインターネットと接続する形式によってさまざまな種類があります。
また、インターネットに接続するには ISP（インターネットサービスプロバイダ）というインターネットへの接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。

- インターネット接続には、**契約するISP業者が推奨するモデム**をご使用ください。

1 台でルータとモデムの機能を併せ持つ機器もあります。

以上のネットワーク機器の内、
NET/USB 機能「ネットワークサーバー」を使用するには、**ルータ**、**Ethernet ケーブル**、**ネットワークサーバー**が必要になります。
NET/USB 機能「インターネットラジオ」を使用するには、**ルータ**、**Ethernet ケーブル**、**モデム**（および ISP との契約）が必要になります。

準備

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生するには、次の準備が必要です。

- 本機のネットワーク設定をする（☞112ページ）
- 本機をホームネットワーク（LAN）に接続する（☞114ページ）
- ネットワークサーバーの設定をする（☞114ページ）

!ヒント

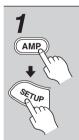
まだホームネットワーク（LAN）を構築されていない方、ホームネットワーク（LAN）をご存知でない方は、まず「ホームネットワーク（LAN）について」（☞ 111 ページ）をご覧ください。

本機のネットワーク設定をする

本機でネットワークサーバーやインターネットラジオを楽しむには、本機をホームネットワーク（LAN）に接続して使えるようにするために「ネットワーク設定」をする必要があります。

ネットワーク設定を変更する場合は、変更後に「→設定保存」を実施する必要があります。

DHCP でホームネットワーク（LAN）を構築している場合は、「ネットワーク設定」の「DHCP」を“有効”にすれば（☞ 113 ページ）、ホームネットワーク（LAN）で使用できるようになります。（初期設定では、この状態になっています。）

各機器に固定 IP アドレスを割り当てている場合は、「ネットワーク設定」で本機に IP アドレスを割り当て（☞ 113 ページ）、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなどお使いのホームネットワーク（LAN）に関する情報を入力する必要があります。

1 AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メニュー」を表示させる

2 ▲/▼ ボタンを押して「7. ハードウェア設定」を選び、ENTER ボタンを押す

3 ▲/▼ ボタンを押して、「4. ネットワーク設定」を選び、ENTER ボタンを押す

4 ▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで選択する

項目については下記をご覧ください。

5 すべての項目が設定し終わったら、▲/▼ ボタンを押して、「→設定保存」を選び、ENTER ボタンを押す

ご注意

- 「ネットワーク設定」内の設定値は、本機とネットワークの保護のため「→設定保存」を選択するまで書き変えられません。

6 SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

「ネットワーク設定」

■ MAC（マック）アドレス

本機の MAC アドレスを確認できます。この値は機器固有のもののため、変更することはできません。

■コントロール

外部コントローラーからの本機のコントロールを許可するかどうか設定します。“有効”にすると、外部コントローラーから本機をコントロールできるようになり、“無効”にするとコントロールを禁止します。

■ポート

この設定は上記「コントロール」設定が有効のときだけ機能します。外部コントローラーからのコントロール信号を受けるポート番号を設定します。外部コントローラー側の設定に合わせてください。

■ DHCP

本機の DHCP クライアント機能の有効 / 無効を設定します。DHCP でホームネットワーク（LAN）を構築している場合は“有効”に、ホームネットワーク（LAN）に接続されている各機器に固定 IP アドレスを割り当てている場合は“無効”に設定してください。

■ IP アドレス

本機の IP アドレスを表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。
この値を設定する際、ホームネットワーク（LAN）に接続されている他の機器とアドレスが重複しないよう、ご注意ください。設定方法は次のとおりです。

アドレス設定方法

1. 設定する項目（IP アドレス、サブネットマスクなど）を選択し、**ENTER ボタン**を押して、入力画面を表示します。OSD 下部に 0 〜 9 の数値が表示されます。
2. **◄/► ボタン**を使って数値を選択し、**ENTER ボタン**で入力します。3 桁入力すると、自動的に次のセクションに移動します。入力を誤った場合は、**▲/▼ ボタン**で誤入力したセクションを選択（数値を緑色に）し、数値を入力し直してください。
3. 入力する数値が 3 桁に満たない場合は、**▲ ボタン**で次のセクションに移動します（選択されているセクションの文字が緑色になります）。
4. すべてのセクションの入力が終わったら、**RETURN ボタン**を押して値を確定します。

■サブネットマスク

ホームネットワーク（LAN）のサブネットマスクを表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。アドレスの設定方法は、IP アドレスと同じです。

■ゲートウェイアドレス

ホームネットワーク（LAN）のゲートウェイアドレスを表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。アドレスの設定方法は、IP アドレスと同じです。

■ DNS サーバー 1

ホームネットワーク（LAN）の DNS サーバー（プライマリ）を表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。アドレスの設定方法は、IP アドレスと同じです。

■ DNS サーバー 2

ホームネットワーク（LAN）の DNS サーバー（セカンダリ）を表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。また「DNS サーバー 1」が正しく設定されていれば、この値は省略可能です。アドレスの設定方法は、IP アドレスと同じです。

!ヒント

- 次の「プロキシ」「プロキシー URL」「プロキシーポート」の 3 つの設定は、インターネットラジオを聴くために必要です。ネットワークサーバーは、これらを設定しなくても使用できます。
- 次の「プロキシ」「プロキシー URL」「プロキシーポート」の 3 つの設定は、ISP（インターネットサービスプロバイダ）がプロキシサーバーを経由してインターネットに接続しているときだけ必要です。プロキシサーバーを使っているかどうかが不明な場合は、ご使用の ISP にお問い合わせください。

■プロキシ

プロキシサーバーを経由してインターネットに接続するかどうかを設定します。ご使用の ISP が、インターネットへの接続の際プロキシサーバーを経由するようになっている場合は“有効”に設定してください。

■プロキシー URL

この設定は上記「プロキシ」設定が有効のときだけ機能します。プロキシサーバーの URL を入力します。URL が不明な場合は、ご使用の ISP にお問い合わせください。入力方法は「名前編集」（☞ 101 ページ）と同じです。

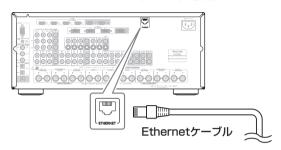
■プロキシーポート

この設定は上記「プロキシ」設定が有効のときだけ機能します。プロキシサーバーのポート番号を入力します。ポート番号が不明な場合は、ご使用の ISP にお問い合わせください。入力方法は「アドレス設定方法」（☞ 113 ページ）と同じです。

■→設定保存

変更した「ネットワーク設定」を保存します。「ネットワーク設定」内の設定値は、本機とネットワークの保護のためこの項目で設定を保存するまで書き変えられません。

本機をホームネットワーク（LAN（ラン））に接続する

本機の電源をオフにし、本機の後面パネルの ETHERNET（イーサネット）端子とホームネットワーク（LAN）のルータまたはスイッチングハブを Ethernet（イーサネット）ケーブル（CAT-5（カテゴリー））で接続します。

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

ネットワークサーバーの設定をする

再生したい音楽ファイルが入っているネットワークサーバーを設定します。

本機は、

- Windows（ウインドウズ） Media（メディア）® Player（プレイヤー） 11
- Windows（ウインドウズ） Media（メディア）® Connect（コネクト） 2.0
- uPnP AV互換サーバー
- DLNA互換サーバー

に対応しており、設定方法は使用するネットワークサーバーによって異なります。
詳細については、ご使用になるネットワークサーバーの取扱説明書をご覧ください。

ここでは、Windows（ウインドウズ） Media（メディア）® Player（プレイヤー） 11 を例として説明します。

!ヒント
Windows（ウインドウズ） Media（メディア）® Player（プレイヤー） 11 はマイクロソフト株式会社のウェブサイトから無料でダウンロードできます。

以下の操作の前に、本機の「本機のネットワーク設定をする」（☞ 112 ページ）を済ませて、本機をホームネットワーク（LAN）に接続し、本機の電源を入れてください。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows Media® Player 11 を開く**

2 **[ライブラリ] メニューから [メディアの共有] を選ぶ**

次のダイアログボックスが表示されます。

3 **[メディアを共有する] チェックボックスにチェックを入れ、[OK] をクリックする**

対応機器がダイアログボックスに表示されます。

4 **TX-NA906X を選んで、[許可] をクリックする**

TX-NA906X のアイコンがチェックの付いたものになります。

5 **[許可] をクリックして、ダイアログボックスを閉じる**

これで音楽ファイルを再生する準備が整いました。

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

以下の手順でネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生します。音楽ファイルを再生するには、以下の準備がすべて完了している必要があります。

- 本機のネットワーク設定をする（☞112ページ）
- 本機をホームネットワーク（LAN（ラン））に接続する（☞114ページ）
- ネットワークサーバーの設定をする（☞114ページ）

1

ネットワークサーバーを起動する

たとえばネットワークサーバーとして Windows Media® Player 11 をお使いの場合は、パソコンの電源を入れ、Windows Media® Player 11 を開きます。

2

NET/USB
0

AMP ボタンを押してから INPUT SELECTER の NET/USB ボタンを何度か押して、「ネットワークサーバー」を表示させる

ネットワークサーバーのリストが表示されます。

!ヒント

ネットワークサーバーに接続できない場合、本機の表示部に「No server」と表示されます。この場合は、本機のネットワーク設定や本機とホームネットワーク（LAN）の接続、ネットワークサーバーの起動状況などをご確認ください。

3

REMOTE MODE の NET/USB ボタンを押してリモコンを NET/USB モードに切り替える

4

▲/▼ ボタンを押して、ネットワークサーバーを選び、ENTER ボタンを押す

ネットワークサーバー内のフォルダーがリスト表示されます。

5

▲/▼ ボタンを押して再生したい音楽ファイルが入っているフォルダを選び、ENTER ボタンを押す

再生可能な音楽ファイルがリスト表示されます。

6

▲/▼ ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、ENTER ボタンを押す

選択した音楽ファイルの情報が表示され、再生が開始されます。

!ヒント

- RETURN ボタンを押すと、演奏を中止してひとつ前の画面に戻ります。
- 音楽ファイルの操作については、「リモコンボタンの名前と働き（NET/USB モード）」（☞ 19ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次の通りです。

WAV: (*.wav)
対応サンプリングレート： 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
対応データサイズ： 16 bit

WMA: (*.wma)
WMA10 DRM 対応（ネットワークサーバー時のみ）
WMA Lossless 対応
WMA Pro/Voice 非対応
対応フォーマット： Windows Media® Audio V9.0
対応サンプリングレート： 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
対応ビットレート： 48 ～ 320 kbps および VBR
対応データサイズ： 16 bit (WMA Lossless)

MP3: (*.mp3)
対応フォーマット： MPEG-2 Audio Layer-3
対応サンプリングレート： 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
対応ビットレート： 32 ～ 320 kbps および VBR

AAC: (*.m4a)
対応フォーマット：MPEG-4 Audio
対応サンプリングレート：32kHz, 44.1kHz, 48kHz
対応ビットレート：16 ～ 320 kbps および VBR

- 上記のフォーマットであっても再生できる音楽ファイルは、ネットワークサーバーに依存します。たとえば、Windows Media® Player 11 をお使いの場合、パソコンに入っているすべての音楽ファイルが再生できるわけではなく、Windows Media® Player 11 のライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。

ランダム再生について

- 通常の再生では、再生中の音楽ファイルと同一フォルダ内にある音楽ファイルをリスト順に再生していきますが、ランダム再生では、順不同で再生することができます。
- ランダム再生するには、再生停止中にリモコンの **RANDOM ボタン**を押します。
- 再生を停止するかリスト表示画面に戻ると、ランダム再生は解除されます。
- 同一フォルダ内の音楽ファイルをひと通り重複することなく再生し終わると、1 度目とは違う順序で再び順不同で再生します。ランダム再生が解除されるまでこれをくり返します。
- ランダム再生の対象となるのは、リストの 1 ～ 9999 番目までです。同一フォルダ内に 10000 以上の音楽ファイルがある場合、リストの 10000 番以降はランダム再生では再生されません。
- ランダム再生とリピート再生を同時に行うことはできません。ランダム再生中にリモコンの REPEAT ボタンを押すと、ランダム再生は解除されます。

リピート再生について

- リピート再生では、再生する音楽ファイルの範囲とくり返し再生するかどうかを選択できます。
- リピート再生には、3 つのモードがあります。

  ONE: 再生中の音楽ファイルだけをくり返し再生します。

  FOLDER: 再生中の音楽ファイルと同一フォルダ内にある音楽ファイルをリスト順にくり返し再生します。リストの最後の音楽ファイルを再生し終わると、フォルダー内のリストの先頭に戻って再生します。

  ALL: ネットワークサーバー内のすべての音楽ファイルをリスト順にくり返し再生します。あるフォルダ内の音楽ファイルがすべて再生し終わると、次のフォルダ内の音楽ファイルの再生を開始します。ネットワークサーバー内のすべての音楽ファイルを再生し終わると、サーバー内のリストの先頭の曲に戻って再生します。

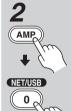
- リピート再生するには、音楽ファイルの再生画面（再生中、停止中、一時停止中）でリモコンの **REPEAT ボタン**を押します。ボタンを押すたびにモードが切り替わります。
- 本機をスタンバイ状態にしたり、本機の電源をオフにしたりすると、リピート ALL モードになります。

USB ストレージ内の音楽ファイルを再生する

以下の手順で USB ストレージ内（USB メモリーなど）の音楽ファイルを再生します。

ご注意

- 本機の USB 端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- USB ストレージに AC アダプターが付属している場合は、AC アダプターをつないで家庭用電源でお使いください。電池で行う場合は、電池の残量が充分にあることを確認してください。
- 本機はハブおよびハブ機能付き USB 機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。

1 **本機の前面パネルの USB 端子に音楽ファイルが入った USB ストレージを接続する**

2 **AMP ボタンを押してから INPUT SELECTER の NET/USB ボタンを何度か押して、「USB」を表示させる**

接続されている USB ストレージが表示されます。

3 **REMOTE MODE の NET/USB ボタンを押してリモコンを NET/USB モードに切り替える**

4 **ENTER ボタンを押す**

USB ストレージ内のフォルダーや音楽ファイルがリスト表示されます。

USB Storage ONKYO
Folder1
Folder2
01_Song_Track1
02_Song_Track2
03_Song_Track3
04_Song_Track4
05_Song_Track5
06_Song_Track6
07_Song_Track7
08_Song_Track8
NET/USB iRADIO/SERVER RETURN 戻る 2 / 5

5

▲/▼ ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、ENTER ボタンを押す

選択した音楽ファイルの情報が表示され、再生が開始されます。

!ヒント

- RETURN ボタンを押すと、演奏を中止してひとつ前の画面に戻ります。
- 音楽ファイルの操作については、「リモコンボタンの名前と働き（NET/USB モード）」（☞ 19 ページ）をご覧ください。
- ランダム再生、リピート再生については 116 ページをご覧ください。

ご注意

- 本機では USB Mass Storage Class 規格に対応している USB ストレージを使用できます。
- USB ストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32 に対応しています。
- 本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次の通りです。

  WAV: (*.wav)
  対応サンプリングレート：32kHz, 44.1kHz, 48kHz
  対応データサイズ：16 bit

  WMA: (*.wma)
  WMA Lossless 対応
  WMA Pro/Voice 非対応
  対応フォーマット：Windows Media® Audio V9.0
  対応サンプリングレート：32kHz, 44.1kHz, 48kHz
  対応ビットレート：48 ～ 320 kbps および VBR
  対応データサイズ：16 bit (WMA Lossless)

  MP3: (*.mp3)
  対応フォーマット：MPEG-2 Audio Layer-3
  対応サンプリングレート：32kHz, 44.1kHz, 48kHz
  対応ビットレート：32 ～ 320 kbps および VBR

  AAC: (*.m4a)
  対応フォーマット：MPEG-4 Audio
  対応サンプリングレート：32kHz, 44.1kHz, 48kHz
  対応ビットレート：16 ～ 320 kbps および VBR

- 著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。
- USB 対応オーディオプレーヤーと本機を接続した場合、オーディオプレーヤーの画面と本機の画面が異なる場合があります。またオーディオープレーヤーに依存する管理機能（音楽ファイルの分類、ソート、付加情報など）は本機では使用できません。
- 本機の USB 端子にパソコンを接続しないでください。本機の USB 端子にはパソコンから音声を入力できません。
- USB カードリーダーに挿したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USB ストレージがパーティションで区切られている場合、本機では最初のパーティションだけを読み込むことができます。
- USB ストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USB ストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USB ストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。USB ストレージに保存されているデータは、本機でのご使用の前にバックアップを取っておくことをおすすめします。

インターネットラジオを聴く

インターネットラジオ局を登録する

本機にインターネットラジオ局を登録する方法は二つあります。ひとつは NET/USB 機能のインターネットラジオのトップ画面（ラジオ局のリストが表示されている画面）でリモコンと OSD を使って登録する方法です。
もうひとつは本機と同じ LAN に接続されているパソコンを使って登録する方法です。

インターネットラジオ局を登録するには、以下の準備がすべて完了している必要があります。

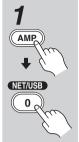
- 本機のネットワーク設定をする（☞112ページ）
- 本機をホームネットワーク（LAN）に接続する（☞114 ページ）

!ヒント

- まだホームネットワーク（LAN）を構築されていない方、ホームネットワーク（LAN）をご存知でない方は、まず「ホームネットワーク（LAN）について」（☞ 111 ページ）をご覧ください。
- 本機は、PLS 形式、M3U 形式、および Podcast (RSS) 形式のインターネットラジオ局に対応しています。これらの形式のインターネットラジオ局であっても、データの種類や再生フォーマットによって、再生できないこともあります。
- 再生できる音声フォーマットは USB 機能と同じです。

■ vTuner インターネットラジオ

あらかじめ、vTuner Internet Radio がプリセットの一つに登録されています。
vTuner Internet Radio を選択すれば、vTuner が提供しているポータルサイトを通じて、さまざまなインターネットラジオ局にアクセスすることができます。また、http://onkyo.vtuner.com/ であなたの製品の MAC アドレスを登録すると、カスタマイズすることができます。
MAC アドレスは、「本機のネットワーク設定をする」（☞ 112 ページ）を見て確認してください。
あらかじめ登録されているラジオ局の URL は編集しないでください。

<本体で登録する>

1

AMP ボタンを押してから INPUT SELECTER の NET/USB ボタンを何度か押して、「インターネットラジオ」を表示させる

登録されているインターネットラジオ局がリスト表示されます。

!ヒント

- お好みのインターネットラジオ局を登録することができます。登録方法は 118、119 ページをご覧ください。
この画面で SETUP ボタンを押して登録することもできます。

2

REMOTE MODE の NET/USB ボタンを押してリモコンを NET/USB モードに切り替える

3

▲/▼ ボタンを押して空白行を選び、SETUP を押す

URL を入力する画面が表示されます。

4

リモコンを使って、お好みのインターネットラジオ局の URL を入力する

101 ページの「名前編集」機能と同じ方法で、URL を入力してください。

「OK」の文字を選び、ENTER ボタンを押す

インターネットラジオ局の一覧が表示されます。

RETURN ボタンを押して、一覧を更新する

ご注意

ラジオ局名は自動的に入力されます。

<パソコンを使って登録する>

1

本機の IP アドレスを確認する

IP アドレスは「4. ネットワーク設定」(☞ 113 ページ)で確認できます。

2

パソコンの電源を入れ、Internet Explorer® などのインターネットブラウザを開く

3

インターネットブラウザの URL 入力欄に本機の IP アドレスを入力する

(例:「http://192.168.x.x/」と入力 x.x には数字が入ります。)

本機の WEB Setup Menu が表示されます。

4

インターネットラジオ局を登録したいプリセット番号の [Name] 欄にラジオ局名、[URL] 欄にラジオ局の URL を入力する

5

[Save] をクリックして、入力した内容を保存する

これでインターネットラジオ局が登録されました。

!ヒント

登録内容が本機のインターネットラジオ画面に反映されるまで時間がかかることがあります。この場合は、インターネットラジオ画面でリモコンの RETURN ボタンを押し、ラジオ局のリスト表示を更新してください。

インターネットラジオを聴く

以下の手順でインターネットラジオを聴くことができます。インターネットラジオを聴くには、ホームネットワーク（LAN）経由でインターネットに接続できる環境が必要です。また、以下の準備がすべて完了している必要があります。

- 本機のネットワーク設定をする（☞112ページ）
- 本機をホームネットワーク（LAN）に接続する（☞114ページ）

!ヒント

まだホームネットワーク（LAN）を構築されていない方、ホームネットワーク（LAN）をご存知でない方は、まず「ホームネットワーク（LAN）について」（☞ 111 ページ）をご覧ください。

1

AMP ボタンを押してから INPUT SELECTER の NET/USB ボタンを何度か押して、「インターネットラジオ」を表示させる

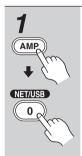
登録されているインターネットラジオ局がリスト表示されます。

!ヒント

- お好みのインターネットラジオ局を登録することができます。登録方法は 118、119 ページをご覧ください。この画面で SETUP ボタンを押して登録することもできます。

2

REMOTE MODE の NET/USB ボタンを押してリモコンを NET/USB モードに切り替える

3

▲/▼ ボタンを押してインターネットラジオ局を選び、ENTER ボタンを押す

放送されている番組がリスト表示されます。

4

▲/▼ ボタンを押して聴きたい番組を選び、ENTER ボタンを押す

選択した番組の情報が表示され、受信が開始されます。

!ヒント

- RETURN ボタンを押すと、受信を中止してひとつ前の画面に戻ります。
- インターネットラジオの操作については、「リモコンボタンの名前と働き（NET/USB モード）」（☞ 19 ページ）をご覧ください。

本機のリモコンで他の製品を操作する

本機に付属のリモコン（RC-689M または RC-692M）で、他社の製品を操作したり、連続した操作を学習させることができます。操作するには、次の 3 つの方法があります。

- **他機（DVD、テレビ、ビデオなど）のリモコンコードを登録する**
- **他機のリモコンから指定した操作を学習させる**
- **マクロ機能を使って連続した操作を学習させる**

リモコンコードを登録する

他機のリモコンコードを本機リモコンの「REMOTE MODE ボタン」に登録すると、本機のリモコンで他機を操作することができます。
リモコンコード表は、122、123 ページをご覧ください。
それぞれのカテゴリーからコードを選んでください。
該当するコードが見当たらない場合は、126 ページをご覧になって手動で登録してください。

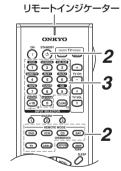
ご注意

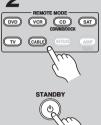
- 他社の MD レコーダーと CD レコーダーのコードは、「CD」REMOTE MODE ボタンに登録してください。
- AMP（TAPE）ボタンと NET/USB ボタンには登録できません。

オンキヨー製品のコードを登録するときは…

RI 接続用と非接続用の 2 種類のコード番号があります。
RI 接続用のコード番号を登録したときは、本機のリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。
RI 非接続用の場合はそれぞれの機器に向けて操作してください。

「DVD」......5001　お買い上げ時の設定
　　　　　　5002（RI 接続用）
「CD」.........6001　お買い上げ時の設定
　　　　　　6002（RI 接続用）
「MD」........6007
　　　　　　6008（RI 接続用）
「CDR」......6005
　　　　　　6006（RI 接続用）
「DOCK」...6003
　　　　　　6004（RI 接続用）

1

登録する他機のメーカー別リモコンコード（4 桁）を 122、123 ページのリモコンコード表で確かめる

2

登録したい REMOTE MODE ボタンを押しながら、STANDBY ボタンを押す

リモートインジケーターが 1 回点滅した後、点灯します。

3

30 秒以内に、数字ボタンで 4 桁のリモコンコードを入力する

リモートインジケーターが 2 回点滅したら、登録完了です。

4

他機を操作する

登録した機器に向けて操作してください。

!ヒント

- 正しく動作しない場合は、もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある機器は、他のコードも試してください。
  動作しない操作ボタンには、他機のリモコンから学習させることもできます。（☞ 126 ページ）

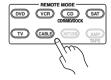
REMOTE MODE ボタンのお買い上げ時の設定（初期設定）への戻しかた

1. お買い上げ時の設定に戻したい MODE ボタンを押しながら、TV（I/⏻）ボタンを押します。
2. リモートインジケーターが 3 回点滅し終わってから、もう一度その MODE ボタンを押すと、その MODE ボタンが 2 回点滅し、お買い上げ時の設定に戻ります。

リモコンをお買い上げ時の設定に戻すには

リモコンをお買い上げ時と同じ状態に戻すには、以下の操作をしてください。

1. AMP ボタンを押しながら、STANDBY ボタンを押します。
2. リモートインジケーターが 5 回点滅し終わってから、もう一度 AMP ボタンを押します。
   リモートインジケーターが 2 回点滅し終わったら、設定完了です。

本機のリモコンで他の製品を操作する

リモコンコード表　*複数のコード番号があるときは、1 つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。*

DVD ボタン　DVD

■ DVD プレーヤー

ブランド名	コード番号
デノン	0517, 1661
フナイ	0702
日立	0600, 0691, 0722
ビクター／ JVC	0585, 0650, 1191
ケンウッド	0517, 0561
LG	0618, 0768, 1933
マランツ	0566
三菱	0548, 1548
オンキヨー	0530, 0654
パナソニック／テクニクス	0517, 0659, 1389, 1489, 1517, 1789, 1861, 1935, 2017
フィリップス	0530, 0566, 0673, 0702, 0881, 1185, 1367
パイオニア	0552, 0598, 0658, 0659, 1992
サムスン	0517, 0600, 0847, 0926, 1102
サンヨー	0697, 0722
シャープ	0657, 0702
ソニー	0560, 0891, 1097, 1560, 2008, 2047
ティアック	0598, 0744, 0817
東芝	0530, 0722, 1181
ヤマダ	0899, 1031, 1185
ヤマハ	0517, 0566

■ DVD レコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	0517
フナイ	0702
ビクター／ JVC	1191
LG	0768
パナソニック／テクニクス	0517
フィリップス	0673, 1185
パイオニア	0658
サムスン	0517
シャープ	0657, 0702
ソニー	1097
ヤマダ	1185

CD ボタン　CD CDR/MD/DOCK

■ CD プレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	0184
デノン	0653, 0900
日立	0059
ビクター／ JVC	0099
ケンウッド	0064, 0653, 0708
マランツ	0056, 0184, 0653
オンキヨー	0895
パナソニック／テクニクス	0056, 0330
フィリップス	0184, 0653
パイオニア	0059, 0332
サンヨー	0206
シャープ	0064, 0888
ソニー	0027, 0517
ヤマハ	0517

TV ボタン　TV

■テレビ

ブランド名	コード番号
富士通	0710, 0836
フナイ	0198, 0207, 0291
日立	0036, 0057, 0119, 0132, 0136, 0172, 0183, 0190, 0205, 0252, 0508, 0535, 0575, 0605, 1064, 1172, 1283
ビクター／ JVC	0398, 0490, 0535, 0633, 0677, 0680, 0710
LG	0057, 0064, 0087, 0135, 0205, 0741
マランツ	0057, 0064, 0081, 0583
三菱	0057, 0120, 0135, 0177, 0181, 0205, 0207, 0263, 0539, 0863, 1277
パナソニック／ナショナル／松下	0064, 0078, 0081, 0190, 0235, 0253, 0535, 0677
NEC	0036, 0057, 0078, 0181, 0183, 0197, 0205, 0291, 0482, 0535, 1731
オリオン	0064, 0263, 0470, 0490, 0907

ブランド名	コード番号
フィリップス	0027, 0057, 0064, 0078, 0081, 0119, 0135, 0205, 0401, 0583, 0717, 1481
パイオニア	0136, 0190, 0193, 0314, 0706, 0787, 0893
サムスン	0036, 0057, 0064, 0087, 0117, 0119, 0181, 0183, 0205, 0235, 0253, 0291, 0397, 0583, 0614, 0645, 0729, 0793, 0839, 0841, 1657
サンヨー	0131, 0172, 0181, 0183, 0207, 0235, 0291, 0535
シャープ	0036, 0057, 0120, 0677
ソニー	0027, 0677, 1127, 1532, 1678
東芝	0036, 0062, 0087, 0120, 0172, 0181, 0183, 0291, 0535, 0645, 0677, 1283, 1383, 1535, 1683, 1731

VCR ボタン (VCR)

■ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	0027, 0064, 0375, 0379
フナイ	0027
日立	0027, 0064, 0068, 0069, 0267
ビクター／ JVC	0068, 0072, 0094
LG	0064, 0069, 0072
マランツ	0062, 0108
三菱	0068, 0070, 0094, 0108, 0834
NEC	0062, 0064, 0068, 0075, 0094, 0131
オリオン	0211, 0375, 0379, 1506
パナソニック	0062, 0252, 0253, 0641, 0643, 1062, 1089, 1589
フィリップス	0027, 0062, 0108, 0253, 0645, 1108, 1208
パイオニア	0069, 0094, 0108
サムスン	0072, 0267, 0459
サンスイ	0027, 0068, 0094, 1506
サンヨー	0074, 0131, 0267
シャープ	0075, 0834
ソニー	0027, 0059, 0060, 0062, 0663, 1259
東芝	0068, 0069, 0070, 0072, 0094, 0108, 0872
ヤマハ	0068

CABLE ボタン (CABLE)

■ケーブルテレビ

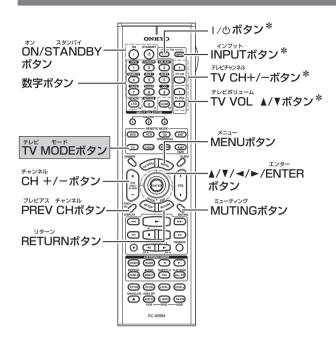
ブランド名	コード番号
パイオニア	0904, 1904
Scientific Atlanta	0504, 0904, 1904

SAT ボタン (SAT)

■衛星放送チューナー

ブランド名	コード番号
日立	0482, 0846, 1311
ヒューマックス	1203, 1454
ビクター／ JVC	0802
三菱	0776
パナソニック	0274, 0728, 0874, 1331
パイオニア	0356, 0880, 1335
ソニー	0666, 0874, 1585, 1666, 1667
東芝	0776, 0817, 1776

本機のリモコンで他の製品を操作する

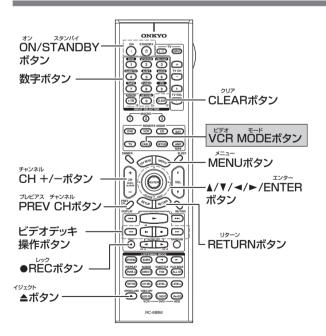
TV モード(本機に接続したテレビを操作するとき)

1. TV MODE ボタンを押す

2. 各操作ボタンを押す

ON/STANDBY	：テレビの電源 ON/OFF
0、1～9	：数字ボタン
MUTING	：テレビのミューティング
CH＋/−	：チャンネル選択
PREV CH	：1 つ前のチャンネルに戻る
▲/▼/◄/►	：テレビの設定メニュー操作
ENTER	：テレビの設定メニュー操作
MENU	：テレビの設定メニュー操作
RETURN	：テレビの設定メニュー操作

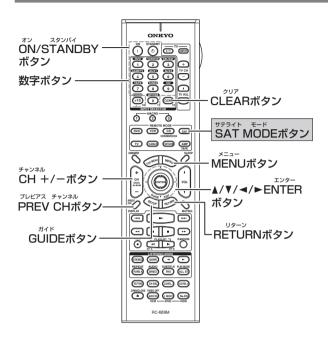
＊ のついたボタンは、どのリモコンモードのときでもテレビを操作できます。

TV VOL ▲/▼	：テレビの音量調整
TV CH＋/−	：チャンネル選択
TV I/⏻	：テレビの電源 ON/OFF
TV INPUT	：テレビの入力切換

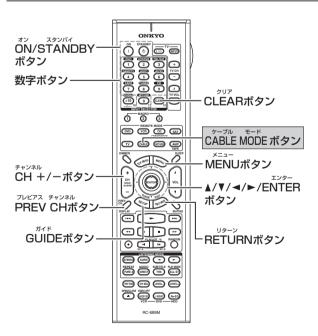
VCR モード(本機に接続したビデオデッキを操作するとき)

1. VCR MODE ボタンを押す

2. 各操作ボタンを押す

ON/STANDBY	：ビデオデッキの電源 ON/OFF
CH＋/−	：チャンネル選択
►	：再生
■	：停止
►►I	：巻戻し
I◄◄	：早送り
II	：一時停止
● REC	：録画
0、1～9	：数字ボタン
PREV CH	：1 つ前のチャンネルに戻る
▲/▼/◄/►	：ビデオデッキの設定メニュー操作
ENTER	：ビデオデッキの設定メニュー操作
MENU	：ビデオデッキの設定メニュー操作
RETURN	：ビデオデッキの設定メニュー操作
CLEAR	：設定を取り消す
⏏	：ビデオテープを取り出す

SAT モード（本機に接続した BS チューナーを操作するとき）

1. SAT MODE ボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

ON/STANDBY	： BS チューナーの電源 ON/OFF
CH ＋ / −	： チャンネル選択
0、1 ～ 9	： 数字ボタン
▲/▼/◄/►	： BS チューナーの設定メニュー操作
ENTER	： BS チューナーの設定メニュー操作
MENU	： BS チューナーの設定メニュー操作
RETURN	： BS チューナーの設定メニュー操作
CLEAR	： 設定を取り消す
PREV CH	： 1 つ前のチャンネルに戻る
GUIDE	： ガイドメニューを表示する

CABLE モード（本機に接続したケーブルテレビチューナーを操作するとき）

1. CABLE MODE ボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

ON/STANDBY	： ケーブルテレビチューナーの電源 ON/OFF
CH ＋ / −	： チャンネル選択
0,1 ～ 9	： 数字ボタン
▲/▼/◄/►	： ケーブルテレビチューナーの設定メニュー操作
ENTER	： ケーブルテレビチューナーの設定メニュー操作
MENU	： ケーブルテレビチューナーの設定メニュー操作
RETURN	： ケーブルテレビチューナーの設定メニュー操作
CLEAR	： 設定を取り消す
PREV CH	： 1 つ前のチャンネルに戻る
GUIDE	： ガイドメニューを表示する

ご注意

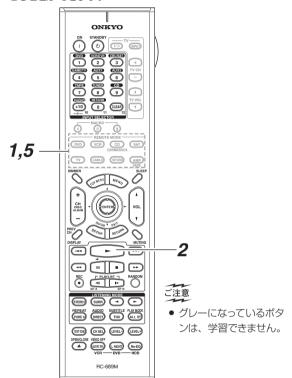
- 機器やメーカーによっては、動作が異なったり、動作しない場合があります。動作しないボタンには、他機のリモコンから操作を学習させてください。（☞ 126 ページ）

本機のリモコンで他の製品を操作する

他機のリモコンから指定した操作を学習させる

他機のリモコンの操作を1つずつ転送し、本機のリモコンに学習させることができます。
121 ページでリモコンコードを登録した後で、不足している操作や追加したい操作を 1 つずつ学習させると便利です。たとえば、他機の CD プレーヤーのリモコンから再生機能を転送し、本機リモコンの CD モードの再生ボタンに学習させることができます。

ご注意

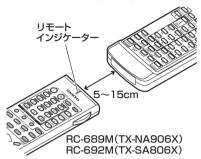
- グレーになっているボタンは、学習できません。

1 **学習させたいREMOTE MODE ボタンを押しながら、ON ボタンを押す**

リモートインジケーターが点灯します。

2 **RC-689M または RC-692M に学習させたい操作ボタンを押す**

REMOTE MODE ボタン、MACRO 1 ～ 3 ボタン、TV I/⏻ 、TV INPUT、TV CH＋/－、TV VOL ▲/▼、LIGHT ボタン以外のボタンから選んでください。

3 **学習させる他機のリモコンボタンを押す**

他機のリモコンと本機のリモコン（RC-689M または RC-692M）を 5cm ～ 15cm 離して置き、他機のリモコンボタンを本機のリモコンに向かって押し続けます。

正しく学習できるとリモートインジケーターが 2 回点滅します。

4 **別の操作ボタンを学習する場合は、手順 *2*、*3* をくり返す**

5 **学習を終了する場合は、手順 *1* で押した REMOTE MODE ボタンを押す**

ご注意

- REMOTE MODE、MACRO [1]、[2]、[3]、TV CH [+]/[–]、Re-EQ、LIGHT ボタンは学習できません。
- お手持ちの TV の電源ボタンの機能を学習させたい場合は、リモコンの REMOTE MODE [TV] ボタンを押し、TV リモートモードに切り換えて STANDBY ボタンをご使用下さい。TV リモートモードでは STANDBY ボタンと TV [I/⏻] ボタンは連動しており、リモートモードを TV にして STANBDY ボタンを記憶させると TV [I/⏻] ボタンも同じ動作をします。
- また、TV CH [+]/[–] ボタンに機能を学習させたい場合は、リモコンの REMOTE MODE [TV] ボタンを押し、TV リモートモードに切り換えて ENTER ボタン左の CH [+/–] ボタンをご使用ください。TV リモートモードでは ENTER ボタン左の CH [+/–] ボタンと TV CH [+]/[–] ボタンは連動しており、リモートモードを TV にして ENTER ボタン左の CH [+/–] ボタンに記憶させると TV CH [+]/[–] ボタンも同じ動作をします。
- 本機のリモコンは、基本的に 70 ～ 90 個の操作を学習できます。他機のリモコンによっては、ひとつのボタンで多くのエリアを使用する場合があります。その場合、学習できるエリアは 70 ～ 90 個より少なくなります。
- 本機のリモコンは、オンキヨー製ＣＤプレーヤー、チューナー、テープデッキ、ＤＶＤプレーヤーのコードをすでに記憶しています。これらのボタンに他のコードを記憶させることもできますが、リセットすると元のコードに戻ります。
- コードが登録されているボタンに、新しいコードを上書きして記憶する時も同じ手順で操作します。
- 本機のリモコンはほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- 電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

マクロ機能を使って連続した操作を学習させる

マクロ機能とは

連続した操作を 1 つのボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続した CD プレーヤーを再生するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1. **REMOTE MODE ボタンの AMP ボタンを押す**
   リモコンをアンプモードにします。
2. **ON ボタンを押す**
   本機の電源を入れます。
3. **INPUT SELECTOR ボタンの CD ボタンを押す**
   本機の入力を CD に切り換えます。
4. **REMOTE MODE ボタンの CD ボタンを押す**
   リモコンを CD モードにします。
5. **► ボタンを押す**
   CD プレーヤーを再生します。

これらの操作を下記の手順でマクロ学習させると、1 つのボタンで操作することができます。

マクロを学習させる

MACRO1 ～ 3 ボタンにそれぞれマクロを学習させることができます。1 つのマクロに対して 8 つまでの操作が学習できます。

1

一番初めに学習させる操作の REMOTE MODE ボタンを押しながら、MACRO 1（または 2、3）ボタンを押す

リモートインジケーターが点灯します。

例：
REMOTE MODE ボタンの AMP ボタンを押す

2

記憶させたい操作ボタンを操作順に連続して押す

例：

ON ボタンを押す
↓
INPUT SELECTOR ボタンの CD ボタンを押す
↓
REMOTE MODE ボタンの CD ボタンを押す
↓
► ボタンを押す

3

手順 *1* で押した MACRO ボタンを押す

学習が完了します。

- 8 つ目の操作を学習するとリモートインジケーターが点滅し、自動的に学習を完了します。8 つよりも少ない操作を学習させるときは、最後に MACRO ボタンを押します。

ご注意

- マクロを学習させた後、そこに含まれるボタンに他の操作を上書き学習させると、誤動作の原因になります。再度マクロ学習を行ってください。
- 9 つ以上の操作を学習させることはできません。

- どのMACROボタンに何の操作を学習させたかをメモしておくことをおすすめします。

操作	マクロ 1	マクロ 2	マクロ 3
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

マクロを実行する

1

操作したい MACRO ボタンを押す

操作を学習させた MACRO ボタンが使用できます。

マクロを消去する

1. **REMOTE MODE ボタンの AMP ボタンを押しながら、消去する MACRO ボタンを押す**
2. **もう一度 MACRO ボタンを押して消去する**

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

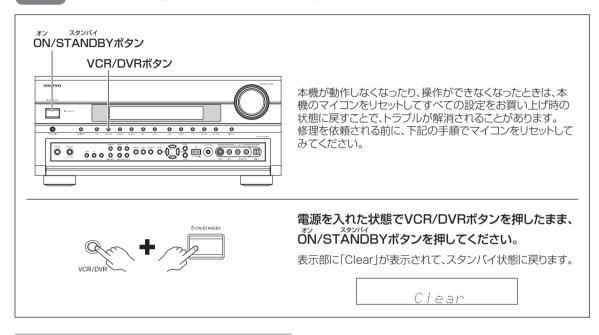
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法や FAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/

●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

!ヒント　修理を依頼される前にすべての設定をお買い上げ時に戻す

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機のマイコンをリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

電源を入れた状態でVCR/DVRボタンを押したまま、ON/STANDBYボタンを押してください。

表示部に「Clear」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5 秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。スピーカーコードがショートしていないかどうかアンプ背面端子、コード、スピーカー背面端子をご確認ください。**(25)**
  スピーカーコードをアンプ背面から外してもすぐに電源が切れる場合、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

音声が出力されない / 小さい

音声信号の設定はされていますか?デジタル音声入力端子の設定を正しく行ってください。**(57)**
HDMI 端子接続しているときは、HDMI の設定を確認してください。**(53)**

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子 / 出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの ⊕ / ⊖ は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。**(24)**
- 入力が正しく選択できているか確認してください。**(67)**
- MULTI CH 端子に音声信号を入力している場合、選択されている入力に正しい音声入力端子が割り当てられているか確認してください。**(60)**
- MULTI CH 端子に音声信号を入力している場合、音声入力に Multich が選択されているか確認してください。**(109)**
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的に−∞ dB、− 81.5dB…+ 18.0dB まで調整できます。一般のご家庭で − 32.0dB 前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。**(67)**
- 表示部に“MUTING”と表示されている場合はリモコンの MUTING ボタンを押して解除してください。**(68)**

- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。(68)
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定が OFF になっていることがあります。
- MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。(42)
- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。(109)
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。
- 簡単スピーカー設定をもう一度行うか、「スピーカーの設定」を手動で行ってください。(61 ～ 66、85 ～ 93)
- HDMI 入力した音声が出力されない場合は、プレーヤー側の出力設定を変更してください。

特定のスピーカーから音が出ない

テスト音は出ますか?

リモコンの AMP ボタンを押してから TEST TONE ボタンを押してテストトーンを出してください。CH SEL ボタンをくり返し押して、接続したすべてのスピーカーから個別にテストトーンが出ているか確認してください。
もう一度 TEST TONE ボタンを押すと、テストトーンは止まります。
- 大きな音が出るのでご注意ください。

スピーカーの音量レベル調整で、接続したすべてのスピーカーから個別にテスト音が出ているか確認してください。(89)

表示部にスピーカーの表示は出るが、テスト音が出ない
- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  コードが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テスト音も出ず、表示部にも表示されない
- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。もう一度簡単スピーカー設定をするか、「スピーカーコンフィグ設定」を手動で行ってください。(61 ～ 66、85)

テスト音は出るが、音が出ない
- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素(LFE)の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る
- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。(24、25)

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない
- テレビや AM 放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジック II またはドルビープロロジック IIx にすると、センタースピーカーに音が集中します。
- リスニングモードが「Mono」のとき、設定によってはセンタースピーカーからしか音が出ません。(94、95)

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない
- リスニングモードが「Stereo」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。
- リスニングモードが「Mono」のときは、設定によってはセンタースピーカーから音が出ません。(94、95)
- リスニングモードが「Mono」のときは、サラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーから音が出ない
- 入力ソースやリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーの音が出にくい場合があります。

サブウーファーから音が出ない
- 入力ソースにサブウーファー音声要素(LFE)が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聴くことができない

次のフォーマットの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。
DSD、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution、DTS-HD Master Audio、AAC

- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。(57)
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力が OFF になっていることがあります。

困ったときは

希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「入力信号の種類と対応するリスニングモード」でご確認ください。(76 ～ 82)

音量調整が +18.0dB 以下で終わる

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、設定画面を使ってスピーカーの音量レベル調整や、ボリューム設定の調整をした場合は、設定できる音量最大値が変わることがあります。(89、105)
- スピーカーの音場補正で、イコライザーモードによっては、音量最大値がさらに下がることがあります。(90)

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD のいずれかになっているか確認してください。(97)

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応の DVD プレーヤーを使用しているか確認してください。
- DVD プレーヤーの接続と設定を確認してください。
- AUDIO SEL ボタンを押して音声入力を「MULTICH」にしてください。(70)

DTS 信号について

- DTS 信号を再生しているときは、本機の DTS 表示が点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても DTS 表示が点灯したままになります。このため、DTS 信号から急に PCM 信号に切り換わるタイプのソフトは、PCM がすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約 3 秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部の CD または LD プレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しく DTS 再生ができない場合があります。出力されている DTS 信号に何らかの処理(出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など)が行われていると、本機が正しい DTS 信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS 対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

HDMI 入力音声が頭切れする

- HDMI 信号は、他のデジタル音声信号に比べてフォーマット認識に時間がかかるため、音の出だしが遅れることがあります。

映像

映像が出ない / 乱れる

- TV など、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- 前面パネルの PURE AUDIO インジケーターが点灯している場合は、LISTENING MODE ◄/► ボタンなどを押して、他のリスニングモードを選んでください。Pure Audio のリスニングモードになっていると、HDMI 出力以外の映像は出ません。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 映像機器と本機を HDMI 端子接続している場合は、本機とテレビも HDMI 端子接続をしてください。
- 映像機器と本機を D 端子接続している場合は、本機とテレビも D 端子、コンポーネント端子、HDMI 端子のいずれかに接続をしてください。(29)
- 映像機器と本機をコンポーネント端子接続している場合は、本機とテレビもコンポーネント端子、D 端子、HDMI 端子のいずれかに接続をしてください。(29)
- テレビを本機の HDMI OUT 端子に接続しているときはモニター出力設定(Monitor Out)を出力端子に合わせて「HDMI Main」または「HDMI Sub」に設定してください。再生ソースがビデオ(コンポジット)、S ビデオ、コンポーネントビデオの場合、HDMI OUT 端子から出力してテレビで映すには「HDMI 入力設定」を「- - -」にしてください。
- テレビを本機の HDMI OUT 端子に接続しているときは、HDMI 出力解像度の設定が、接続したテレビがサポートしている解像度とあっているか確認してください。(107)
- テレビを本機の HDMI OUT 端子以外に接続しているときはモニター出力設定(Monitor Out)を「Analog」に設定してください。再生ソースがビデオ(コンポジット)、S ビデオの場合、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力してテレビで映すには「コンポーネント映像入力設定」を「- - -」にしてください。(49、55)
- 再生機器を本機のいずれかの COMPONENT VIDEO IN 端子に接続したときは、テレビは必ず本機の COMPONENT VIDEO MONITOR OUT か HDMI OUT 端子に接続してください。(33、34)

- 再生機器を本機の HDMI IN 1 ～ IN 4 のいずれかの端子に接続したときは、テレビは必ず本機の HDMI OUT MAIN または HDMI OUT SUB に接続してください。(33)
- コンポーネントビデオ端子の設定により、VIDEO 端子や S VIDEO 端子に接続した機器の映像を D 端子やコンポーネント端子で接続した TV などのモニターに変換することができますが、ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり映像を表示しなくなる場合があります。この場合は D 端子やコンポーネント端子で接続した TV などのモニターに変換せず、VIDEO または S VIDEO 端子で接続してください。(34)

HDMI IN 1 ～ 4 に接続した映像が映らない

- モニター出力設定(Monitor Out)が「Analog」の場合は HDMI OUT 端子からは映像は出力されません。(49)

設定画面表示が出ない / 操作内容が画面に表示されない

- ご使用のテレビなどのモニター側の設定を確認してください。
- COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子や D4 VIDEO OUT 端子とテレビを接続しているときは、「コンポーネント映像入力設定」で「- - -」に設定してください。(55)
- 「その他設定」の「OSD 設定」で「イミディエイト表示」を「オン」にしてください。(105)

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性(⊕ / ⊖)が正しく入っているか確認してください。(20)
- 電池を 3 本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります。(20)
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- リモートモードの AMP ボタンを押したあと操作してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光(インバーター蛍光灯や直射日光)が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンの ID が合っているか確認してください。(107)

RI 専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

- 他のオンキヨー製機器と RI ケーブルが正しく接続されているか確認してください。RI ケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。(RI ケーブルだけでは正しく連動しません)
- もう一度、RI 専用リモコンコードを入力し直してください。(18)
- RI 専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。(14 ～ 19、124、125)
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。(例 : TAPE 端子に MD レコーダーや CD レコーダー、RI ドックを接続した場合や、AUX 1 端子に RI ドックを接続した場合)(59)

オンキヨー製機器(RI なし)や他メーカー機器の操作ができない

- 他機器との接続が正しいか確認してください。
- もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。(14 ～ 19、124、125)
- リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

リモコンの学習操作ができない

- リモコン送信部が正しく向き合っていることを確認してください。
- 学習できないリモコンを学習させようとしていませんか?コードを転送できないもの、1 つのボタンで複数の指示を出すリモコンは学習できないことがあります。

録音 / 録画

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。
- 信号がループして本機が損傷することを回避するため、入力信号は同じ端子の IN 端子から OUT 端子に通りません。

録画ができない

- 「Pure Audio」 リスニングモードを選択している場合は、映像回路がオフになるため、録画できません。他のリスニングモードを選択してください。

NET/USB 機能

ネットワークサーバーが使用できない

● INPUT SELECTOR の NET/USB ボタンを押し、本機の前面パネルの NETWORK インジケーターが点灯しているか確認してください。
● NETWORK インジケーターが点灯している場合、本機はホームネットワークに正しく接続されています。
ネットワークサーバーが起動しているか確認してください。
ネットワークサーバーがホームネットワークに正しく接続されているか確認してください。
ネットワークサーバーが正しく設定されているか確認してください。
● NETWORK インジケーターが点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。
ルータの LAN 側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。
本機の「ネットワーク設定」で正しい IP アドレスが割り当てられているか確認してください。

ネットワークサーバーで音楽ファイルを再生しているときに音が途切れる

● ネットワークサーバーが動作に必要な条件を満たしているか確認してください。
● パソコンをネットワークサーバーにしている場合、サーバーソフトウェア（Windows Media® Player 11 など）以外のアプリケーションソフトを終了させてみてください。
● パソコンで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。

インターネットラジオが聴けない

● 特定のラジオ局だけが聴けない場合は、登録した URL が正しいか、またラジオ局から配信されているフォーマットが本機の対応しているものか確認してください。
● INPUT SELECTOR の NET/USB ボタンを押し、本機の前面パネルの NETWORK インジケーターが点灯しているか確認してください。
● NETWORK インジケーターが点灯している場合、本機はホームネットワークに正しく接続されています。
モデムとルータが正しく接続され、電源が入っているか確認してください。
他の機器からインターネットに接続できるか確認してください。できない場合、ネットワークに接続されているすべての機器の電源をオフにし、しばらくしてからオンにしてみてください。
● NETWORK インジケーターが点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。
ルータの LAN 側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。
本機の「ネットワーク設定」で正しい IP アドレスが割り当てられているか確認してください。
● ISP によってはプロキシサーバーを設定する必要があります。
● お使いの ISP がサポートしているルータやモデムを使用しているか確認してください。

USB ストレージが表示されない

● USB メモリーや USB ケーブルが本機の USB 端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。
● USB ストレージを一旦本機から外し、再度接続してみてください。
● 本機の USB 端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。

インターネットブラウザで本機の情報を表示できない

● インターネットブラウザに本機の IP アドレスが正しく入力されているか確認してください。
IP アドレスの割り当てに DHCP を使用している場合、本機の IP アドレスが変わっている可能性があります。
● 本機とパソコンの両方が正しくネットワークに接続されているか確認してください。

NET/USB 機能の動作が不安定

● ネットワークの状況や USB 接続機器によって、本機の動作が不安定になる場合があります。その際は、本体の NET/USB セレクターボタンを押しながら、ON/STANDBY ボタンを押し、NET/USB 機能をリセットしてください。

その他

自動スピーカー設定中に「騒音が大きすぎます。」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

多重音声の言語を切り換えたい

- 「音声モード調整」の「多重音声 / モノラル」設定で主音声(Main)と副音声(Sub)を切り換えます。(94)

ヘッドホンを接続すると音が変わる / 表示が消える

- 「Direct」、「Pure Audio」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に Stereo 出力になります。

本体表示が出ない

- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると表示が消えます。

本体表示部が暗い /MASTER VOLUME つまみのまわりのライトが消える

- Dimmer 機能が働いていませんか? DIMMER ボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。(68)

電源を切ると各種の設定が元に戻ってしまいます。そのときには、ロックを解除したあと(☞ 108 ページ)、設定を変更してください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約 5 秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害(CD レンタル料等)については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機の主電源を OFF にしてから抜いてください。

用語集

音声フォーマット、リスニングモード

サラウンド(Surround)
ドルビーデジタルや DSP の音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル(Dolby Digital)
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから 5.1 チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。
DVD-Video の標準音声、米国 DTV の標準音声として採用されています。

ドルビーデジタル EX(Dolby Digital EX)
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の 3 つのセクション(左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド)に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の 5.1 チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジック II(Dolby Pro Logic II)
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を 5.1 チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジック IIx(Dolby Pro Logic IIx)
ドルビープロロジック II をさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を 7.1 チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビーデジタルプラス(Dolby Digital Plus)
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク(ブルーレイ、HD DVD)に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネルをサポートします。

ドルビー TrueHD(Dolby TrueHD)
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク(ブルーレイ、HD DVD)に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネル、192kHz のサンプリング周波数で最大 2 チャンネルをサポートします。

DSD(Direct Stream Digital)
スーパーオーディオ CD に採用された方式です。100kHz をカバーする再生周波数範囲と可聴帯域内 120dB 以上のダイナミックレンジが確保できるので、原音に近い音声で録音・再生ができます。

DTS デジタルサラウンド(DTS Digital Surround)
米国の DTS 社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常 4:1 程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期して CD-ROM に記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド
(DTS-ES Extended Surround)
従来の DTS5.1ch システムにセンターバックサラウンド(CS)チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ES には「DTS-ES ディスクリート 6.1ch」と「DTS-ES マトリックス 6.1ch」の 2 種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来の DTS5.1ch 対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート(DTS-ES Discrete)
5.1 チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応した DTS デジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した 6.1 チャンネル音声を再生する DTS システム。

DTS-ES　マトリックス(DTS-ES Matrix)
映画館における DTS-ES と同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して 6.1 チャンネルとする方式の DTS システム。

DTS Express
DTS 社が開発した最大 5.1ch、48kHz のロービットレート音声です。HD DVD のサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

DTS96/24
DTS96/24 フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1 チャンネル再生する DTS システム。サンプリング周波数 96kHz、量子化ビット数 24 ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ
(DTS-HD High Resolution Audio)
DTS 社が開発した、次世代高精細光ディスク(ブルーレイ、HD DVD)に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネルをサポートします。

DTS-HD マスターオーディオ（DTS-HD Master Audio）
DTS 社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネル、192kHz のサンプリング周波数で最大 5.1 チャンネルをサポートします。

Neo:6
DTS 社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての 2 チャンネルソースを 6 チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC（Advanced Audio Coding）は、AT&T 社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（FraunhoferIIS)、そしてソニー株式会社の 4 社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISO と IEC の共同管轄の下に、MPEG-2 規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来の MPEG 音声との後方互換性がないので、従来の MPEG 音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

THX
ルーカスフィルム (Lucasfilm) 社が提唱する劇場用音響の品質規格。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ / 残響音 / 音響機材 / スピーカーの設置位置など厳格な品質基準が設けられています。全世界で 5,000 を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。

THX ウルトラ 2/ セレクト 2 (THX Ultra2/Select2)
THX ウルトラ 2/ セレクト 2 は、従来の 5.1ch 音声の映画や音楽に対し、より大きなサラウンド感覚で再生できるよう考えられた 7.1ch 再生システムです。サラウンドチャンネルはリスナーの両横方向に設置された 2 つのダイポールスピーカー（左右サラウンド）とリスナー後方で近接して設置された 2 つのモノポールスピーカー（左右後方サラウンド）の 4 個のスピーカーでの再生が基本となっています。従来の 5.1ch ソースに対して、より拡がり感のあるサラウンド音場を提供するために、LS/RS の 2 チャンネルサラウンド信号に位相処理等を施して 4 チャンネルサラウンド信号を創り出す ASA（Advanced Speaker Array）と、低域ルームゲインの影響を補正するための B G C（Boundary Gain Compensation）の 2 つの処理が追加されました。また、再生モードも映画再生に適した THX Ultra2 Cinema モードと、マルチチャンネル音楽の再生に適した THX Music モード、ゲームソフトに適した THX Games モードの 3 つが用意されています。

THX サラウンド EX（THX Surround EX）
ルーカスフィルム社が、ドルビーデジタルサラウンド EX をホームシアター用再生システムとしてライセンスを行っている方式。映画館と同様にデコードされた左右サラウンドチャンネル信号からマトリックスデコーダーによってサラウンドバックチャンネル信号を取り出します。それぞれの処理にはホーム THX で定められた厳しい性能規格が適用されます。

用語集

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光(OPTICAL)デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸(COAXIAL)デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でRCAタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1 k Hzは1秒間に44100回、96 k Hzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため､この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

7.1ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ､真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー2つで7ch（7チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この8本のスピーカーを使って再生することを7.1chサラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤･白･黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Sビデオ
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはSビデオコードを使用します。テレビにS端子がある場合使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
S信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルを使用します。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

D端子
ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合使えます。
D1～D5までの解像度のランクがあり、D5がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く､コンポーネントと同レベルです。
映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

HDMI
32ページ参照。

主な仕様（TX-SA806X）

アンプ部

実用最大出力 (JEITA)
7ch × 250 W, 6 Ω , 1kHz ,1ch 駆動時

定格出力 (JEITA)
7ch × 180 W, 6 Ω , 20Hz ～ 20kHz, 0.08% , 1ch 駆動時

全高調波歪率
0.05 % (20Hz ～ 20kHz 定格出力時)

ダンピングファクター
60（フロント ,1kHz,8 Ω）

入力感度 / インピーダンス
200 mV / 47 k Ω（LINE）
2.5 mV / 47 k Ω（PHONO MM）

出力電圧 / インピーダンス
200 mV / 470 Ω(REC OUT）

PHONO 最大許容入力
70 mV（MM 1kHz 0.5%）

周波数特性
5Hz ～ 100kHz/ +1 dB ～− 3 dB（Direct モード）

トーンコントロール最大変化量
+10 dB, − 10 dB, 20Hz（BASS）
+10 dB, − 10 dB, 20kHz（TREBLE）

SN 比
110 dB（LINE,IHF-A）
80 dB（PHONO,IHF-A）

スピーカー適応インピーダンス
4 Ω～ 16 Ω

映像部

入力感度・出力電圧 / インピーダンス
1 Vp-p /75 Ω(コンポーネント、S ビデオ Y)
0.7 Vp-p /75 Ω(コンポーネント Pb/Cb、Pr/Cr)
0.28 Vp-p /75 Ω(S ビデオ C)
1 Vp-p /75 Ω(コンポジット)

コンポーネント映像周波数特性
5Hz ～ 100MHz − 3dB

総合

電源・電圧
AC 100 V, 50/60Hz

消費電力
660 W

待機時電力
0.1 W

最大外形寸法
幅 435 × 高さ 194 × 奥行き 458.5 mm

質量
23 kg

映像入力

HDMI	IN1, IN2, IN3, IN4
D4	IN1, IN2, IN3
コンポーネント	IN1, IN2, IN3
S ビデオ	DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX1, AUX2
コンポジット	DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX1, AUX2

映像出力

HDMI	OUT MAIN, OUT SUB
D4	OUT
コンポーネント	MONITOR OUT
S ビデオ	MONITOR OUT, VCR/DVR OUT
コンポジット	MONITOR OUT, VCR/DVR OUT

音声入力

デジタル	OPTICAL 2（後面）/1（前面） COAXIAL 3（後面）
アナログ	DVD（マルチチャンネル）, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX1, AUX2, TAPE, CD, TUNER, PHONO
マルチチャンネル	7.1

音声出力

デジタル	OPTICAL 1（後面）
アナログ	VCR/DVR, TAPE, PRE OUT(SURR BACK R, FRONT R, SURR R, CENTER, SURR L, FRONT L, SURR BACK L)
マルチチャンネルプリ	7
サブウーファープリ	1
スピーカー	メイン(SURR BACK R, FRONT R, SURR R, CENTER, SURR L, FRONT L, SURR BACK L) ＋SPEAKER B(FRONT R, FRONT L)
ヘッドホン	1

その他

音場制御用マイク	有り
RS232	1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

高調波抑制規格 JIS C61000-3-2 適合品

主な仕様（TX-NA906X）

アンプ部

実用最大出力 (JEITA)
7ch × 280 W, 6 Ω , 1kHz ,1ch 駆動時

定格出力 (JEITA)
7ch × 200 W, 6 Ω , 20Hz ～ 20kHz, 0.08% , 1ch 駆動時

全高調波歪率
0.05 % (20Hz ～ 20kHz 定格出力時)

ダンピングファクター
60（フロント ,1kHz,8 Ω）

入力感度 / インピーダンス
200 mV / 47 k Ω（LINE）
2.5 mV / 47 k Ω（PHONO MM）

出力電圧 / インピーダンス
200 mV / 470 Ω(REC OUT）

PHONO 最大許容入力
70 mV（MM 1kHz 0.5%）

周波数特性
5Hz ～ 100kHz/ +1 dB ～－ 3 dB（Direct モード）

トーンコントロール最大変化量
+10 dB, － 10 dB, 20Hz（BASS）
+10 dB, － 10 dB, 20kHz（TREBLE）

SN 比
110 dB（LINE,IHF-A）
80 dB（PHONO,IHF-A）

スピーカー適応インピーダンス
4 Ω～ 16 Ω

映像部

入力感度・出力電圧 / インピーダンス
1 Vp-p /75 Ω(コンポーネント、S ビデオ Y)
0.7 Vp-p /75 Ω(コンポーネント Pb/Cb、Pr/Cr)
0.28 Vp-p /75 Ω(S ビデオ C)
1 Vp-p /75 Ω(コンポジット)

コンポーネント映像周波数特性
5Hz ～ 100MHz － 3dB

総合

電源・電圧
AC 100 V, 50/60Hz

消費電力
770 W

待機時電力
0.1 W

最大外形寸法
幅 435 × 高さ 194 × 奥行き 458.5 mm

質量
24.3 kg

映像入力

HDMI	IN1, IN2, IN3, IN4
D4	IN1, IN2, IN3
コンポーネント	IN1, IN2, IN3
S ビデオ	DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX1, AUX2
コンポジット	DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX1, AUX2

映像出力

HDMI	OUT MAIN, OUT SUB
D4	OUT
コンポーネント	MONITOR OUT
S ビデオ	MONITOR OUT, VCR/DVR OUT
コンポジット	MONITOR OUT, VCR/DVR OUT

音声入力

デジタル	OPTICAL 2（後面）/1（前面） COAXIAL 3（後面）
アナログ	DVD（マルチチャンネル）, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX1, AUX2, TAPE, CD, TUNER, PHONO
マルチチャンネル	7.1

音声出力

デジタル	OPTICAL 1（後面）
アナログ	VCR/DVR, TAPE, PRE OUT(SURR BACK R, FRONT R, SURR R, CENTER, SURR L, FRONT L, SURR BACK L)
マルチチャンネルプリ	7
サブウーファープリ	1
スピーカー	メイン(SURR BACK R, FRONT R, SURR R, CENTER, SURR L, FRONT L, SURR BACK L) ＋SPEAKER B(FRONT R, FRONT L)
ヘッドホン	1

その他

音場制御用マイク	有り
RS232	1
ETHERNET	1
USB	有り / 1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

高調波抑制規格 JIS C61000-3-2 適合品

映像解像度表

入力信号の種類や解像度に対して、本機が出力する映像信号の種類や解像度を調べるときは、下記映像解像度表をご覧ください。

●：出力します

入力 ＼ 出力		HDMI[*1]					コンポーネント				S ビデオ	ビデオ（コンポジット）
		1080p	1080i	720p	480p	480i	1080i	720p	480p	480i	480i	480i
HDMI	1080p	●	●	●	●							
	1080i	●	●	●	●							
	720p	●	●	●	●							
	480p	●	●	●	●							
	480i	●	●	●	●	●						
コンポーネント	1080i	●	●	●	●		●	●	●			
	720p	●	●	●	●		●	●	●			
	480p	●	●	●	●		●[*2]	●[*2]	●			
	480i	●	●	●	●	●	●[*2]	●[*2]	●	●		
S ビデオ	480i	●	●	●	●	●	●[*2]	●[*2]	●	●	●	●
ビデオ（コンポジット）	480i	●	●	●	●	●	●[*2]	●[*2]	●	●	●	●

＊1 モニター出力設定（Monitor Out）（☞49 ページ）が「HDMI Main」または「HDMI Sub」のときのみ映像信号が出力されます。

＊2 Macrovision の効果が有効になっている信号の場合、出力は 480p に制限されます。

モニター出力設定（Monitor Out）が「Analog」のときのみ映像信号が出力されます。

モニター出力設定（Monitor Out）が「Analog」で、出力解像度の設定（☞ 52、53 ページ）が「スルー」のときのみ映像信号が出力されます。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お 名 前
- ▶ お 電 話 番 号
- ▶ ご 住 所
- ▶ 製 品 名 TX-SA806X/TX-NA906X
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。
詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　（　　）
メモ：

ONKYO®
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

http://www.jp.onkyo.com/

Y0809-2

SN 29344759A
(C) Copyright 2008 ONKYO CORPORATION Japan. All rights reserved.